平 成 ２ ２ 年 第 ３ 回

芦北町議会６月定例会会議録

開会　　平成２２年　６　月１５日

閉会　　平成２２年　６　月１６日


うたせ船

熊 本 県 芦 北 町 議 会

平成２２年第３回芦北町議会定例会会期日程

月　日	曜日	日　　程
６・１５	火	本会議（開　会） 諸般の報告 町長の提案理由説明 一般質問 （散　会）
１６	水	本会議（開　議） 議案審議 議員派遣の件 閉会中の継続審査・調査の申出 （閉　会）

目　　次

第１号（６月15日）　　頁
1　議事日程…… 3
2　出席議員氏名…… 3
3　欠席議員氏名…… 3
4　説明のため出席した者の職氏名…… 3
5　事務局職員出席者…… 4
6　開会　開議…… 14
日程第１　会議録署名議員の指名…… 14
日程第２　会期の決定について…… 14
日程第３　諸般の報告…… 14
日程第４　町長の提案理由説明…… 14
日程第５　一般質問…… 15
（１）宮内道則議員第１回目一般質問…… 15
○竹﨑町長答弁…… 17
○竹田建設課長答弁…… 17
（２）宮内道則議員第２回目一般質問…… 18
○竹﨑町長答弁…… 18
（３）宮内道則議員第３回目一般質問…… 19
（１）坂本登議員第１回目一般質問…… 19
○竹﨑町長答弁…… 22
○本山教育委員長答弁…… 24
○竹浦教育長答弁…… 24
○大岩福祉課長答弁…… 25
○迫本住民生活課長答弁…… 25
（２）坂本登議員第２回目一般質問…… 25
○竹﨑町長答弁…… 26
（３）坂本登議員第３回目一般質問…… 26
○竹﨑町長答弁…… 27
（４）坂本登議員第４回目一般質問…… 27
○竹﨑町長答弁…… 27
（５）坂本登議員第５回目一般質問…… 28

（１）林田燿宏議員第１回目一般質問…… 28
○竹﨑町長答弁…… 32
○本山教育委員長答弁…… 32
（２）林田燿宏議員第２回目一般質問…… 33
（１）川尻成美議員第１回目一般質問…… 35
○竹﨑町長答弁…… 37
○井上企画財政課長答弁…… 37
○竹浦教育長答弁…… 38
（２）川尻成美議員第２回目一般質問…… 38
○竹﨑町長答弁…… 39
（３）川尻成美議員第３回目一般質問…… 40
○井上企画財政課長答弁…… 40
（４）川尻成美議員第４回目一般質問…… 40
○井上企画財政課長答弁…… 40
（５）川尻成美議員第５回目一般質問…… 41
○井上企画財政課長答弁…… 41
○竹浦教育長答弁…… 41
（６）川尻成美議員第６回目一般質問…… 42
○井川総務課長答弁…… 42
（７）川尻成美議員第７回目一般質問…… 42
○竹﨑町長答弁…… 43
（８）川尻成美議員第８回目一般質問…… 43
○竹﨑町長答弁…… 43
（９）川尻成美議員第９回目一般質問…… 43
○竹﨑町長答弁…… 44
(10) 川尻成美議員第10回目一般質問…… 45
○竹﨑町長答弁…… 45
（１）平松洋一議員第１回目一般質問…… 46
○竹﨑町長答弁…… 47
（２）平松洋一議員第２回目一般質問…… 48
○竹田建設課長答弁…… 49
（３）平松洋一議員第３回目一般質問…… 49
○竹田建設課長答弁…… 49
（４）平松洋一議員第４回目一般質問…… 49

○竹﨑町長答弁…… 50
（５）平松洋一議員第５回目一般質問…… 50
○竹﨑町長答弁…… 50
（６）平松洋一議員第６回目一般質問…… 51
○竹﨑町長答弁…… 51
（７）平松洋一議員第７回目一般質問…… 51
○竹﨑町長答弁…… 52
（８）平松洋一議員第８回目一般質問…… 52
○竹﨑町長答弁…… 52
（９）平松洋一議員第９回目一般質問…… 52
○竹田建設課長答弁…… 53
○竹﨑町長答弁…… 53
(10) 平松洋一議員第10回目一般質問…… 54
○竹﨑町長答弁…… 54
(11) 平松洋一議員第11回目一般質問…… 55
○竹﨑町長答弁…… 55
（１）寺本順一議員第１回目一般質問…… 55
○竹﨑町長答弁…… 57
○竹浦教育長答弁…… 57
（２）寺本順一議員第２回目一般質問…… 57
○竹浦教育長答弁…… 58
（３）寺本順一議員第３回目一般質問…… 58
○竹浦教育長答弁…… 58
（４）寺本順一議員第４回目一般質問…… 58
○竹浦教育長答弁…… 58
○中原生涯学習課長答弁…… 58
（５）寺本順一議員第５回目一般質問…… 59
○竹﨑町長答弁…… 60
（６）寺本順一議員第６回目一般質問…… 61
日程第６　陳情第４号　選択的夫婦別姓制度法制化に反対する意見書の提出を求める陳情書…… 61
７　散　会…… 62

第２号（６月16日）

１　議事日程…… 65
２　出席議員氏名…… 66
３　欠席議員氏名…… 66
４　説明のため出席した者の職氏名…… 66
５　事務局職員出席者…… 67
６　開　議…… 68
日程第１　承認第５号　専決処分の承認を求めることについて
平成２２年度芦北町一般会計補正予算（第１号）…… 68
日程第２　報告第１号　継続費繰越計算書について…… 69
日程第３　報告第２号　繰越明許費繰越計算書について…… 70
日程第４　報告第３号　有限会社あしきたマリンサービスの経営状況の報告について…… 71
日程第５　報告第４号　有限会社御立岬の経営状況の報告について…… 75
日程第６　議案第23号　平成２２年度芦北町一般会計補正予算（第２号）…… 82
日程第７　議案第24号　平成２２年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）…… 89
日程第８　議案第25号　芦北町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について…… 91
日程第９　議案第26号　芦北町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について…… 92
日程第10　議案第27号　芦北町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について…… 95
日程第11　議案第28号　熊本県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更について…… 96
日程第12　議案第29号　芦北町立公園条例の一部を改正する条例の制定について…… 98
日程第13　議案第30号　芦北町営住宅管理条例の一部を改正する条例の制定について…… 98
日程第14　議案第31号　町道の路線認定について…… 99
日程第15　議案第32号　工事請負契約の変更について…… 100
日程第16　諮問第２号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて…… 104

日程第17　諮問第３号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて…… 104
日程第18　発議第５号　選択的夫婦別姓制度法制化に反対する意見書案…… 105
日程第19　議員派遣の件…… 106
（一括議題＝日程第23まで）
日程第20　総務常任委員会の閉会中の継続審査及び特定事件（所管事務）調査の申出…… 107
日程第21　建設経済常任委員会の閉会中の継続審査及び特定事件（所管事務）調査の申出…… 107
日程第22　文教厚生常任委員会の閉会中の継続審査及び特定事件（所管事務）調査の申出…… 107
日程第23　議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申出…… 107
７　閉　会…… 107

平成２２年第３回芦北町議会定例会議事日程（第１号）

平成２２年６月１５日
午前１０時　開　　会
於　　議　　場

１　議事日程

開会宣告

日程第１　会議録署名議員の指名
日程第２　会期の決定について
日程第３　諸般の報告
日程第４　町長の提案理由説明
日程第５　一般質問
日程第６　陳情第４号　選択的夫婦別姓制度法制化に反対する意見書の提出を求める陳情書

（散　会）

２　出席議員（１６人）

１番　坂　本　　登　君	２番　林　田　燿　宏　君
３番　宮　内　道　則　君	４番　寺　本　順　一　君
５番　古　村　逸　男　君	６番　白　坂　康　浩　君
７番　草　野　安　道　君	８番　前　田　徹　一　君
９番　元　山　秀　志　君	10番　宮　尾　秀　行　君
11番　平　松　洋　一　君	12番　川　尻　成　美　君
13番　水　口　宣　之　君	14番　岡　部　恵美子　君
15番　寺　本　修　一　君	16番　藤　井　公　明　君

３　欠席議員（０名）

４　説明のため出席した者の職氏名（１７人）

町　　長	竹　﨑　一　成　君	副　町　長	藤　崎　正　司　君
教育委員長	本　山　　嵩　君	教　育　長	竹　浦　裕　道　君
総　務　課　長	井　川　良　一　君	企画財政課長	井　上　民　男　君
田浦基幹支所長	早　川　純　一　君	税　務　課　長	農　中　　豊　君
住民生活課長	迫　本　文　雄　君	商工観光課長	坂　梨　　優　君

福祉課長	大岩憲治君	農林水産課長	柳田豊彦君
建設課長	竹田茂幸君	上下水道課長	山本正博君
教育課長	永田光洋君	生涯学習課長	中原豊徳君
会計管理者兼 会計室長	野口博司君		

5　職務のため出席した事務局職員の職氏名（２人）

議会事務局長	福山勝廣君	次長（係長）	岡田謙治君

議 長 諸 般 の 報 告

１　例月現金出納検査結果報告書（別紙のとおり）

２　水俣芦北広域行政事務組合議会

期　日　　平成２２年３月１８日（木）

場　所　　水俣芦北広域行政事務組合２階講堂

議　題

・平成２１年度水俣芦北広域行政事務組合一般会計補正予算（第４号）

（原案可決）

・物品購入契約の変更について

（原案可決）

・平成２２年度水俣芦北広域行政事務組合一般会計予算

（原案可決）

・水俣芦北広域行政事務組合火災予防条例の一部を改正する条例の制定について

（原案可決）

３　第３５回町村議会議長・副議長研修会

期　日　　平成２２年５月１８日（火）～５月１９日（水）

場　所　　東京都　メルパルクホール

内　容　　講演及びシンポジウム

４　平成２２年度町村議会議長研修会

期　日　　平成２２年５月２６日（水）

場　所　　自治会館

議　題　　講演「鳩山政権と参院選の行方」

上記のとおり報告します。

平成２２年６月１５日

芦北町議会議長　　藤　井　公　明

議員派遣の結果報告

１．第３５回町村議会議長・副議長研修会

（１）目　　的　　分権時代に対応した議会の活性化に資するため

（２）派遣場所　　メルパルクホール

（３）期　　間　　平成２２年５月１７日から１９日までの３日間

（４）派遣議員　　副議長

（５）内　　容　　５月１８日（講演）

○「地域主権改革とまちづくり」

内閣総理大臣補佐官　逢坂誠二　氏

○「森林管理・自然環境保全とまちづくり」

日本森林管理協議会代表　太田猛彦　氏

○「伝統文化を生かしたまちづくり」

（株）桝一市村酒造場代表取締役　セーラ・マリ・カミングス　氏

５月１９日（シンポジウム）

○「議会の活性化とまちづくり」

コーディネーター	全国町村議会議長会事務局次長	岡本　光雄　氏
パネラー	北海道今金町議会議長	山本　　豊　氏
	神奈川県葉山町議会議長	鈴木　道子　氏
	長野県小布施町議会議長	越　　将俊　氏
	福岡県苅田町議会議長	武内幸次郎　氏

上記のとおり、結果を報告する。

平成２２年６月１５日

芦北町議会議長　　藤　井　公　明

芦町監第８号
平成２２年６月７日

芦北町議会議長　藤　井　公　明　様

芦北町監査委員　山　下　生　吾
同　　古　村　逸　男

例月現金出納検査の結果に関する報告の提出について

地方自治法第２３５条の２第１項の規定により例月現金出納検査を実施したので、同条第３項の規定により、その結果に関する報告を下記のとおり提出します。

記

１．検査の対象
会計管理者の権限に属する現金（歳計現金、一時借入金及び基金並びに歳入歳出外現金）の出納及び保管

２．検査現在期日
平成２２年６月３日

３．検査実施日
平成２２年６月７日

４．検査の結果及び意見
検査現在期日における歳計現金及び基金並びに歳入歳出外現金（一時借入金なし）の保管状況は、預金通帳、保管現金及び現金保管状況一覧表と照合した結果すべて符合し相違ないこと及び適正に処理されていることを確認した。
また、出納事務については、現金出納にかかる証拠書類及び関係帳表と照合、検査の結果、計数に誤りはなく何ら不正非違の点も見受けられず、すべて適正に処理されていることを認めた。
なお、参考まで検査現在期日における現金の現在高は、次のとおりである。

一般会計・特別会計	歳　計　現　金	3,944,560,199　円
	一　時　借　入　金	0　円
	基金に関する現金	3,749,036,772　円
	歳入歳出外現金	50,054,110　円
	計	7,743,651,081　円
水　道　事　業　会　計		262,056,346　円

平成２２年第３回定例会一般質問通告表

質問順番	質問者	質問事項	質問の要旨	質問の相手
1	宮内　道則	1　県道芦北坂本線改良工事について	1）平成22年度施行予定箇所の「用地買収」の見込みはあるのか。 2）第２期工事は、あと何年ぐらいで完了する見込みなのか。 3）矢櫃坂の未改良区間（江口興産の事業所入口から峠の水のみ場付近）の内、３カ所あるカーブの拡幅工事について。	町　長 町　長 町　長
		2　企業誘致について	芦北町の企業誘致の現況について、お尋ねしたい。併せて、地元に優良企業を誘致する考えはないか。	町　長
2	坂本　　登	1　生活保護世帯について	①　生活保護世帯数及び世帯率の、ここ５年間の推移をお答え下さい。 ②　生活保護を申請する際、町と県との関係はどのようになっているのか。 ③　町として町民の最低のくらしを守るため、個々の家庭の状態を掴むためどのように努力をしておられるのか。	町　長 担当課
		2　就学援助制度について	①　就学援助制度はどのようなものか。 ②　町として就学援助制度の適用基準はどのようになっているのか。現在、小・中学校の準要保護世帯数及び児童・生徒数はいくらか。また、全児童生徒に対する適用率はいくらか。 ③　保護者に対する制度の周知はどのように行われているのか。	教育委員会
		3　球磨川護岸治水対策事業の促進について	①　川辺川ダム建設、荒瀬ダム撤去問題は大型公共事業の見直し、環境復元などの視点から事業の変更が検	町　長

			討されている。現状をどう認識し、町としてどのように関わっていくべきか。町長のご所見は。 ② 環境復元を求める住民の強い要望のもとで荒瀬ダム撤去の方向が確定した。今後、球磨川流域だけでなく、八代、不知火海全域にわたって魚介類の生育に与える影響は極めて大きいと思う。荒瀬ダム撤去につづき瀬戸石ダム撤去が今後の課題となるのは必至だと思う。 同時に球磨川流域の治水、護岸工事が継続的に行われることになる。町長は関係自治体とも連携をとり環境復元型の公共事業の促進を国に働きかけるべきだと思う。その際、中央の大手ゼネコンだけが受注するのではなくて地元業者を中心に事業が行われるようなシステムをつくるよう働きかけて欲しいが如何か。	
		４ 水俣病問題について	① 特措法の周知徹底、被害者への相談窓口の増設、職員の配置等万全の対策を講じていただきたいが如何か。 ② 患者、被害者多発地域の町長として安心して住みやすい住環境の整備、差別や偏見の解消、施設の整備などどのように考えているか。 ③ 町が主催して水俣病問題シンポジウムを開いて欲しいが、町長のご所見は如何か。	町 長 担当課
３	林田 燿宏	１ 豊かな心の人づくりについて	① 芦北町総合計画の豊かな人づくりで知・徳・体のバランスの取れた教育が必要とあり、教職員の研修派遣やスポーツの向上、国際交流など知・体については、積極的な取り組みがな	教育委員長

			されているが、徳育についての考えと、今後、どのように推進する考えか。 ②　「子は宝」と言います。子育ての基本は家庭にあると思いますが、最近、家庭の存在が希薄になりつつあります。徳育教育の基礎は家庭の教育力であります。子は親の鏡、親の後姿を見て育つといいます。県でも「くまもと家庭教育10か条」が出来ているようだが、本町でも、独自の家庭教育の大切さをアピールする考えはないか。	
		2　男女共同参画計画について	男女共同参画社会では「男女が協力してより良き社会作りに参画していく」ということですが、実際多くの国民は「男女平等」「女性の社会進出」と同じだと理解し、好ましく受けとめられています。性差も否定しておられるようですが、性差がなくなれば、家庭は成り立たなくなってしまいます。５月に第３回公聴会が各地でありました。その中で、家庭崩壊など危機感を持つ女性の皆様から多くの反対意見が出ましたが、本町でも、社会状況の変化や計画の進捗状況に応じて随時必要な時、見直しを行うとありますが、「男女がそれぞれの特性を生かし合い協力し合ってより良き社会作りに参画」していく為に、見直す考えはあるか？	町　長
		3　選択的夫婦別姓制度について	民主党政権になり、再度、夫婦別姓制度導入の法案が浮上してきました。夫婦別姓は、子供の豊かな心に大変影響があります。家庭、地域、国家にまで影響があると思います。まして親、子供の絆が薄れ、無責	町　長

			任な結婚・離婚が増え悲しい思いをする子供たちが増えると思います。これについての考えは。	
4	川尻　成美	1　スクールバスの一般利用への無料開放について	熊日新聞の報道によると、「佐敷校区の民間路線バス運行廃止に対して、従来の路線バスと同じダイヤでスクールバスを運行して、一般町民に無料開放した。」「そのために１月中旬から40日間に亘って町が調査した結果、最大12人の利用者であった。」とのことである。 1）この施策の計画と利用者調査の結果等について、町議会に報告し説明すべきではなかったか。 2）１月の調査の結果と６月１日～昨日までの一般町民の利用状況は、どうなっているのか。 3）文部科学省からの補助を受けてのスクールバスの運行であるが、本来の小中学生の登下校に何ら支障はないといえるのか。	町　長 町　長 教育委員長
		2　本町総合計画の後期基本計画と実施計画について	本町の急速な人口減少、そして、産業及び就業構造における１次２次産業から、第３次産業への著しい移行の現状をふまえて、総合計画の後期基本計画と実施計画を策定したものと考える。 1）その具体的施策はどの項にどのように組み入れているのか。 2）本町の第１次産業、そして地場産業である第２次産業を守り育てる魅力ある本町独自の中長期的施策を打ち出す考えはなかったのか。 また、今後考えはないのか。	町　長 町　長

5	平松　洋一	1　本町に於ける河川管理実態と対応について	本町を流れる多くの河川の河床に葦が繁茂し、更に土砂が堆積し、年々、葦が広がりをみせ、水の流れを阻害し、ゴミや流木の溜り場もみられる。今後、集中豪雨などで下流域に２次災害の恐れさえ懸念される。 １）河川管理の実態をどの様に把握しているか。 ２）葦の除去（刈取）が、相当の年数に亘り放置されているが、その対策をどの様に考えているか。又、河床堆積土の掘削、除去はどの様に行っているか。 ３）河川の一部は県の管轄にあるが、これまでどの様な連携や申し入れを行ってきたか。 ４）今後、地域住民の理解と意識高揚と協力が必要と思うが、考えはないか。	町　長 町　長 町　長 町　長
		2　本町に於ける一斉清掃の実態と今後の対応について	本町では、各行政区毎に一斉清掃が行われたり、行われなかったりバラバラで旧来型の地域コミュニティが衰退している。今後、町民の行政参画と意識高揚にとどまらず、教育、社会福祉等々、種々な面で地域が一体となり、共に助け合う地域コミュニティ構築が必要と思える。 １）一斉清掃の実態について、どの様に把握しているか。 ２）芦北町独自の仮称「町民一斉美化清掃の日」を設定する考えはないか。	町　長 町　長
6	寺本　順一	児童、生徒のスポーツクラブ活動に対する体育施設（グラウンド・体育館等）の使用料の	児童、生徒のスポーツクラブ（社会体育）活動におけるグラウンド・体育館等の使用料について、現在、徴収しているが、「子育て支援」により無料化に出来	教育長 町　長

		無料化について	ないか。	

開会　午前１０時００分

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

◯議長（藤井公明君）　おはようございます。

ただいまから平成２２年第３回芦北町議会定例会を開会します。

これより本日の会議を開きます。

お手元に配付の議事日程にしたがって会議を進めてまいります。

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

日程第１　会議録署名議員の指名

◯議長（藤井公明君）　日程第１「会議録署名議員の指名」を行います。

本定例会の会議録署名議員は、会議規則第１１６条の規定により、３番　宮内君及び４番　寺本順一君の２名を指名します。

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

日程第２　会期の決定について

◯議長（藤井公明君）　日程第２「会期の決定について」を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、先に開催されました議会運営委員会において、６月１６日までとの答申をいただいております。本日から６月１６日までの２日間にしたいと思います。御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

◯議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、本定例会の会期は、本日から１６日までの２日間に決定しました。

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

日程第３　諸般の報告

◯議長（藤井公明君）　日程第３「諸般の報告」を行います。

例月現金出納検査結果、議員派遣の結果報告及び閉会中に出席した議長の諸般の報告内容は議席に配付のとおりです。

以上で諸般の報告を終わります。

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

日程第４　町長の提案理由説明

◯議長（藤井公明君）　日程第４、町長の提案理由説明を求めます。竹﨑町長。

◯町長（竹﨑一成君）　おはようございます。

本日ここに、芦北町議会６月定例会の招集を申し上げましたところ、議員各位におかれましては、御出席を賜り、ありがとうございました。

例年より、２週間遅れで梅雨に入りましたが、まだまだ本格的な雨は降っておりません。降雨量にあっては、例年並であることを願いたいものであります。

それでは、本定例会に付議しました議案につきまして説明申し上げます。

まず、清掃センター芦北事業所解体整備事業及び湯北地区排水対策事業に係る継続費繰越計算書、強い農業づくり交付金、選果機整備事業をはじめ、道路改良事業、小中学校耐震改修事業等に係る平成２２年度芦北町一般会計の繰越明許費、繰越計算書の報告並びに有限会社あしきたマリンサービス及び有限会社御立岬の経営状況の報告書を提出しております。

また、平成２２年度芦北町一般会計予算をはじめ、芦北町国民健康保険事業特別会計予算に係る補正予算２件、芦北町職員の勤務時間、休暇等に関する条例ほか４件の一部を改正、熊本県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更について、更に町道の路線認定、工事請負契約の変更について、合計１０議案と２件の人事案件も併せて提案しております。

御審議いただき、議決賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（藤井公明君）　町長の説明が終わりました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第５　一般質問

○議長（藤井公明君）　日程第５、一般質問を行います。

質問通告者は６人で、通告表はお手元に配付しております。質問時間は従来どおり、補助質問を含めて３０分以内に制限します。

それから、一般質問は通告制でありますので、通告者の質問に関連して求める関連質問は許可されません。

質問にあたっては、通告内容に基づいた質問をされるよう、なお執行部の答弁におきましても簡潔かつ明解に願います。

それでは、順番に発言を許します。

はじめに、宮内君。

○３番（宮内道則君）　おはようございます。

私は、一般質問の通告書によりまして、２つの質問をさせていただきたいと思います。

まず第１点は、現在、宮浦地区で工事が進められております県道芦北坂本線改良工事についてでございます。当事業は、着工から足かけ１０年余りが経過しておりまして、その間、幾多の困難を乗り越え、地元期成会並びに地権者、そして県芦北地域振興局、更に芦北町の支援を受け、そして関係者の御協力をいただき、ここに第１期工事が完成いたしまして、第２期工事へと計画が進められているところでございます。そういうわけで、竹﨑町長には更なる御指導と御協力を賜り、この第２

期工事も早期に完成することができますよう、地元住民に代わりましてお願いをするものでございます。

そこで、竹﨑町長にお尋ねをいたします。平成２２年度施工予定の用地買収について、その見込みはあるのかどうかをお尋ねいたします。

次に、この第２期工事はあと何年ぐらいで完了する見込みなのかお尋ねをいたします。

次に、この県道芦北坂本線で、このヘアピンカーブの多い矢櫃坂のカーブの拡幅についてお尋ねをいたします。当矢櫃坂の未改良区間のうち、江口興産事業所の前付近から峠の下の水飲み場付近までのカーブ３カ所が一番の難所でありまして、このカーブの拡幅工事については、早急に施工をお願いいたしたいと思います。

なお、当箇所は非常に幅員が狭いため、車が離合する際は、お互いが譲り合って通行しているという状況でございます。よって、この解消を早急に図っていただき、事故等が発生する前に何とか解決できますようお願いをするものでございます。

次の第２点は、企業誘致についてでございます。竹﨑町長には日頃から芦北町民の雇用について、格別の御尽力をいただいていることに対し、衷心より敬意を表するものでございます。特に近年厳しい雇用状況の中で、芦北町は国・県の補助を受け、緊急雇用創出基金事業を活用しながら、２年間継続して７８名余の雇用が生じております。さらに、一昨年誘致させた東海カーボン株式会社の工場増設による誘致は、地元の若い男性４４名が雇用されております。また、半導体の検査工程を専門とするテラプローブの企業誘致では、前の会社を引き継ぐ形で１５０名余りの雇用も生まれ、町内はもとより、県内外から注目を浴び、記憶に新しいところでございます。

さて、現在の雇用状況はと申しますと、まだまだ非常に厳しい状況にあると思いますが、竹﨑町長のこれまでの長い行政経験と実績をもとに、この企業誘致について、責任をもって実践していただくものと確信いたしているところであります。

そこで、竹﨑町長にお尋ねをいたします。芦北町の企業誘致の現況についてと、地元に優良企業を誘致する考えはないかという質問の通告によりお尋ねをいたします。

まず、芦北町の企業誘致の現況につきましては、現在、町の方で把握されている内容で結構でございますので、お答えをいただきたいと思います。

次に、地元に優良企業を誘致する考えはないかという件につきましては、現在、芦北町には県外等に親会社や協力会社のある企業等が数社ございますが、これらの企業が将来、芦北町に誘致をしたいとか、あるいは増設の計画をしたいとか、そう

いう情報がある場合、いち早く情報を把握し、企業誘致につながるように持っていっていただきたいと思いますが、竹﨑町長、いかがでしょうか。

竹﨑町長の積極的な御答弁に御期待を申し上げ、私の質問を終了いたします。答弁による再質問は自席から申し上げます。ありがとうございました。

○議長（藤井公明君）　これより答弁を求めます。竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　宮内議員の御質問にお答えいたします。

まず、御指摘の芦北坂本線でございますが、この改良工事につきましては、熊本県に再三要望を重ね、平成９年に全体事業の計画を開始し、現在、県道芦北球磨線を起点に、約８００メートルが改良されております。今後とも、事業の進捗に向けまして、地元建設期成会とともに歩調を合わせて強力に要望してまいります。

以下、具体的な質問項につきましては、担当課長から答弁させます。

次に、企業誘致についてでございますが、この件につきましては、県内３８の自治体、民間１１６社で構成します熊本県企業誘致連絡協議会に本町も加入しておりまして、進出予定企業に関する有力情報の収集と情報の交換等を行い、企業誘致活動を推進しております。

本町におきましては、ただいま御発言がありましたように、平成１８年度、テラプローブ、２０年度に東海カーボンとの間で、県立ち会いのもと、立地協定を締結したところでありまして、それに応じまして芦北町企業立地促進補助金交付要綱に基づき、補助金を交付したところでございます。

町独自の活動といたしましては、平成２１年度は芦北町企業誘致パンフレットを作成、関東までの企業７００社に資料の送付とアンケート調査を実施いたしました。その結果、１１３社から回答を得ました、そのうち、将来的には可能性があるとしました１９社に対しまして、現在、誘致活動を続けております。２２年度も引き続き、前年度同様、企業誘致活動を強力に実施してまいります。

なおまた、宮内議員の言われる優良企業で、進出計画があるとすれば、調査をした中で県とも連携し、最善の努力をいたしたいと考えております。

以上、答弁に代えさせていただきます。

○議長（藤井公明君）　竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　御質問の第１点目、用地買収の見込みについてでございます。２期工事の計画延長は約４００メートル、地権者は８人で、芦北振興局土木部の方で個別にあたっておられますが、基本的に反対の意見はあっていないとのことでございます。

２点目、完了の見込み年度でございます。今年から数えて５年を目標にしているとのことでございます。

３番目でございます。矢櫃坂の３カ所あるカーブの拡幅工事についてでございますが、具体的な３カ所につきましては、町と期成会と現地の写真撮影をして、本年４月１９日に振興局土木部長及び担当課に要望を行い、翌月２０日に正式文書にて副申いたしました。県財政厳しき折ではございますが、今後もカーブの改良に向け要望をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　宮内君。

○３番（宮内道則君）　まず、町長より御答弁をいただきまして、ありがとうございました。県道芦北坂本線改良工事の平成２２年度の用地買収の見込みについての件は、ただいま大変御努力をいただいているということで、私の方も前向きな答弁と捉えまして、これでその件は質問を終わります。

それから、２番目の第２期工事はあと何年ぐらいで完了する見込みなのかとの件につきましては、約５年ぐらいというふうなお話でございました。これにつきましても、大変、県が事業主体でありまして、町といたしましては全面的な協力をする中での御指導でございますので、今後とも、町長がおっしゃいましたように、積極的に取り組んでいただきたいと思いまして、これも質問を終わります。

それから、３番目の矢櫃坂に３カ所あるカーブの拡幅工事につきまして、県道芦北坂本線改良工事の、ただいま５年かかるということでございましたが、この工事が実施になりますと、当然、矢櫃坂の方もですね、先に延びる懸念がございます。どうかそういうことで、県芦北振興局に対し、今まで以上の更なる御要望と御指導をいただきながら、早急に完成に結びつきますよう御指導いただきたいと思いまして、この点につきまして、町長から最後に１点だけお願いをいたします。

そして、企業誘致につきましては、ただいまお聞きしましたとおり、町長の方の大変な御努力と誠意ある御答弁をいただきましたので、私の質問は終わらせていただきます。

矢櫃坂の１点だけを、町長の方にもう一度お話いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　矢櫃坂の改良につきましては、地元の区長さんはじめ、住民の方々、また期成会の会長もなさっておられますが、本当に切望をされておられるところでありますし、本町といたしましても、改良がもう是非とも必要な箇所と位置付けております。宮内議員さんの今回の御指摘も受けまして、さらに強力に私どもも推進をしていただくように働きかけてまいりたいと思いますので、どうぞ一つ、議員さんも共にですね、我々と頑張っていただくようにお願いを申し上げたいと思

います。

○議長（藤井公明君）　宮内君。

○３番（宮内道則君）　ただいま竹﨑町長より、力強い誠意ある御答弁をいただきまして、私も微力ではございますが、地元住民の皆様のために・・・となるように努力してまいりますので、よろしくお願いしまして、質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（藤井公明君）　宮内君の質問が終わりました。

次に、坂本君。

○１番（坂本　登君）　皆さん、ご苦労さまです。

日本共産党の坂本登です。最初に、町民の皆さんの御支持を得て、日本共産党の初めての議席を与えていただきました。心より感謝を申し上げます。私は、町民の皆さんにお約束をした公約を果たすために、全力を挙げて頑張る決意です。竹﨑町長をはじめ、職員並びに先輩議員の皆さん方の御指導・御協力をよろしくお願いいたします。初めての経験で、分からないことばかりですので、答弁は分かりやすくお願いいたします。

今日、芦北町は高齢化、町民所得の減少の中で、多くの方々が先の見通しのきかない状況になっています。このような中で、町民の栄誉、暮らし、健康をどう守っていくのか、町が果たす役割は極めて重大だと考えます。このような考えのもとに、私見も述べながら、以下、いくつかの点についてお尋ねをいたします。町長をはじめ、執行部の前向きで明解な答弁をお願いいたします。

１、生活保護世帯について。日本は、この１０年で経済成長が止まった国、国民が貧しくなった国になってしまいました。先進国では日本だけであります。芦北町でも町民所得は平成１２年度、約４１６億円から、平成１９年度、約３５５億７,０００万円と、この７年間で約６０億円減少しています。５月２８日発表の総務省労働力調査によると、４月の完全失業率は５．１％、完全失業者数は３５６万人と、２カ月連続で後退し、悪化しています。

また、３月の生活保護世帯が厚生労働省の発表では、全国で約１３４万世帯、１７６万人に上っています。生活保護は受給要件が厳しいこともあり、厚労省が今年４月に発表した推計でも、基準で定める最低生活費を下回る所得しかない世帯の１５．３％しか受給してないことが分かっています。

今年の３月、私が田浦町で宣伝活動を行っていたところ、ある町民の方が駆け寄ってこられました。家族の具合が悪い、暮らしがやっていけない、助けてください、飛び込んでこられました。その場から水俣共立病院に連絡し、入院の手配をするとともに、水俣の市会議員の応援を得て、生活保護の申請をいたしました。その

他にも、家族を抱え、明日の食料にも事欠くくらい、生活に行き詰まっている方が、芦北町にはかなりおられます。

日本国憲法２５条は、すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有するとなっています。同条には、国に対し、社会福祉、社会保障の向上及び増進を義務付けています。地方自治法第１条２項には、地方公共団体の役割として、住民の福祉の増進を図ることを基本と定めています。

そこで、生活保護問題について、３点質問いたします。

①芦北町における生活保護世帯数及び世帯率のここ５年間の推移をお答えください。

②生活保護を申請する際、町と県との役割分担はどのようになっているのかお答えください。

③町として、町民の最低の暮らしを守るため、個々の家庭の状態を掴むため、どのように努力をしておられるかお答えください。

次の質問に入ります。２、就学援助制度について、昨年５月、町が行った政策に関する町民意識調査結果報告書によりますと、３の２、子育て支援の充実の中で、中学生以下の子どもをもつ世帯への子育てに対する不安は何かという問いかけに対し、約５９％の方は不安があると答えています。そして、不安の内容は、経済的不安が５３．３％、保育、教育環境１４．８％で、合わせて６８％です。平成１２年度から平成１９年度の７年間に、町の雇用者報酬は７６．７％に下がっています。町内では仕事がない、所得が下がったという子育て世代の方が増えています。子どもは国の宝、次の時代を背負う町の宝です。国、地方自治体等がもっと力を入れて、子育て世代を支援する必要があると思います。

憲法第２６条には、すべて国民は等しく教育を受ける権利があると定めています。第２項では、保護者の子女に教育を受けさせる義務と、義務教育は無償とすることが明記されています。この憲法２６条など、関係法に基づいて、国は小中学生のいる家庭に学用品費や入学準備金、給食費、医療費などを補助する制度として、就学援助制度を設けています。しかし、一般的にはこの制度が周知、活用されていないと思います。

そこで、就学援助制度について、３点質問いたします。

①就学援助制度とはどのようなものなのか、分かりやすく説明してください。

②町として、就学援助制度の適用基準はどのようになっているか。現在、芦北町の小中学校で準要保護世帯数はいくらか。また、全児童生徒数に対する適用率をいくらかお答えください。

③保護者に対する制度の周知はどのように行われているのかお尋ねします。

次の質問に入ります。３、球磨川護岸治水対策事業の促進について、熊本県の市町村別の統計によりますと、平成１２年度と１９年度を比較して、芦北町のすべての産業総生産の落ち込みは、平均８７．４％になっています。うち、建設業は８４．５％の落ち込みになっています。この間は西回り自動車専用道路の延長工事等大きな公共事業があったにも関わらず、平均を下回り、落ち込んでいます。国は、財政危機の中で、公共事業の打ち切り、削減、事業の見直しなどを行っており、さらに厳しい状況に追い込まれるものと考えます。私も１年半前まで生コン車の運転手として、建設業で働いていましたので、たくさんの知り合いもいますし、事情も分かります。現況は、事業者も、建設業で働く労働者も、日に日に深刻さが増しています。そこで、私の提言も含めて、いくつかお尋ねをいたします。

これまで、川辺川ダム建設事業は国家的プロジェクトとして長期間にわたって押し進められてきました。しかし、現状ではダム建設は断念、変更せざるを得なくなっています。さらに、環境復元を求める住民の強い要望のもとで、荒瀬ダム撤去の方向が確定をいたしました。このことは、今後、球磨川流域だけではなく、八代、不知火海全域にわたって、魚介類の生育に与える影響は極めて大きいと考えます。今後、荒瀬ダム撤去に続き、球磨川上流の芦北町高田辺の瀬戸石ダム撤去が課題となるのは必至だと思います。球磨川流域の治水、護岸工事が数十年にわたって継続的事業として行われることになると思います。

そこで、今日、地元建設業関係者の苦境から、営業、雇用を守る立場から、２点質問をいたします。

①川辺川ダム建設中止、荒瀬ダム撤去問題は、大型公共事業の見直し、環境復元などの視点から、事業の変更が検討されています。町長は、現状をどう認識しておられるのか、また町としてどのように関わっていくべきとお考えか、町長の御所見をお伺いします。

②町長は、関係自治体、地元建設業界とも連携をとり、環境復元型の公共事業の促進を国・県に働きかけるべきだと思いますが、いかがでしょうか、また、この際、中央の大手ゼネコンだけが受注をするのではなく、地元業者により多くの仕事が回ってきて、事業と雇用が拡大できるようなシステムをつくるよう働きかけてほしいと思いますが、いかがでしょうか。町長の御所見をお伺いします。

次の質問に入ります。４、水俣病問題について、国は５月１日から、水俣病被害者救済の特別措置法に基づく救済事業を始めています。御承知のとおり、現在、芦北町でも国が一方的に決めた汚染地域を中心に多くの被害者の方々が保健手帳の給付を受けています。今日、多くの町民が水俣病とは何か、自分自身とどのように関係があるのか、どう対応したらいいのか、真剣に考えておられます。特措法の施行

にあたって、多くの町民の方々が大きな関心を寄せています。しかし、内容がよく分からず、どう対応したらいいか、よく分からない方がたくさんおられます。

そこで、水俣病問題について、３点質問をいたします。

①特措法の周知徹底、被害者への相談窓口の増設、職員の配置等、町として万全の対策を講じていただきたいと思います。これについて、町としてどのような対応をしておられるのかお伺いします。

②水俣病患者被害者多発地域の町長として、安心して住みやすい住環境の整備、差別や偏見の解消、施設の整備など、どのように考えておられるか御所見をお伺いします。

③最後に、多くの町民が健康的、精神的にいろんな影響、被害を受けています。今日、水俣病とはどのようなものなのか、町民一人一人との関わり、また町や町民は何を教訓として後世に伝えるのか、真剣に見つめ直す絶好の機会だと考えます。被害者、医師、学者、弁護士、国、県の行政関係者等が一堂に会して、町が主催する水俣病問題シンポジウムを開いてほしいと思いますが、町長の御所見をお伺いします。

以上で、本壇からの１回目の質問を終わります。御答弁、よろしくお願いをいたします。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　まず、日本共産党　坂本登議員の今回の初当選、誠におめでとうございます。今後、存分の御活躍を御期待申し上げます。

まず、生活保護世帯についてのお尋ねでございますが、１と２につきましては、事務的な詳細な内容となっておりますので、担当課長より答弁させます。

３番、町として町民の最低の暮らしを守るための、どのような努力をしておるかというお尋ねでございますが、個々の家庭の把握についてでございますけれども、生活保護法では相談申請後、及び要保護決定後の調査に限り、県のみに権限が与えられておりまして、町は業務補助の立場になっておるわけでありますけれども、現状といたしましては、生活保護法２２条によります地区住民の生活状態を適切に把握され、生活相談等も受けておられます民生児童委員からの情報提供の協力と、また本人自らの相談や各方面からの情報を共有することによりまして、状態の把握に努めている状況でございます。

なお、町民の個々の家庭状態を把握することは、なかなか難しい面もございまして、プライバシーの侵害あるいは個人情報保護など、人権の面から難しいところであります。また、個々の家庭の収入は、世帯構成等で支出割合も違いますので、一概に収入の面から実態を判断できるものではないということではございますが、精

一杯状況把握のためにも、これからも努めてまいりたいなというふうに思っております。

続きまして、球磨川護岸治水対策事業の促進についてでございます。川辺川ダム建設につきましては、国土交通省で建設中止を決定されておりまして、現在、ダムによらない治水を検討する場におきまして、意見要望等を申し述べております。

荒瀬ダム撤去につきましては、国、熊本県、関係機関が協議している最中でありまして、その結果を見守っていきたいと考えております。

続きまして、３番、環境復元関連のお尋ねでございます。関係自治体とも連携をとり、環境復元型の公共事業の促進を国に働きかけるべきだということでございますが、まさにですね、環境に負荷をかけない、かけたとしてもですね、より少なくなるような、そのような事業の展開、公共事業のあり方、今後はそれが厳しく問われてくると思っております。私は、まったく同様の考えでおるわけでございますので、今後とも、共に行動できればなというふうに思っております。

なお、指名入札の件でございますが、１級河川の球磨川は、国の管理でありまして、私どもが聞き取り調査しましたところ、工事の発注方式は一般競争入札方式となっておりまして、資格審査基準に応じた資格を持っておれば、地元業者でも対応できるような工事については、規模に応じて、どの業者でも参加できるというシステムになっております。偏った受発注に対する対応が、現在問われておるわけでございますが、このような方式で現在やっておるということであります。

続きまして、水俣病問題であります。特措法の周知徹底につきましては、熊本県が説明主体となり、５月１０日に役場ときずなの里の２カ所、翌１１日には田浦基幹支所で説明会を実施したところであります。町といたしましては、更なる周知徹底を図るために、今後も説明会を開催するよう、県に対し要望しているところであります。相談窓口につきましては、従来、職員３名、専門相談員１名の計４名で対応しておりましたが、新救済受付開始以来、相談件数も急増しましたので、急遽、臨時的に５月末から週２日、県から職員を増派していただきまして、窓口及び電話相談に対応してまいりました。今後は、補正予算で専門相談員を２名措置させていただきまして、議決後は、職員３名、専門相談員３名の計６名で、増員して対応してまいります。

続きまして、患者被害者多発地域の住環境の整備等でございますけれども、まず住環境の整備でございますが、被害多発地域の住環境整備に関連した取組みとしましては、漁村再生交付金を活用した牛ノ水地区の漁村再生計画がございます。主な内容は、漁港の一部を埋め立て、加工場、物揚場、そして漁具保管のための用地造成を行います。また、埋立地と牛水地区を有機的に結び付けるために、臨港道路、

いわゆる海岸を走る道路を開設する計画であります。総事業費は４億円、期間は平成２６年度までであります。本年度は、実施設計を行うことにしております。

次に、差別や偏見の解消、施設の整備についてでございますが、町は総合的な意味でもやい直しを図るべく、女島埋立地に、仮称でありますが、女島活力推進センターの建設を予定しております。今年度は実施設計を行い、平成２３、２４年度の２年間で建設し、供用する計画であります。この総事業費は１億６，０００万円を予定しております。水俣病の患者団体の方々とも今日まで協議を進めつつ来ております。本施設では、さらなるもやい直しのほか、地域の活力アップ、住民の健康管理の推進を図ってまいります。

一方、社会福祉協議会では、きずなの里を中核施設としまして、過去においては、語り部にによる水俣病出前講座、現在ではもやいまつりや衣類のエコ、リフォーム等、健康のための太極拳の講座開設、その他地域や趣味の集まり、会議等に施設を開放するなど、少しでもその解消を図るべく、多様な取組みを継続しているところでございまして、町としてもその取組みを今後も支援してまいりたいと思っております。

次に町が主催して水俣病問題シンポジウムを開いたらどうかということでございますが、平成２１年度は９月２６日、町主催で芦北青少年の家文化ホールにおきまして、水俣病情報発信シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、３年前の平成１８年度から開催をしております。市町村自治体が主催して、水俣病シンポジウムを行っているのは、水俣市以外では本町だけではないかと思っております。

なお、本年度は、９月頃、水俣病語り部の方によりまして、講話をいただく機会をつくるよう予定をしております。

以下、具体的内容につきましては、担当課長が答弁をいたします。

以上、最初の質問の答弁に代えさせていただきます。

○議長（藤井公明君）　本山教育委員長。

○教育委員長（本山　嵩君）　就学援助についてお答えをいたします。

就学援助制度は、経済的な理由により、就学困難と認められる児童生徒の保護者に対しまして、義務教育に必要な学用品費、給食費等の一部を援助する制度であります。

町としての就学制度の適用基準、それから準要保護世帯数及び児童生徒数、適用率、制度の周知等につきましては、教育長からお答えをいたします。

○議長（藤井公明君）　竹浦教育長。

○教育長（竹浦裕道君）　適用基準についてお答えいたします。

世帯の収入額が需要額の１．２倍未満を認定基準としております。また、現在の

準要保護認定世帯は１１１世帯で、児童数８９人、生徒数７７人、児童生徒の認定割合は１２．３％です。

また、制度の周知についてでございますが、毎年、まちだよりに掲載しておりますし、学校では児童生徒を通じて制度案内を保護者に配布しております。また、新入学児の保護者に対しては、学校説明会等で制度案内を配布し、説明をしております。ちなみに、まちだより掲載、今年は平成２２年１月２７日に発行いたしております。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　大岩福祉課長。

○福祉課長（大岩憲治君）　生活保護世帯数について回答いたします。

平成１７年度が７０世帯、０．９１ポイントですね。２１年度、昨年度でございますが、８１世帯、１．０６％、１１世帯の増加となっております。世帯率では、０．１５ポイントの増となっております。

次に、２番目ですが、町と県の関係についてお答えいたします。本町の担当課は福祉課、県は芦北福祉事務所となっております。町は、最初の窓口相談と申請に必要な戸籍等の書類をまとめまして、申請書を受理し、県へ進達いたします。県は相談者兼申請者の自宅を訪問し、相談並びに調査を行います。この際、町へ同行を要請されます。その後、申請内容と調査結果により、県が生活保護の要否の決定を行います。なお、保護費の支給事務については、町が行っております。

以上です。

○議長（藤井公明君）　迫本住民生活課長。

○住民生活課長（迫本文雄君）　水俣病問題シンポジウムの内容について御説明します。

本町では、水俣病問題についてのソフト事業としまして、水俣病情報発信事業に取り組んでおりますので、本年度計画について御説明します。本事業は、うたせ船で水俣病を学ぶということで銘打ち、計画しております。その内容につきましては、水俣病発生の場所となった不知火海にうたせ船で出向き、再生した現在の状況を実体験すること、また再生された不知火海の安全・安心な魚介類を食することで、命の尊さを感じること、水俣病語り部による講話を主張することによって、水俣病の教訓を後世に引き継いでいくこと、この３つを組み合わせまして、事業を展開してまいりたいと思っております。

○議長（藤井公明君）　坂本君。

○１番（坂本　登君）　生活保護の問題と就学援助制度の問題は、国民の生存権を保障する権利として２つ一緒に２回目の質問をいたします。

生活保護世帯数が、今、答弁にありました１７年度は７０人、２１年度は８１人、１１人増えている。確実に増え続けている。私が昨日、税務課にお願いをし、１００万円以下、２００万円以下の人数を聞いてまいりました。１００万円以下の人数は1,０３６人、また１００万円から２００万円以下の人数が2,５８７人、両方合わせると、全体の５５.６％になります。

そこで、私は、今、芦北町におられる生の声を町長に聞いていただきたいと思います。私に相談に来られたある方は、もう子どもに定期券を買ってやることができない。親として、もう責任は果たせない。死のうと思っている。子ども４人は道連れにはできない。何とかしてください。また、ある家庭の主婦の方は、何も贅沢は望んでいないんです。安心して子どもを生み、育てられる町にしてほしいんです。それだけなんです。切実に私に訴えられました。

町長、数字だけでは計り知れない、町には実態があると思います。生の声を聞いて、どう思われますか。心は痛みませんか。町長、お考えをお答えください。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　もう全く坂本議員の受け取られた気持ちと一緒であります。これにつきましてはですね、国の景気も後退しております。経済状況も非常に悪い、そしてまた、国家財政のあの厳しい状況が勢い地方行政自治体まで及んでおるところでございまして、しかしながら、そういう中でも我々は限られた財源の中で、精一杯の努力をしていきたいということで、福祉政策その他の事業に取り組んでおるところでございますので、御理解を賜っておきたいと思います。

○議長（藤井公明君）　坂本君。

○１番（坂本　登君）　お金のある無しで、人の命を差別をしてはいけない。人にやさしいまちづくりとは、福祉の心がある町政と思います。財源は厳しい、そういって北九州では悲惨な、おにぎりが食べたいと言って餓死されました。先ほども申し上げましたが、私に駆け寄られた家族の田浦の方は餓死寸前でありました。こういう方がおられるということを、本当に真剣に考えていただきたい。このことを申し上げて、建設問題に入りたいと思います。

私が、あえて建設業業界の質問を申し上げたのは、従来、建設業界は大型公共事業などで、仕事がとれると思わされてきました。しかし、大型公共事業は大手ゼネコンの受注、地元は下請け、孫請けで、利益はゼネコンに吸い取られる構造にさらされてきました。もうこの矛盾は解決する時代に入っているのではないでしょうか。世論を地元業界の仕事に結びつくように、公共事業の構造を変える必要があるからです。町長は国の公共投資のあり方についても、地元業界に実のなるよう、国や県にはっきりものを言うべきと思います。先ほどの答弁に、発注の仕方が国が入

札する度合いが多い。地元の業者を仕事が取れるように育てていくのも行政の仕事だと考えますが、町長、いかがでしょうか。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　お尋ねの件につきましては、実はですね、もう以前から、地元選出の国会議員の先生方もおっしゃっておられました。新幹線であるとか、高速道路であるとか、そういったのは中央ゼネコンが取ってるじゃないか、なぜ熊本県内にもそういう技術、能力を持った業者がおるのに、地元に指名発注しないのかということで、そのやはり国会議員のレベルでもですね、そういった働きかけをされておったということを私は存じ上げております。それで、町は町で指名発注をするわけでありますが、極力、地場産業育成、そして地域経済を回すということから、地元発注を心がけております。国・県につきましてもですね、孫請け、下請けをするように働きかけるのは、ちょっといかがかと思いますので、地元でできることは地元でということをですね、また機会があれば要望してまいります。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　坂本君。持ち時間、あと２分少々になりましたのでまとめてください。坂本君。

○１番（坂本　登君）　建設業は、本当に事業者も、そこで働く労働者も、先行きの見えない状況になっています。生の声を一つだけ町長にお伝えをしたい、届けたい。従業員は、事業者の経営の本当に厳しい状況にあり、従業員は半分の班に分けられ、暇なときは半分は帰る、そして雨降りで仕事がないときは家に帰る、こういった働き方をして、月に十二、三万円、こういうので４人家族を見ている。そして、朝は早く出てきて、自分が首を切られないように、掃除をしたり、本当に顔色伺いのような状況になっている。自分はもう本当にノイローゼになりそうだと、こういうことを私に訴えられました。こういうことを本当に真剣に考えて、地元の要求に基づいて、地元の業者が潤う、そこで働く労働者が本当に幸せになれるように、仕事を発注していただきたいと思います。

時間がなくなりましたので、水俣病について、この特措法は地域や生まれた年月日で区切りをしている、まだ完全な救済法とはいえません。ここをどう町長は考えておられるのか、それだけをお答えください。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　なかなか難しい問題でありますが、やはりすべての水俣病問題に関わる方々の一日も早い全面的な救済、解決を願う者の一人であります。その私の心情は、どうぞお察しください。

○議長（藤井公明君）　坂本君。

○１番（坂本　登君）　時間がなくなりましたので、最後に一言申し上げて、質問を終わりたいと思います。

憲法１５条は、公務員は全体の奉仕者であって一部の奉仕者ではない、このことを肝に銘じて、今から私も頑張っていきたいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（藤井公明君）　坂本君の質問が終わりました。

ここで暫時休憩します。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

休憩　午前１１時０５分

再開　午前１１時１４分

－－－－－－－－○－－－－－－－－

○議長（藤井公明君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、林田君。

○２番（林田燿宏君）　この度は、議長の許可を得まして、一般質問をさせていただき、心から感謝申し上げます。

この度、私も３つの理念を掲げまして、この町議に出させていただきました。今回、その中の一つでもあります心の教育について質問させていただきます。

この心の教育といいますのは、私も１０年前、参議院選に出させていただきましたときに、このまま欧米諸国の真似をしていった日本は、将来どうなるのだろうかという思いがいっぱいでございました。今、その付けがますますひどくなっているように思います。

私も長年ＰＴＡの役員をさせていただいておりました。ここにもたくさんの経験者の方がおられます。御承知かと思いますが、ＰＴＡのスローガンには、大抵、子どもたちの健全な育成、健全な心の育成とあります。しかしながら、未だに全国では家庭内暴力や殺人など、考えられない事件が起こっております。また、不登校、いじめ、またフリーターや自殺者など、減る気配は一向にありません。それはなぜでしょうか。子どもの教育を学校や地域ばかりに任せていていいのでしょうか。心の悩みなど、家庭の原因とするところが多いとされております。

平成２０年の労働白書では、ニートも６４万人に増えております。十数年前までにはニートという言葉もございませんでした。子は親の鏡といいます。子どもは家庭で育てる、今、その家庭の存在が希薄になりつつあると思います。

そこで、まず最初の質問は、豊かな心の人づくりについてであります。

１、芦北町の総合計画の中に、後期基本計画にあります豊かな心の人づくりで、知・徳・体のバランスのとれた教育が必要とあり、本町も計画に沿って、教職員の

研修・派遣やスポーツの向上や国際交流など、知・体につきましては、多方面に積極的に取組みをされていますが、徳育についてはどのように考え、またどのように推進する考えか。

２番、日本の将来、地域の将来、またそれぞれの家庭の将来を考えたとき、昔から子どもは宝であるといいます。その子育ての基本は家庭にあると思いますが、最近、家庭という言葉が少なくなっていると思います。我が国では昔から胎教のとき既に１歳として年も数えておりました。また、三つ子の魂百までといわれるように、胎教時から３歳までは手塩にかけて育てるといわれておりました。

人は動物と違いますように、人は生まれてすぐは歩けず、およそ１年は母親がお乳をやりながら、またおむつを替えながら、その愛情を子どもの頃に注ぎ込み、育まれてきました。一時、母乳はお乳の形が崩れるという欧米の間違った思想で、母乳を無理矢理にやめた母親もいました。うちの知り合いのおばさんも、氷でおっぱいを冷やしておりました。そして、その数年後、訂正があり、今、やはり母乳がいいということでなっているようでございます。

そのように、豊かな心の人づくりには、家庭が基本であると思います。安倍首相のとき、１１月の第３日曜日として、家族の日ができました。そしてまた、毎月第３日曜日を家庭の日とあり、これは鹿児島から出来たものでございますが、積極的に取り組んでおられる県もあります。また、市町村でもあります。例えば、第３日曜日にレストランに行ったときには割引をするとか、あとは県の施設、美術館などへ行ったら１割引をするとか、そういうふうに家庭の日を取り組んでいる県もあります。熊本県では、幸い、熊本家庭教育１０か条が出来ているようでございますが、葦北郡では芦北町に子どものことを大変思っておられました湯治津尾子の碑があります。また、津奈木には親孝行の孝女千代塚があります。これこそ日本一の親孝行の教育をする環境に恵まれた地域と、この芦北を思います。そこで、芦北でも独自の家庭教育をする、そのアピールをする考えはないのか、これがまず心の教育の１点でございます。

２点目につきましては、男女共同参画計画についてでございます。先ほど家庭の絆が必要ということを話させていただきましたが、現在、社会構造の変化により、男女共同参画社会では男女が協力して、より良き社会づくりに参画していくということで、大変素晴らしいことだと思っております。

しかし、実際ちょっと違った解釈で、違う方向に向かっているように思いますので質問させていただきました。その中に性を無視したような男女平等、女性の社会進出といった、そういうことと同じだと誤解し、それが好ましいと受け取っておられる方もおられます。家庭において、子育てをしている母親が、自分だけ取り残さ

れているというような錯覚になり、そういうふうに大変誤解を生じているようにも思います。

現在、男女共同参画の名のもとに、男らしさ、女らしさを否定し、男女の区別にも基づく一切の社会通念、伝統を敵視し、それを解消しようとするジェンダーフリーという思想の考え方の人たち、それとフェミニスト論者たちの一部の考え方をこの国に持ち込もうとしているのであります。当然、国に持ち込んだら、町にも影響があります。そこで育った子どもたちは、将来どのような大人になるとお思いでしょうか。

しかし、先進諸国は既に失敗して、考えを出しております。その失敗を今、我が国でされようとしております。男女の性差がなくなれば、家庭は成り立たなくなってしまいます。子孫の繁栄も、国の繁栄もありません。

この自然は、すべてそれぞれの違う性質により、陰陽の調和によって成り立っています。性質が違うものが調和して違う働きをする。例えば、ここにある電気もそうでございますが、プラスとマイナスの電子、それが調和してこの光となります。水もそうでございます。燃える水素と燃える酸素が調和し、その燃えるものを消す水となります。そういうふうに、もともと生活がもう違ってきます。違って当たり前だと思っております。人も自然の一員であり、例外ではありません。

過日、ＮＨＫで、男と女はもともと脳の構造も違うし、体のつくりも違うし、思考も違うという研究のことが放映されていました。また、行きすぎたアメリカで、この反省に立ち、男の子だけのクラス、女の子だけのクラスということも放映をされておりました。

日本には、男の子のお祝いとして５月の端午の節句、女の子は３月のひな祭りとして、それぞれ男は男らしく、女は女らしく、健やかに育つよう、お祝いがありました。それぞれの違う特性が調和することこそ、本当の男女共同参画ではないかと思います。国の要は家庭であるといわれます。子どもの豊かな心の育成には、家族や家庭が大切です。この社会個人主義の考えを国や家庭まで持ち込むことこそ、憲法の公共の福祉に関わると思います。

芦北町も国や県の意向を受けて、平成２１年に芦北町男女共同参画計画ができました。幸い、芦北町の町民意識では、性別による役割分担の意識がまだまだ強い傾向にあるとありましたので、私自身はよかったなと思っております。

また、先月から第３回の公聴会が、東京や広島、福岡など、各地で行われましたが、近年、家庭崩壊などが増えつつあるという危機感をもった女性の皆様から、多くの反対意見があったと聞いております。そのように、男女共同参画は見直す時期にきているように思いますが、本町も社会状況の変化や計画の進捗状況に応じて、

随時必要な見直しを行い、より良い計画に取り組むとありますが、今後の計画を考えをお願いします。

続きまして、夫婦別姓の問題でございます。現在の夫婦同姓制度は、社会の基盤となる一体感のある家庭や家族を守り、子どもの健全な育成を願い、子孫により良き社会を残すための制度でございます。結婚に際し、同じ姓となり、これから新たな家族を築くという喜びをもつ夫婦の方の圧倒的な多数の意見があるのに、どうしてこんな考え方が出てくるのか私は不思議でなりません。

現在では、家族や地域社会など、共同体の意識の薄れやけじめのない無責任な結婚や離婚が増え、離婚率も上昇して、悲しい思いをするのは子どもたちです。この夫婦別姓は、家族や親族、地域社会という共同体を尊重するという考えではなく、個人主義の考え方を法制化するということはおかしい話です。

家庭には次世代を担う子どもたちを立派に育てるという大きな使命があります。一体感をもつ強い絆のある家庭に、健全な心をもつ子どもが育つものです。子どもの頃の健全な成長を考えたときに、夫婦や家族が一体感をもつ同一の姓であることがいいということは言うまでもありません。

この夫婦別姓論の方は、姓により不利益を受けると言っていますが、現在でも旧姓を通称として使用することで十分解消できます。参考までに、別姓を推進した国スウェーデンでは、１９６０年から、約５０年前ですけれども、個人の決定権、選択権を優先し、国家は干渉しないとしました。その結果、スウェーデンの現在、離婚率は５０％を超えております。その一方、同棲が一般化し、２０歳から２４歳のカップルでは、６１％が同棲をしております。そのため、毎年、生まれ出てくる新生児の５０％は非摘出子でございます。欧米社会の今日の姿は多様な家族であり、その実態は家族の崩壊でしかないことを教えています。

さらに、もう一つの問題は、個人の選択を優先することにより、子どもの世話もできず、障害者や寝たきり老人の介護など、国や自治体の社会福祉に頼るしかなく、税負担も日本の約２倍となっております。

アメリカでは、既に家族の回帰現象が起きております。例えば、クリントン大統領時代、家族の基盤が強いアメリカにつながると解き、同性愛の結婚を禁じました。アメリカは州でもちょっと違ってはまいりますけれども、今度は学校で制服を取り入れたり、先ほどのＮＨＫでの男のクラス、女のクラスができたりしております。

文明や社会、発明などが進歩しますが、どんなに進歩しても変わってはならないものはあります。この度、また、民主党は菅首相になりましたので、支持率が上がり、再度、このような法案が出てくる可能性があります。今まで、国もころころ変

わりますけれども、この芦北町だけはしっかりした教育をしていただきたいと思います。

このように、夫婦別姓は心の、子どもの豊かな人づくりに大変影響があるように思います。このことにつきまして、本町としての考えをお聞きしたいと思います。

以上、質問を終わらせていただきます。あとは自席によって質問させていただきます。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　林田燿宏議員につきましても、この度の初当選、誠におめでとうございます。持ち前の国家観をもって、お隣の坂本登議員に負けないように頑張っていただきたいと思います。

さて、御質問でございますけれども、男女共同参画社会の件であります。本計画は、平成２１年３月に本町では策定しておりまして、計画期間は２１年度から２５年度までの５カ年間としております。なお、計画につきましては、御質問のとおり、社会情勢の変化や計画の進捗状況に応じて、随時必要な見直しを行うこととしております。つきましては、今後も目的達成のため、積極的に事業を実施しながら、その進捗と成果を検証しつつ、芦北町男女で築く地域社会推進懇話会など、関係者からの御意見も拝聴した上で、計画の内容を高めてまいります。

続きまして、選択的夫婦別姓制度についてであります。本制度の導入につきましては、ご存じと思いますが、これまで国会においては、平成１０年６月、衆議院へ初めて法案が提出され、衆議院、参議院で、提出、廃案が繰り返されております。最近では、今国会への法案提出が議論されましたが、反対があり、提出に至っておりません。御指摘のように、子どもや家庭への影響等、これからさらに国民の間で議論が必要であると思いますし、現段階ではまだ導入の時期にないと思っております。

以上、私に求められた御質問について答弁をさせていただきました。

○議長（藤井公明君）　本山教育委員長。

○教育委員長（本山　嵩君）　林田議員の御質問にお答えをいたします。

徳育につきましては、道徳の時間のほか、ほとんどの教科授業の中で、日々、推進をしていただいております。特に、様々な体験活動等を通じて、生命の大切さ、相手を思いやる言葉遣いや態度、郷土愛、公共心、協調性の向上を目指した指導をしております。今後とも、指導方法や指導体制の工夫改善にさらに努め、子どもたちへの定着を図ってまいりたいというふうに考えております。

次に、家庭教育の大切さのアピールについてお答えをいたします。まずは、県が出しました熊本家庭教育１０か条の認知度の拡大を図り、家庭教育支援員を活用し

て、さらなる家庭教育の支援へ取り組んでいるところでございます。特に各家庭におきましては、１０項目目に我が家の教育目標、道徳目標というのを設定するようになっておりまして、そういうことを通じながら、より広め、深めていただければというふうに願っているところでございます。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　林田君。

○２番（林田燿宏君）　ありがとうございます。

それで、その家庭教育の件でございますが、私もこの前、実際、熊本県の家庭教育１０か条というのを見まして、ああ、こういうのがあったのかと思った次第で、聞いてみましたら、早くからあったということでございましたけれども、そういった認知がですね、まだまだ町民にもされていないんじゃないかと思いますので、この家庭の教育の大切さをですね、アピールする方法を本当に十分していただければと思います。

そして、やはり国がこのようにころころ変わってまいります。例えば、私たちが商業で大型規制法が緩和されて、大型店がラッシュをしました。そしたら、この度、中心市街地活性化法と、今度は中心地をせんといかんと。国は右に寄りすぎて、左に寄りすぎて、いつも後手ばかりの方策でございますので、芦北町ではやはり日本一の尊敬する教育づくりを是非実施していただくような、そういう事業をしていただければと思います。

そして、この家庭教育につきましては、以前、インドでオオカミ少年が発見されておりますけれども、このオオカミ少年を見たときに、何かおかしいのがいるなあと、オオカミの中にということで、その発見されて、捕まえてみたら人間だったと。そして、その子どもは、やはり人間のように歩いて、そして食事も手で食べるようにというふうにずっと指導したが、結局、直らずに、途中で死んだということで、やはり本当にその子どもは親を見て育ちますので、もう途中でなかなか直そうとしても直らないということを本に書いてありました。

そして、久徳クリニックの院長先生が、母原病という本を出されております。これは第１冊目から３冊ぐらいまで出ておりますけれども、これによりますと、子どもの病気の原因を調べたら、母親の心が子どもの心に影響するということが書いてありましたので、本当に今、家庭の教育というのを、本当に学校では精一杯されていると思います。ですから、そのへんのところを、一つ若いお母さんたちに教えていただければ有難いなと思います。今の子どもたちがまた母親になっていくわけでございますので、非常に心配しております。

それと、この男女参画でございますけれども、今ありましたように、２５年度で

見直しということでございますので、積極的にその男女の特別な特性を考えながら入れていただければ有難いなと思っております。

ちなみに、熊本市でも２１年４月１日に施行されました、この条例を３カ所ほど訂正をしてあります。やはりそういったことでですね、自民党の落水市議が訂正をということになっておりますので、そのへんのところもよろしくお願いしたいと思います。

そして、このことにつきまして、この夫婦別姓、そして男女参画運動というのは、一つの世界のその運動ということになっておりますので、ここに第４回北京世界女性会議が北京でありました。１９９５年でございます。このときに、参加者はやっぱりレズビアンとかジェンダーフリー論者が参加しておりました。このときに、その危機を危惧して、マザーテレサがメッセージを送っております。そのことでちょっと紹介させていただきます。マザーテレサですので、少し神という言葉も出て、祝福とか出てきますけれども、これは特定の宗教じゃないということで、そのまま読まさせていただきます。「親愛なる皆様。この女性会議の全参加者に神の祝福あらんことを祈っております。この会議により、皆様が女性の特別な役割を知り、それを愛し、自ら敬うことにより、女性たちが一生を通じて、その計画を実現することを望みます。私は、なぜ男性と女性がまったく同じであり、男女の間の素晴らしい違いを否定する人たちがいるのが理解できません。神様からの賜はすべて良きものですが、皆同じではありません。私ができることを、あなたにはできないし、あなたができることは、私はできない。男女の間の違いもちょうどそのようなものです。神様は、私たち一人一人をおつくりになりました。そして、さらに偉大なことに、互いに愛し、愛される存在にしてくださっています。それでは、なぜあるものを男性に、またあるものを女性に創造されたのでしょうか。女性の愛が一つの形であり、男性の愛ももう一つの愛の形であります。男性も女性も違った方法で愛を表現するようにつくられております。男女がそれぞれお互いを完成させ、一緒にその愛を完全に表すのです。これはどちらか一方だけではできないことです。母であることは、女性に対する贈り物です。この素晴らしい贈り物に対して、どれほど感謝しなければならないことでしょうか。どんな仕事も、計画も、財産も、自由というアイデアも、愛に取って代わるとはできません。母性という贈り物を破壊することは、神様の女性に対する最も貴重な贈り物、すなわち女性として愛する能力を破壊することです。この性別を否定する人たちは、世界に分裂と不幸をもたらし、平和を破壊するだけでしょう。女性と男性を同じくしようとする人たちは、皆、中絶に賛同的です。子どもたちが如何に愛し、・・学ぶ最良の場所は、母親、父親が愛し、祈りを見ることができる家庭であります。もし、家族、家庭が破壊さ

れ、不調和が生じたならば、愛することを知らないで、多くの子どもたちが育つことになります。そうした家庭崩壊が多く見られる国では、多くの問題を抱えています。しかし、家族の絆が強く、家庭が円満なときであれば、子どもたちは、父母の愛の中にまさに神様の愛を見て大きくなり、自分たちの国を愛すべき祈りに満ちた場所にしてくれるのです。子どもは家族への最大の贈り物であり、母親、父親の両方を必要としております。なぜなら、父親は父親らしく、母親は母親らしいやり方で愛を体現してみせてくれるからです。」ずっと続いていきますけれども、最後に「神の祝福があらんことを。マザーテレサ」ということで文章を終わっております。これが出たのは５年後に発表されておりますけれども、本当に世界のこのことを危惧して送られておりますので、どうぞそのことを参考にされまして、していただければと思っております。

そして、私ももう初めてでございますので、自分の思ったことをまず言わせてもらいまして、最後にまた、アインシュタインがですね、この日本が、世界が滅びる前には、世界が日本の名手にあるだろうという言葉も残しておりますので、この日本の文化と歴史を大切にした教育をしていただきたいと思っております。

そして、先ほど申しました、やはり日本一の心の教育を目指すべく施策があればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

これにて質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（藤井公明君）　林田君の質問が終わりました。

次に、川尻君。

○１２番（川尻成美君）　午前中最後になろうかと思いますが、時間の許す限り、質問したいと思います。

私、改選後、最初のこの定例会に臨み、私の議員活動の基本方針であります芦北町行政運営のチェック機関の一人としての役割を果たし、多様な民意等、議会を通じて町政に反映するために、今回は２つの問題について質問します。

１つは、スクールバスの一般利用の無料開放についてであります。２つに、本町総合計画の後期基本計画と実施計画についてであります。

まず、第１の質問、スクールバスの一般利用への無料開放についてであります。去る５月２４日の熊日新聞の報道によりますと、佐敷校区間における民間路線バス運行廃止に対して、従来の路線バスと同じダイヤでスクールバスを運行して、一般町民に無料開放した。そのために、１月中旬から４０日間に亘って町が調査したが、その結果は最大１２人の利用者であったということでありました。私は、路線バスに関するアンケート調査については、町のホームページで事前に知っていました。また、いずれ路線バスの編成がなされ、一部廃止となることは昨年末に路線バ

ス運転手の方から知らされ、運転手の職を失うのではないかという不安まで聞かされておったわけであります。

３月定例議会における２２年度当初予算、総務費の高速交通対策費の中に、スクールバス実証運行業務委託料２３３万円が措置されておりました。施政方針と予算大綱の説明の中でも少々触れられておりますが、やはり実証運行という形で方針をされております。実証運行を実施されるのであり、本格運行を進め、無料開放するのは、重要施策であるというふうに私も思っておりまして、議会にも具体的な説明があるものと期待をしておりました。しかし、５月２４日、月曜日の熊日新聞朝刊に「地域の足、店、みんなで守る」の見出しで大きく報道され、６月１日から無料開放を始めたとのことに驚かされたのであります。

そこで、質問の第１点は、この施策の計画と利用者調査の具体的結果等について、町議会に報告し、説明すべきではなかったかと私は思いますし、議会軽視の一つの現れと理解しております。町長、教育委員会として、どうお考えかお聞きいたします。

第２点、１月中旬から４０日間に亘って、この調査の結果と、６月１日から昨日６月１４日までの一般町民の利用の状況はどうなっているのか明らかにされたいのであります。

第３点は、このスクールバス運行は、小中学校の統廃合に伴うものであり、当然、文部科学省の認可を受け、さらに補助を受けてのスクールバスの運行事業でありますから、まず児童生徒たちが親しい友だちと朝の挨拶を交わし、その日その日の学校行事や授業へ、そしてスポーツ等の行事について語り合い、中間、期末テスト等の日には、そのことで頭をいっぱいにして、バスの中で朝の一時を過ごすわけでありますが、一般町民が同乗されて問題はないのか、本来の小中学校の登下校に何ら支障はないといえるのか、教育委員会としての責任ある答弁を求めるものであります。

第２の質問は、本町総合計画の後期計画と実施計画についてであります。これらは今年度、後期の計画が、１４年度までの計画が知らされた５年間のものでございます。これがそれをローリングした実施計画３年分でございますけれども、この芦北町総合計画は平成１７年合併しまして、発足にあたって作成されたものであります。本町の将来像とそれを活性するため、基本構想に６つのまちづくり目標を掲げ、平成２６年度を目標年度としております。基本構想を具現化するための施策の体系を示し、それを受けての前期５年間の基本計画を策定して、諸計画を進め、去る３月３１日、前期基本計画が終了し、後期計画がスタートしたわけであります。

総合計画策定にあたっては、その背景に本町の自然と地理的条件や歴史的背景を

踏まえ、国勢調査における人口の動向や、産業及び就業構造の動向を見ながら、一方、町民の政策に関する意識調査の結果に配慮しながら作成されたものと、私は理解をしております。

このように、本町の急速な人口減少、そして産業及び就業構造における第１次産業、第２次産業から、第３次産業への著しい移行の現状を踏まえて、総合計画の後期計画と実施計画が作成されたものであるならば、その具体的施策はこの項にどのように具体的に組み入れられてあるのか質問の第１点であります。

第２点は、本町の基幹産業といえる第１次産業、そして地場産業である第２次産業を守り育てる魅力ある施策がこの基本計画や実施計画には見えにくいというふうに感じております。本町独自の中長期的施策を打ち出す考えはなかったのか、また今後それを打ち出す考えはないのか、町長に質問いたします。

竹﨑町政も１６年目を迎え、最終的な仕上げの時期に入っていくというふうに考えております。町民に期待される明解な答弁を求めて、１回目の質問といたします。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　川尻議員の御質問にお答えいたします。

スクールバスの一般利用への無料開放に関しまして、この施策の計画と利用調査の結果等々についてということでございます。施策の計画につきましては、平成２２年度施政方針で示しておりまして、議会総務委員会でも説明済みであります。

それと、スクールバスの余席数に対する利用調査の件でありますが、これは事業実施上の基礎資料とするための事務的な調査でありまして、それをもとに計画の具体化に取り組んだということでございます。

以下、残余の質問事項につきましては、担当課長から答弁いたします。

それと、総合計画に関連する、あるいは実施計画に関するお尋ねでございますが、総合計画の基本目標に掲げる大綱の項目中、施策の概要で示しているとおりでございまして、実施計画では１８０にわたる具体的な事業を分野別に組み入れて示しております。

また、その次のお尋ねでございますが、総合計画におきまして、中長期的な方向と施策を示しておりまして、実施計画では本町独自の施策を示しておるところでございますので、御理解をいただきたいと思います。

○議長（藤井公明君）　井上企画財政課長。

○企画財政課長（井上民男君）　２点目の調査及び利用状況でございますけれども、１月からの調査でございますけれども、これは路線バスの乗降調査であると思いますが、１日１便平均乗車数は３．８人でございました。

一方、６月１日から昨日までの利用状況ということでございますけれども、集計上、１２日までの集計をいたしておりますので御了承をいただきたいと思います。６月１日から１２日までの期間で、１日、これも１便当たりでございますけれども、平均乗車数は４．７人となっております。ちなみに、０．９人の増でございまして、約１名が増えたということで、１日５便でございますので、５人の増加となっております。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　竹浦教育長。

○教育長（竹浦裕道君）　質問の議会に対します説明でございますが、先ほど町長から御答弁ございましたとおり、同じ考えでございます。

それから、次の本来の小中学生の登校に何ら支障はないかというお尋ねでございますが、スクールバスの一般町民への混乗利用は、児童生徒の利用を優先しておりまして、支障はないと考えております。

安全面におきましては、乗車時に一般乗車許可証の提示を求めておりますので、問題ないと考えます。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１２番（川尻成美君）　先ほど、冒頭申し上げましたように、第１の質問からいきますけれども、予算にも２３３万円ありました。施政方針の路線バス対策にも触れられております。これはそのとき分かりまして、３月議会にあるんですけど、まずですね、来年からは多分、施政方針とか聞いてから通告をするようになっておりますので、質問がですね、遅れたり何かしないんですけれども、まあそれはそれなりとしてですね、いわゆる実証運行というのを、私、どうも試験運転とかアンケート調査を取ることによって、それがそのアンケートの中で走ってみて、本運行はまだ後だというふうな予算措置の中でも思ってたんですよ。本運行ですね。だから、何らかの説明、また所管の委員会で継続調査なりされるものだというふうに理解をしとったものですから、ああ、もう運行されるのか、そうであれば、やっぱり議会としても尋ねる、保護者が危惧しているものはないのかとか、それは当然、議会のチェック機関としての役割は果たすべきものというふうな形でですね、思っとったものだから、こういう質問をしたんですけれども、それで十分だったといえば、まあそれまででいいんですけれども、私はどうもそのことについてはですね、やはりちょっとご存じでしょう。平成１６年、１７年、こういう議論をしたのは。スクールバスを混乗式にすると、施政方針に１６年にうたってありますから、そしてコミュニティバスをするということで、１６年にありまして、１６年にそのことを聞いた

ら、それは私は町長が一人歩きしたんじゃないかという激論を交わしております。見てみたら、会議録を。それで、一応、頓挫されて、どうしても無理だから、スクールバスを利用するのはやっぱり無理だということでありながら、今回こうしたことが出たということにはですね、やっぱり私たちの議会としてもですね、非常にやはり説明不足というか、そういうのが足らんのじゃないかなというふうに、私は思ったものですから、そう質問したんですけれども、町長、それでよかったと思われますか、どんなですか。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　まず、平成１６年当時の構想でありますけれども、文部科学省に随分交渉いたしました。当然、登下校の空き時間を活用する、そのまま車庫にしまっておくのも、これはもったいない話であるということで、そういう考えから交渉いたしましたが、どうしてもですね、随分、担当課も努力いたしました。２カ年か３カ年にわたって努力しましたけれどもですね、やはり霞ヶ関の御理解をいただくにいたりませんでした。

その後、ほかの方法はないかということで、他の自治体もいろんな形で取り組んでおりますので、研究もいたしました。その間が空白になっておりましたが、ここ、このいわゆるツクールバスにつきましてはですね、再度また、県あるいは文部科学省、あるいは国土交通省等々に事情の説明をいたしまして、ついに理解をいただくに至ったわけであります。

そして、今回の２路線の運行につきましては、実はですね、スクールバスがほかにもまだ二十数台ございますので、かなりの赤字補てん額、増えておりましたので、全面的にこのスクールバスを活用するための、いわゆる実証運行をするわけでありまして、この２路線がいわゆる成功し、安定的に運行ができる、安全に運行ができるということになれば、他の路線についても、これを検討をしていくということで、今後の計画につきましては、また議長にお願いをいたしまして、議会にその計画、予定等につきまして御説明をいたすところでございます。したがいまして、この実証なる文言につきましては、次をにらんだ運行であるということで御理解いただきたいと思います。

議会の説明につきましては、十分こちらも今後配意してまいりますけれども、説明があるものと期待しておったと、先ほど強調されましたので、いつまでもないなあないなあと思われたときは、どうか議長に申し出をされてですね、執行部は忘れとりはせんか、必要じゃないかということを、どうぞ一つおっしゃっていただきますと、喜んで説明をいたしたいと思っております。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１２番（川尻成美君）　私も、総務常任委員会に配属しましたので、もう調査をするようにしておりますので、今後は議会の活動の一環としていきますが、いわゆる私はこれが経費の面で、費用対効果の面でこうした施策の一環でもあるというのは、非常に賛成をするところでもございますし、またアンケート調査においては、今、人数しか言われなかったんですけれども、この中で民間の今走っとった路線バスに同乗して調査をされたということを聞き取り調査等でもしておりますし、その内容ですね、アンケート調査ではですね、その路線の方々のこういうアンケートがありましたよね。この経過をちょっと、冒頭申し上げたように、するようになっていますので、言ったんですから、この内容、乗車する人じゃなくして、内容までちょっと説明してください。

○議長（藤井公明君）　井上企画財政課長。

○企画財政課長（井上民男君）　この路線バス乗降調査にあわせまして、１２月補正でですね、お願いをいたしまして、利用状況のアンケート、今おっしゃいましたことでございますけれども、それから乗降調査並びに実証の運行の業務調査を行っております。

乗降調査につきましては、大岩、それから吉尾方面の、それぞれ乗られる方の御意見、内容につきましては、年齢であるとか、それから使用の目的であるとか、そういうものをですね、調査をいたしております。

その調査結果につきましては、ほとんどが高齢者の通院がほとんどでございまして、ほとんどの方が街部に朝一番のバスに乗って病院に行かれるというような人たちがほとんどでございました。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１２番（川尻成美君）　要するに、内容でですね、同乗したいと、時間帯はどれに乗りたいという、そういうアンケート調査でしたでしょう。そこの中身を言わないと、利用客のどういう思いでこれに乗られるのか。朝は１便だけ、２台に混乗ですけれども、あとは車というスクールバスを利用しての一般客の利用ですから、そこまで無料ですから、そのことの内容について、町民がどうアンケート調査はどうで、今後どういうふうになっていくのかというのを、私たちも今後は調査しなければなりませんので、まず実証する前のことのアンケートを、それを言わないと駄目じゃないですか。ちゃんと載ってるんだから、ここに。

○議長（藤井公明君）　井上企画財政課長。

○企画財政課長（井上民男君）　このスクールバスの運行につきましては、従来の路線バスのダイヤ、時刻表でございますけれども、それはまったく一緒の時刻表でござ

いまして、便数も１日２．５往復の５便とまったく変わらない状況での運行をいたしております。その中で調査をいたしましたわけですけれども、先ほど申しましたように、ほとんどの方が第１便を利用して、７時１０分ぐらいの始発になりますけれども、それを利用して佐敷の方に下ってくると。そして、帰りは２時あるいは１時の帰りのバスで帰られるというようなことで調査をいたしまして、運行の形態につきましては、従来の路線バスの形態を変えずに、そのまま運行をいたしております。

以上です。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１２番（川尻成美君）　教育委員会とあわせて聞きますけど、要するに混乗型で、住民が望んでいたのか、いなかったのかが、私は聞きたいわけですよね。普通の路線バスは、要するに料金を払って、その時間に行くわけですから、そのことが一番大事になりはせんかなというんですよ。先ほど、冒頭言いましたように、子どものスクールバスにですね、朝から出がけにですよ、わいわい、大人の方、それは自分の身内のじいちゃん、ばあちゃんが乗るときは違うかもしれませんけど、子ども心はどう、その朝にあるのかというのは、私は非常に心配することもあるんですよ。違うでしょう、やっぱり大人が来たときに、ぶらっと回っておったりとか、そういうのを懸念するものですから、そういう話をするわけですので、そういうのを校長会でとか、また聞き取り調査の中で保護者との聞き取り調査なんかはしなかったのか。スクールバスに乗られる子どもさん方との、そういうことが一番実証する中に、一番大事なことだと、私は思うんですよ。いかがですか。

○議長（藤井公明君）　井上企画財政課長。

○企画財政課長（井上民男君）　当然、議員さん申されますように、保護者説明会を２回、それから住民説明会、これは９会場で行っております。それから、３地区の行政区で説明も行っております。

それから、各学校との調整であるとか、そういうものも実施をいたしまして、ほとんどその中では反対という意見は出ておりませんで、どちらかというと、無料での運行ということで賛成をいただいております。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　竹浦教育長。

○教育長（竹浦裕道君）　お答えいたします。

混乗になりまして、子どもたちへの朝の挨拶の声かけ、ここいらは教育環境の面ではまさにその教育の本旨に基づいた事業効果が出ておるものと確信をいたしております。別段、苦情といったものも来ておりません。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１２番（川尻成美君）　そういうことを、冒頭ですね、言ってもらえば安心するんですけれども、それはそれなりとしてですね、だいたい私も聞き取り調査をしましたけれども、民間のバスを使ってですよ、またダイヤ等を変えても、コミュニティバスというような形でやってもらえるのであるのかなあという勘違いをしている方もおられたんですよね、路線バスの中で。そういうことは、今後、２路線以外のことも考えながらですね、やっていかなければいけないと思うんですけれども、要するに無料というものにですね、魅力を感じるということがいかに恐ろしいものかというのは、私もありますし、それは無料ならいいかもしれませんけどですね、当然、無料ということは文科省等の認可の関係で、青ナンバーではありませんと、料金は取るのは絶対駄目だという、それは指導は受けておられますけれどもですね、しかしそれがプロドライバーとしてですよ、今、ドライバーのことを今後言いますけれども、委託されている同じ方がやられるというふうに聞いておりますけれども、私はプロドライバーといいますか、今、運転されとるのはプロかもしれませんけれども、やっぱり卓越したですね、ノウハウを指導されて、民間の路線バスは運行しておりますので、その方とは、私は指導の過程でもですね、非常に違うんじゃないかと。もう多分トラブルもあっとる情報は、私も聞いておりますので、その運転手の方にですね、何か時間帯とかいろいろあったそうで、すごく叱られたという、行政からですね、指導を受けたということも聞いておりますし、そういう懸念をするわけであって、委託という言葉をよく使われますけれども、この委託については、バス自体もですけれども、運転手は一個人としての委託なんですか。バス自体も、どんな、どういう委託の方法なんですか。前はですね、このスクールバスに、聞いたときは、１対１と委託契約をしていると、労務費ですよ。委託というのは、どういう方法の委託をされているのかお伺いします。

○議長（藤井公明君）　井川総務課長。

○総務課長（井川良一君）　今回のですね、スクールバスの委託につきましては、スクールバスごとの業務委託となっております。運転手も含んででございます。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１２番（川尻成美君）　一緒であれば、聞いたところによると、水俣の業者か何かですかね、と委託してあるんでしょう。そうであれば、委託の契約の方法もまだちょっと総務課に拝見しに行きたいというふうに思いますけれども、やっぱり事故とか、そういう関係の面でもですね、委託業者がするというふうに思いますけれども、責任転嫁の一つにもなりますし、委託になるとですね、行政的なものはもう委

託したんだからという形にも、補償金額とかそういうことになればですね。あと、交渉等によっては、やっぱり行政も責任を負うべき点も出てくると思いますけれども、その点について、町長、委託がですね、非常に行政としての責任の割合は軽減されますけれども、どういうふうな、どう考えられますか、この業務に対して。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　まずは、運行にあたっては、安全・安心がもう第一でございますので、当然、委託先の会社とはそのことを主に今後とも運行する中できちっと確認をし合っていきたいというふうに思っております。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１２番（川尻成美君）　次に、そのスクールバスですけれども、交付税で算定してありましたが、路線バスについては、今、三千六百何万の当初予算が組まれております。要するに７点何路線という形に割ればですね、なるんです。減額補正がされるというふうに思いますけれども、次にですね、１２月なり何かあるかと思いますが、文科省におけるスクールバス１台は５００万円という、地方交付税に還元されるものがあるというふうに思っておるんですけれども、今後こういう形でですね、路線バスの廃止は業者が決めるんでしょうけれども、そういうことを推移していくならばですね、文科省のそのスクールバスへの交付税としての還元は滞りなく来るんでしょうかね。いかがですか、町長の見解は。ああ、財政課、まあ町長も含めてですけど。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　交付税算入されてくることは、私は間違いなく期待をしておりますし、これまでの例をとりましても、個々にですね、総枠できますので、掴みにくいというのはどこの自治体の長の悩みでもありますけれども、交付税算入をすると、公式に言ってきた以上は、それで予算編成もしていくわけであります。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１２番（川尻成美君）　このバスについてはですね、走り出したばかりでございますので、我々も議会としてもですね、しっかり調査をしながらですね、町民にですね、利便性のある、また教育においてもですね、安全・安心な子どもたちの規制についても調査をやりたいというふうに思っていますので、また次回ですね、質問をしたいと思います。

次に、この芦北町行政の一番骨格になるのが、この基本計画でありますし、実施計画でもあります。なかなか成果評価は数字として表れにくいのが、この行政評価でございまして、あまり押し問答する気持ちはございませんけれども、いわゆる竹﨑町政、もう１６年目に入りまして、この基本計画は２回目になりますよね。合併

して作られた１０年の計画と、この総合計画となります。一番冒頭のこの動向を見てみますと、この人口動向というのは、やっぱりストップが効かない状況というのが現状であります。少しでも住みやすいなあ、働きやすいなあということであれば、人口が少しぐらい緩やかになるのかなあというふうに客観的に考えまして見るわけです。これは私も議会活動の一つのチェックの指針でありますのでですね。そして、このローリングされます、この実施計画がそれに応じて、一年一年変わっていくわけでありますので、見えにくいんですけれども、今、第１次産業、第２次産業、地場産業と基幹産業、農業、漁業、果たしてこの収穫とか、それがこの政策が波及して所得が上がったりとか、そういうのが見えておるのかなあと思いましたら、まあ見えていないんじゃないかなあというふうに思いましてですね、農業施策を例にとりますと、やっぱり国の施策の中で補助対象をするとか、そういう形がだいたい今までの通例であったものですから、単町でこの計画を見ますと、ありますけれども、それが定着していくようなですね、施策というのはやっぱり必要になってくるんじゃないかなあというふうに感じておりますが、町長、総体的なことで全部それに加わっていますということでありますけれども、いかがなものでしょうかね。大型プロジェクトを今、国のあれで、農協を通しての補助事業とか、機械整備とかですね、それで波及は出てくるものと思いますけれどもですね、いかがな考えをもっておられますでしょうか、第１次産業に対して。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　第１次産業にこだわらないということでありますが、まあ国民所得とか国民の生活の豊かさなどというものは、やはり国策にですね、相当委ねる部分がございまして、国の経済対策によりまして全然変わってくるということ、自民党政権から民主党政権に変わる直前のことでありましたが、経済対策と称してですね、経済対策あるいは臨時雇用対策の交付金が各自治体に来たわけでありますが、これは一時的なものにしろ、雇用の確保を図ることができたわけでございまして、依然、まだその事業は民主党政権になってもですね、部分的に引き継がれてはおりますが、地域活性化、経済の活性化には、やはりその国の政策が貢献したことは間違いございません。まあそういう一時的なものと、そしてまた中長期的な経済対策、景気対策を国がですね、早く抜本的に出してくれないと、やはりこの我が国の経済は回復しない。それは、必定、地方にもですね、あっという間に影響が来るわけでありまして、むしろその影響の方が大きいということでございます。我が町は、私は先刻の答弁でも申し上げましたけれども、我が町の限られた財政の中でですね、精一杯の知恵を図りながら、頑張っていきたいというふうに思っております。公共投資額におきましても、近隣の市町村と比較していただきますと、どのよ

うな状況下にあるかということも御理解いただけるかと思いますので、総合的にそのようなこともですね、一つ見た中で、今後とも評価を図っていきたいと我々は思っております。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１２番（川尻成美君）　町長の目指すものは分かりますけれども、私、ほめることも必要かなというふうに思いまして、林業における内地材を使った２００万円のですね、補助金、こういうのは非常にやっぱり魅力ある施策ではなかろうかというふうに思います。繰り越しも見通しがあるから繰越明許でされておりますので、そういう事業がですね、やっぱり見えてきて、地元の林業も潤い、職人、大工さんも潤う、それが１次産業と２次産業の一つの連携のものであると、一つの例を挙げますと、そういうことでありますので、農業においてもやはりファーマーズもそうですけれども、なかなかそういうわけにはいかないものもありますし、今、大型プロジェクトといいましても、なかなか財政面にありますので、私が思っているのは、やはり荒廃地をいかに、お年寄りの方が、また仕事を失業されたといいますか、そういう方々、また新たに芦北町に住みたいという、そういう方々がですね、現金収入を得られるような、そういう形ならば、少しでも一般財源をですね、措置してもできるのではないのだろうかなというふうに、私自身思っておるんですけれども、そういうことも申し上げながらですね、この芦北の魅力ある町にですね、願うものでありますので、町長のその思いをですね、聞いて終わりたいと思います。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　木造住宅建築費助成事業につきましては、お褒めをいだたきまして、ありがとうございました。お説のとおり、第１次、第２次、第３次までですね、経済波及をする、地域内・県内で資金が回るということでありまして、内外からも評価をいただいております。あわせまして、このふれあいツクールバスも、この文部省補助金を使った、混乗型としてはですね、県内初でございますので、あわせて御評価をいだたければ有難いかなというふうに思っております。

　第１次産業につきましてはですね、果樹優良苗の導入費補助、芦北ブランド牛産地対策事業、農地施設化支援事業、地元産品利活用事業等々ですね、町単独で打ってる事業がございますので、ほかにも漁業あるいは林業等々もあります。そういうのもですね、またこの際、実施計画をじっくり熟読していただきまして、またいろいろと御提言をいただきますと幸いでございます。

○議長（藤井公明君）　川尻君、いいですか。

○１２番（川尻成美君）　いいですよ。

○議長（藤井公明君）　川尻君の質問が終わりました。

ここで昼食のため暫時休憩し、午後１時３０分から開会します。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

休憩　午後０時２５分

再開　午後１時２９分

－－－－－－－－○－－－－－－－－

○議長（藤井公明君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、平松君。

○１１番（平松洋一君）　一般質問をいたします。

さて、本年もいよいよ梅雨のシーズンを迎えました。近年は、世界的に豪雨、台風、地震など、地球規模で、世界各地に被害が発生をしております。

今朝、ＢＳニュースを観ておりましたら、アメリカの洪水、鉄砲水による床上浸水のニュースが流れておりました。２００９年に国連がまとめた災害に関する地球アセスメント報告によると、洪水、鉄砲水、都市型降雨、都市型洪水の近年の増加は極めて多く、特に１９９０年代以来、急激に増加傾向にあります。また、特に日本は洪水が多く、昨年の山口県の土石流災害も記憶に新しいところであります。

昨年の９月、福岡管区気象台、長崎海洋気象台、沖縄気象台合同で、異常気象レポート九州山口県、沖縄版２００９が公表されました。これによりますと、第１章、異常気象の長期傾向、第２章、海洋における顕著な現象、第３章、エルニーニョ現象及びラニーニャ現象と天候、第４章、温暖化とそれに伴う長期変化、第５章、地域気候モデルによる地球温暖化予測、第６章、九州沖縄近辺の海洋環境の６章からなっており、その中で特に注目すべきは、降水量であります。

九州山口県では、最近５０年間で日降水量２００ミリ以上の大雨の日が３０年前の１０年間に比べて約１．７倍に増加をしております。また、長期的に弱い雨が減る一方、強い雨が春や夏を中心に増加する傾向があるとあります。つまり、今後、集中豪雨の頻度は今まで以上に予想され、それに対する備えも当然に必要であります。

川は、治水、利水、環境など、私たちの生活を支える地域社会の重要な役割があり、一方では豪雨による洪水などで、生命や財産を奪う恐ろしい部分でもあります。本町には、１級河川の球磨川の支流である吉尾川、大尼田川、２級河川の赤松川、田浦川、宮浦川、小田浦川、佐敷川、湯浦川、女島川等々、また多くの普通河川が流れております。

しかしながら、多くの河川の川底に葦が繁茂し、さらに土砂が堆積し、年々葦が広がりを見せ、水の流れを阻害し、ごみや流木の溜まり場も見られます、この状態は、今後の集中豪雨などで下流域に二次災害の恐れさえ懸念されます。

そこで、まず本町を流れる多くの主要河川について河川管理の実態と対応について質問をいたします。

第１に、この河川管理の実態をどのように把握しているか。第２に、葦の刈取りが相当の年数により放置されている箇所が見受けられるが、その対策はどのように考えているか。また、川底の堆積土の掘削除去はどのように行われているか。第３に、河川の一部は県の管轄にあるが、これまでどのように連携や申し入れを行ってきたのか。第４に、今後、地域住民の理解と意識高揚と協力が必要と思うがどのように考えるか。それぞれ、町長の答弁を求めます。

次に、本町における一斉清掃の実態と今後の対応についてお尋ねいたします。芦北町管内の各行政区では、一斉清掃が行われたり行われなかったり、行政区ばらばらと聞いており、旧来型の地域コミュニティが衰退しているように思います。今後、町民の行政参画と意識高揚にとどまる教育、社会福祉など、いろいろな面で地域が一体となり、共に助け合う地域コミュニティ構築が必要であります。

そこで、第１に、一斉清掃の実態についてどのように把握しているか。第２に、芦北町独自の（仮称）町民一斉美化清掃の日などを実施する考えはないか。それぞれ町長にお尋ねし、壇上での質問を終わります。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　平松議員の御質問にお答えいたします。

本町における河川管理実態と対応についてであります。河川管理の実態をどのように把握しているか。河川の管理区分につきましては、１級河川は国、２級河川、佐敷川等２０本は県、このほかを町が行いますが、町管理のいわゆる準用河川は５４本、さらに災害工事を施す護岸高１メートル以上の川があります。河川内の草刈り作業はそれぞれの管理者が行うのが基本ではありますが、自分たちの地域は自分たちでという精神のもと、流域の付近住民のボランティアで実施されているところもあります。

次に、葦の除去、若しくは河床堆積土の掘削等についてでありますが、町管理河川内の草の刈取りは、堆積土砂除去をあわせて、地区の要望を受けた場所を中心に毎年行っております。

次に、県の管轄にある河川への対応でありますけれども、県管理河川の浚渫や除草につきましては、毎年要望しております。２２年度分についても、昨年１０月に１０の河川分を現況写真を添付して要望いたしました。

次に、地域住民の理解と意識高揚等々についてでありますが、現在も地区によっては年１回ないし２回、ボランティア活動で河川の清掃を実践しておられる地区があります。今後、このような活動が広まっていくよう、区長会等を通じて呼びかけ

ていきたいと思います。

一斉清掃の実態でありますが、各行政区等で自主的に行われている一斉清掃の実態については、報告を受ける制度とか、あるいはこちらから指定する制度等ございませんので、実態については把握しておりません。

次に、（仮称）町民一斉美化清掃の日を設定する考えはないかというお尋ねでございますが、全町民がある特定の日に清掃活動を実施するのは、産業構造の変化や生活が多様化している現在、現実的には地域の事情、その他の事情等もあり、難しい点がありますので、新たな町民一斉美化清掃の日については、現在のところ、考えておりません。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤井公明君）　平松君。

○１１番（平松洋一君）　ただいま町長から、通り一遍の答えに聞こえましたけれども、実は私がですね、今回なぜこのような質問をしたかということでございますが、実態がですね、非常に河川の葦が繁茂しすぎて、いずれにしても、この状態は河川の自然の流れを阻害しているという気があったからでありますが、実は日曜日に活性化センターの落成式がありまして、その田浦地区の基幹支所の前は、その前々日に清掃されまして、非常にきれいになっておりました。あれが本来の姿であろうと思いますが、実はそこの入口の橋から下、あるいは赤松川、それぞれですね、また認識をしていただきたいと思いますが、まあされていると思いますけど、このようなですね、実態でございます。これは役場基幹支所の入口から御立岬公園駅を見た方ですね。

そして、これは道の駅の反対側、３号線を挟んで、赤松川、河川いっぱいに葦が発生をしている。これは高速道路入口ですね。全部このような葦です。これはその上流にいきまして、やっぱり赤松ですね。それから、これは小田浦の３号線を挟んだ、これは河原川、葉山川、そういうところですけど、もう川いっぱい、この葦です。もういずれにしても、これはその合流地点ですけど、このような実態を見受けましたものですから、このような質問をしたわけですが、先ほど町長の答弁では、河川管理は１級河川については国だと、２級河川については県だと、準用河川については町が担当しているということでございますが、このような属地で考えますと、属地です。ここの河川は県であろうが、町がですね、やはりそれは把握すべきじゃないかと、実態を。そして、県の方に申し入れをすると。県の方の毎年１０の河川を実施をされているということでございますが、実態がこのような状態ですから、どこをどうされたのか、まず１０の河川をですね、された場所をちょっと教えてください。

○議長（藤井公明君）　竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　先ほどの答弁で、１０カ所とございますのは、町の方で２１年度に１０カ所、土砂の撤去を合わせて草刈りを実施したところでございます。本年度は６カ所予定しております。予算額にして２００万円でございます。

町長の方から申し上げました２２年度分について、昨年１０月に１０河川分を要望をしたというところを申し上げます。本年度実施について要望したところでございます。赤松川のインターチェンジ付近、佐敷川の全線、吉尾川の大字吉尾付近、宮浦川の洲崎付近、小田浦川の岩本鉄工所付近、田浦川の田浦小学校の下流区域、河原川の河原団地下流、湯浦川全線、以上を要望しております。

○議長（藤井公明君）　平松君。

○１１番（平松洋一君）　ただいま県の要望をしたという河川名をいただきました。まさにその場所がですね、茂っておりますが、熊本県の２級水系についても、それぞれ県で把握されていますが、河川の維持管理計画なるものが、通常、町道なんかではですね、巡回をしてどこどこがどうだから、今回ここを重点的にやろうということですが、そういう河川のですね、維持管理計画、そういうのがありますか。それとですね、もしあるとすれば、その河川の維持管理実施計画、毎年毎年、今年はこういうところを重点的にやろう、今年はここを重点的にやろうということになりますから、そういう諸々。そしてまた、そういう状況把握診断をして、次年度の実施計画に反映をさせていくわけですが、河川の現況台帳というんですかね、そういうものが今整備されているかどうか確認いたします。お答えください。

○議長（藤井公明君）　竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　図面、帳簿等につきましては、県で作成しました準用河川現況調書、それと管内図河川表がございます。それから、芦北町道路河川網図を備えております。御質問の維持管理実施計画については、具体的なものは作ってございません。ただし、護岸について、災害の危険箇所とかにつきましては、危険な箇所を随時整備していきたいと考えております。

○議長（藤井公明君）　平松君。

○１１番（平松洋一君）　先ほどですね、お答えをいただきました、県にまず１０カ所要望していましたという河川につきましては、私の知る限りではですね、されたところも、合併をして５年になります。合併をしてそのまま放置をされておるという河川も多々見受けられます。ただ、なぜそういう放置がなされたのかということは、５年間も放置をして、今、実態がこのような写真の状態なんですけど、これまでそのような、県では何かさっきあると言われましたが、町のですね、そういう維持管理計画なるものをですね、やっぱり私は策定をすべきじゃないかと。町の管理

する、あるいは町でけでなくてですね、県が管理する属地のこの河川については、町が把握をしていくというのが実態把握の意味でもですね、一番大事な基本的な箇所だと思いますが、いかがですか。町長にお尋ねします。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　そのとおりと思います。今後はきちっと整備をしてですね、住民の方々のですね、生活環境とか、あるいは災害の危険性があるというところを中心に、これまでしてきておりますので、しかもですね、その数は結構多いんですね。例えば、護岸高１メートル以上のものはですね、１００あるのか２００あるのかですね、大変おびただしい数でもございます。ですから、そういう地域に関わりのあるところを中心に整備をしてきております。これから実態の把握、合併前はやっておりましたけれども、合併後ですね、かなり広くなっておりますし、仮に把握し、計画的にやるにしても、地域住民の方々の要望が優先になりますので、計画的にこれが実施できるかどうかはですね、難しいところであるとは思いますが、国、そしてまた県とも、これは話し合わなければいけない部分も結構ありますので、これから検討してまいりたいと思います。

○議長（藤井公明君）　平松君。

○１１番（平松洋一君）　実はですね、河川管理につきまして、ちょっとやっかいだなと思いますのは、葦といいますか、ヨシといいますかね、文献でいろいろ呼び名があるみたいですけど、年間に地下茎が５メーター以上伸ぶということでございまして、これがやっかいな一つのなかなか除去できない状況にあるのかなと思いますが、今ありましたとおりですね、実際、地域住民の力を借りなければ、県だけの力、予算、そういうものでは今の県の財政から考えると、恐らく難しい部分が出てくるというふうに思います。ですから、先ほど町長が検討すると言われました維持管理計画、こういうものを策定をして、そして維持管理実施計画を策定して、現況台帳も作成して、重点的にですね、県が及ばない場所を町が、ここは是非、住民の意見もありますけど、それは優先的にすべきですが、ここはやっぱり町で管理して、現況調査した中では、一番優先順位が高いぞと、ここはやろうと、そういうことをですね、県だけの予算ではなかなか足りないところを町でもその予算化を是非考えられていただきたいと思いますが、町長、いかがですか。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　いずれにしましても、実態の把握をしないとですね、その管理費、清掃費なるものがどの程度にですね、達するのか、全く予想がつきません。今の財政事情下におきましても、他に優先するですね、また分野もあるわけでございますので、そういう総合的な観点からも判断していかなければなりません。

一方ですね、葦も茂り過ぎるとやっかいでありますけれども、実は水の浄化作用ですね、があることはご存じのとおりと思います。これはもうほかでの話なんですが、全部取ってくれるなと、水を浄化するというですね、素晴らしい機能を葦はもっておるので、そこも考えてやってくれという意見も一方ではあります。ですから、そういうことも勘案しながらですね、また整備等にも、管理等にも取り組んでまいりたいと思います。

○議長（藤井公明君）　平松君。

○１１番（平松洋一君）　言われることも分からないことはないんですが、町にも環境美化条例等々がございます。この中に基本的にはですね、豊かで美しい自然と良好な生活環境を確保するとか、あるいは清潔で美しいまちづくりの施行、抽象的にはこのような言葉が羅列されておりますが、そしてまた一方では、ホタル条例とかですね、いろいろあります。そこは特別地域というのがありますから、そういうところはやはりそういうものも簡単にばっさりやるのも、いろいろ配慮しながらやらにゃいかんと思いますけど、そういう部分を除けば、大部分がですね、やっぱり今急に、早急にやらにゃいかん課題がございますので、やはりそこらへんについてはですね、町の予算を財政的にはまだまだ県のいろんな財政の指数よりも数段、町の方が上でございますから、やはり是非、まず維持台帳あるいは管理計画、そういうものも整備して、そして把握をして、次に予算化につなげていただきたいということを再度、町長にお尋ねします。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　これも再度、御答弁申し上げますが、どのくらいかかるのか全く分かりませんので、それは時間をいただかなければいけない。それらの河川に草が茂っておると、それは災害の危険性があるとか、あるいは景観上問題があるとか、あるいは環境上問題があるとかですね、そういった面からやはり優先順位を決めていかなければいけませんので、ただ山の中でですね、茂っておると。しかし、それは日常生活にも災害にも、ほとんど危険性はないと、環境上もそう問題ないということであれば、それはですね、取り組む必要はないわけでありますので、そのへんの問題、そして財政上の問題、あわせて何度も申し上げますが、総合的な判断をさせていただきたいと思います。

○議長（藤井公明君）　平松君。

○１１番（平松洋一君）　はい。一応、御要望しておきますが、地域住民との連携についてお尋ねいたします。先ほども答えがございました、これは是非、地域住民の力も借りたいというような御答弁でございますが、県の方でもですね、こういう財政難の折に、地域の力を借りたいということで、熊本マイリバーサポート事業という

のがあるようでございます。私もこの調査をしてみまして分かったんですが、これについてはご存じと思いますが、担当課長でもよろしいですけど、熊本マイリバーサポート事業、認識ございますか。町長でも結構です。熊本マイリバーサポート事業というのが、県の方で設定されていますので、この認識はございますか。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　はい。存じ上げません。私が知っとるのは、熊本みんなの川と海づくり清掃活動は知っております。それと、ごみ不法投棄撲滅アクション、これは町でやっておりますけどね。ご存じなら、詳しく教えてください。

○議長（藤井公明君）　平松君。

○１１番（平松洋一君）　私もですね、県にちょっと聞きまして分かったんですが、川をサポートする事業、結局、こういうものがですね、水俣芦北地域、されております。実際、管内でも１カ所だけ実施をされております。あとの課題とも関連するわけですが、地域住民が川掃除とか、一斉清掃とかやる場合に、やはりケガをしたり、いろんなことも考えられますよね。だから、そういう諸々を含めてですね、掃除する前に、こういう申込みをしてくださいと。県の方でもそれもいろんな手当てといいますか、大きな予算はないですけど、手袋だとか、あるいはそういう保険とか、全部掛けてですね、実施をしますということです。この中のですね、実施要領を見てみますと、第３条にですね、市町村との協力という項目がありまして、知事はこの事業を実施するにあたり、当該河川区間が存する市町村の長に協力を依頼するものとすると、こうあります。ただ、町長が知らないと答弁されましたので、ちょっと今、危惧しているんですけど、認識不足ではないかと思いますが、いかがですか。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　まあ、シャバのことですから、知らんこともあるわけです。

○議長（藤井公明君）　平松君。

○１１番（平松洋一君）　この目的がですね、この事業は県が管理する河川、さっき言った２級河川のことですね、こういう県が管理する河川ですから。町長の答弁では、実際、管理区分どおり、１級河川は国、２級河川は県がやるものだということですが、県の考え方としては、県で実施がなかなか１００％いかないということで、地域住民の力を借ろうということで、こういう事業ができたのかなあと。この目的はですね、県が管理する河川において、個人または団体が行う清掃、除草、植栽等の美化活動を支援することによって、河川の美化活動の普及と県民の河川美化に対する意識の高揚を図ることを目的とするということでありますので、もう是非こういうのもですね、普及を各行政区でも結構ですが、町だよりとかにアピールを

していただいて、そして是非利用をいただければと、私はこう思ったんですが、そして、その中にですね、もう一つ、実施要領の催促というのがあります。これも市町村への協力依頼というのがありますが、いろいろ要望事項が５項目ありますけれども、こういうものは利用できるものは利用された方がいいのかなと、後でコピーして、すぐお上げしますので、是非お願いをしたいと思います。じゃあ、もうこの件についてはですね、もう認識が現在ございませんということでしたので、是非御理解していただいて、前向きに検討していただければと思います。

それから、河川については、是非、さっき答弁のとおりでございますから、この台帳等を全部整備をして、そしてまた実施計画等もして、場所を把握をして、そして予算化するところはするという御答弁で理解しましたので、次の一斉清掃について移りたいと思いますが、一斉清掃の把握はしていないという御答弁でございました。清掃の考え方についてもですね、まあこれも町が音頭をとってやることについては、産業構造の変化だとか、あるいは地域の事情とか、諸般のいろんな事情でですね、音頭をとるのは難しいというような御判断がございましたが、各町村、町では結構やってあるところがあります。だから、それこそが意識をですね、やっぱり誰も曜日を決めたら、その日は忙しいとか出てくると思いますが、半日とか１日とかの時間でなくてですね、朝１時間、２時間ぐらい、その地域地域で実施できる要項でいいのではないかと思いますが、もう一回、町長にお尋ねしますけど、それでも一斉清掃の考え方というのはございませんか。

○議長（藤井公明君）　竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　河川の清掃あるいは草刈りについて、実施している所をうちの方で調べたものがございます。それによりますと、８５地区中１５地区でございました。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　町民一斉美化ということでありますから、例えば芦北町の全行政区が日にちと時間を特定して、ヨーイドンでやろうということですが、その件につきましては、先ほども答弁申し上げましたがですね、産業構造が変化しております、就業構造も変化しておりまして、なかなか難しいんです。例えば、この５月、６月におきましてもですね、梅雨期を前に既に公役を実施したところもございます。しかし、盆前にするところもあるんです。そこはですね、梅雨前にするところは農村地帯が多いんですね。盆前にするということは、一般住宅が多いところが多いわけでありますけれども、そういうことで地区地区で既にですね、慣例化して、６月の第何日曜、あるいは８月の第何日曜はしましょうということで、それぞれ地区がですね、やっておられます。それをスタートラインを一緒にしてヨーイドンと

いうのはですね、先ほど言いましたように、難しい面があります。それよりも、各地区地区で、地区の実情に応じて実施していくという、既に実施しているところも結構ありますし、未実施のところはですね、また区長会等、あるいは公民館長会等を通じて、そういうことを促していけばというふうに思っております。ヨーイドンは無理があるというふうに思っております。

○議長（藤井公明君）　平松君。

○１１番（平松洋一君）　一斉清掃の考え方はいろいろあろうと思いますが、町が、今、御答弁で、課長の答弁もありましたが、８５行政区の中で１５行政区がですね、実施をしているということでございますが、この比率は私は非常に少ないと。もちろん、河川以外に掃除をされている部分は、美化運動等をされている部分はあると思うんですよ。だから、合併前にですね、旧田浦町、旧芦北町でありましたが、旧田浦町ではこういう梅雨前に６月の第１日曜か、町で定めて、そういう一斉清掃をやっていたと。だから、合併をしまして、その清掃がなくなったと。区長会でそういうしないという方向を何か言われたと。区長さんに確認しますと、いや、そら、ばらばらでですね、もうそれはせんばというところと、いや、もうせんちゃよかというから、するなというようなところと、両方分かれてきたというような経緯を、そうじゃないかなあと思っております。それから、できないということはないのかなあと、そしてさらにさっき言いましたマイリバー、そのさっきの事業をですね、マイリバーサポート事業という、そういうものも絡めながらでもですね、やると、非常に有効にそういう保険、事故とかいろんなことを考えてもいいんじゃないかなあと。町がさらにその後、川の清掃したごみとかですね、物も一度に計画的に集荷できますし、そして廃棄の場所もどこか決めてできますから、その方が逆にですね、有効にいくんじゃないかと思いますけれども、それでも一斉清掃の考え方はございませんか。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　田浦バージョンと芦北バージョンがあったみたいでですね、合併と同時に田浦の方はやめられたということですが、合併が理由でやめられるのが、ちょっと解せないわけですよね。しかし、やり方もいろいろあると思いますが、うちの町の方では、熊本みんなの川と海づくり清掃活動、これは毎年ですね、実はこれはやっておりますが、これは全町民に呼びかけておるわけでありまして、各行政区ごとにやっておるのではありません。呼びかけまして、特に海水浴場等を中心に、これは毎年やっておるところです。それと、ごみ不法投棄の撲滅アクション、これは６月の環境月間中にやっておりまして、町の環境衛生巡視委員会が主体となりまして、そして不法投棄の著しい箇所を選定しまして、改修、そしてまたそ

の処分等に努めておるわけでありますが、平成２０年度は横居木、２１年度は女島、２２年度は天月ということでですね、それはそれでやっておるところであります。ただいまの御提案につきましては、少し検討させていただきたいと思います。合併後のですね、そういう状況ということでもございますし、環境美化とか、あるいは不法投棄等の撲滅等々につきましても、積極的にこれは私どもも取り組む分野でもあるというふうに思っておりますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（藤井公明君）　平松君。

○１１番（平松洋一君）　はい。前向きな御答弁をいただきました。今、町長が答えられましたのはですね、これは９日の日に配布されましたけれども、芦北町の環境基本計画書の中にもですね、町の取組みを住民生活課主体で書いてございますね。それから、河川や海辺の清掃活動に自主的に取り組みます。そういうものはあります。今回、私が言いますのは、河川全体的なことですから、先ほど課長から答弁いただきましたが、８５地区のうちの１５地区は必ずしも多くないと思いますので、一斉清掃がですね、前向きにできるために、そして全体的に成果があるために、日にちの１日に限るところが非常に困難ということがあれば、６月の上旬なら上旬ぐらいに曜日を、行政区ごとにするとか、いろんな手法はあると思いますので、そういうことでまた御検討をいただきたいと思います。

いずれにしましても、河川管理、あるいは環境美化に関する一斉清掃など、芦北町のですね、環境美化条例の趣旨にもありますけれども、豊かで美しい自然と良好な生活環境を確保することが狙いであります。ですから、県あるいは町と地域住民の積極的な連携、協働が、今後より重要に思います。そのことで、環境あるいは防災、教育、社会福祉など、いろんな面で地域コミュニティが図られることは、私は明確であると思っております。今後、町長が音頭をとり、そしてさらにこの芦北地域の特性を反映した取り組みがなされることを願いまして、最後に町長の決意をお伺いしまして、私は終わります。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　趣旨は十分理解しましたので、頑張ってまいりたいと思います。平松議員も共に公役に参加して頑張りましょう。

○議長（藤井公明君）　平松君の質問が終わりました。

最後に、寺本順一君。

○４番（寺本順一君）　一般質問のしんがりを務めさせていただきます。

昼食後の非常に眠気を誘う時間帯になりましたので、一つ気合いを入れて頑張ってみたいと思います。

３月の町議選におきまして、再度、町議会議員としての議席を与えていただきま

した。議会は、住民を代表して重要な案件を審議し、決定し、一方、行政を監視する機関であり、何が善で、何が正しいかを明確に示すとともに、自らも厳しい批判に耐えうる覚悟をもって行動しなければなりません。そのためには、強い勇気と奮起が要求されます。

今回の質問は、児童生徒の社会体育スポーツクラブの問題についてお尋ねいたします。今年３月、本町は次世代育成支援行動計画５カ年計画が策定され、公表されました。誰もが安心して子育てができる町芦北を基本理念といたしまして、行動計画を策定されましたわけでございますが、その方向性を定め、次世代を担う子どもたちは、私たちの大切な宝物として、子どもたち一人一人が生き生きと健やかに育つように、地域社会全体で子育て支援することが重要であるとされております。

このような考え方での成果の実現に向け、行政が最大の努力を払うことはもとより、住民一人一人や保護者、さらには関係団体や関係機関等などが連携を図りながら、その具体化に努めていく必要があります。それには、輝く未来と無限の可能性をもつ子どもの成長を願い、子どもにとって幸せを考えた環境づくり、また地域ぐるみでの子育てをする環境づくりを行うことが重要であります。

国は、今月６月より、政権公約の半額でありますが、子ども手当、１人当たり月額１万３，０００円の支給を始めました。さらに、すべての子どもに教育のチャンスを与える教育支援の目玉としての高校無償化の関連法が３月３１日に成立し、４月から公約どおり、公立高校の授業料が不要となりました。

本町においても、子ども医療費助成事業を中学３年までに引き上げるなどして、子育て支援を積極的に行っております。

このように、国も地方自治体も「子どもはみんなで育てる」を合い言葉に、種々の施策が実施されております。

このような中で、旧芦北町と田浦町が合併してから、早いもので５年余の歳月が経過しましたが、くすぶり続けている問題がございます。今回通告しました児童生徒の社会体育スポーツクラブが使用しております施設使用料の有料化の問題であります。これにつきましては、合併後、田浦地区のスポーツクラブの保護者主催で、教育課に無料化できないか話し合いが行われました。また、行政懇談会の場においても、保護者の方々より、町の執行部に懇願されてこられました。また、話によりますと、町と議会に対して、陳情活動もされたと聞いております。教育課の説明では、使用者負担の原則により、またクラブ育成補助金を支給しているから等の理由によりまして、再三にわたる要望も受け入れられなかったようでございます。

合併前の旧田浦町においては、子育て支援の上から、また児童生徒の体力向上と健全育成を目的に無料であり、保護者及び指導者の立場になって考えるならば、合

併による弊害と言われるのも当然のような気がいたします。

健全な精神は健全な肉体に宿るの言葉にありますように、スポーツのもつ効果は、青少年の育成にとって計り知れないものがあります。輝く未来と無限の可能性をもつ子どもの成長を願い、児童生徒のスポーツクラブ活動における公共施設の使用料、これは年間約２００万円程度でございますが、無料化にする考えはないか、教育委員会、町長の責任ある明確な答弁を求めて、第１回目の質問を終わらせていただきます。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　お答えをいたします。

体育施設等々の使用料の無料化についてでございますが、子育て支援により無料化できないかということでございまして、子育て支援につきましては、本町の総合計画の子育て環境の整備で関連して事業を進めておりますが、ただいまの御質問では、体力の向上、青少年の健全育成という観点から、施設使用料の無料化はできないかということでございますので、これは教育委員会の所管でありますので、そちらに答弁は委ねたいと思いますが、本件につきましては、平成１８年３月の議会の定例会、委員長報告で嘆願書につきましては、不採択にするという結論が出ております。いわゆる議会の機関意思が不採択ということで決定したわけでありまして、私どもはそれを尊重する形で今日まで来ておりますので、申し添えておきたいと思います。

○議長（藤井公明君）　竹浦教育長。

○教育長（竹浦裕道君）　お答えいたします。

現在、児童生徒のスポーツクラブ、社会体育につきましては、１８の団体のクラブが活動しております。この活動に伴いますグラウンド、体育館等の使用料につきましては、芦北町体育施設条例に基づき、ほとんどのクラブ団体の理解もいただいた中で、使用料を納付していただいておりますので、無料化は考えておりません。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　寺本順一君。

○４番（寺本順一君）　今から３、４年ほど前かな、合併後ですね、改善センターで地区座談会が実施されました。行政座談会ですね、町長以下、各課長出席のもと。その場で、この問題について、保護者の方からいろいろと無料化の問題について要望がなされたわけでございますけれども、当時の説明といたしましては、利用者使用の原則ですか、そのこと、それから補助金を町が出しているから、その身代わりにですね、結局、無料化にすることはできないというような話でございました。

また、その後、教育課と保護者の方々とこの問題について、先ほど私、申し上げ

ましたように、会議がもたれたわけでございます。私、ちょうど町会議員しておりましたので、その場に出席したわけでございますが、やはりそのときにもそのようなことを言われたわけでございます。ここで、これはもう教育委員会の所管でございますので、教育委員会、教育長、事務方の責任者でございますけれども、教育長にお尋ねしたいと思いますが、私は、その２つの会議、説明会の中でそのことが一応これにも、先ほど申し上げましたように、そういう形で申し上げましたけれども、頭にあるわけでございますけれども、町の助成金をもらわなければ、無料化にできるのか、そこらを教育長に聞きたいと思います。分かりますか、意味は。結局、育成補助金をやってるから、結局、使用料を取りますということと、それから先ほど申し上げましたように、利用者の負担の原則といいますか、そういうことによって、この問題は無料化にできないというような話であったわけでございます。そのことを、まず、育成補助金をもらわなかった場合、料金を免除できるのか、そこをまず１点お聞きしたいと思います。

○議長（藤井公明君）　竹浦教育長。

○教育長（竹浦裕道君）　今のは、その利用者から申請を上げないで、支援補助金の３万５，０００円をもらわなかった場合は無料になるかというような趣旨の意味合いでございますか。

○議長（藤井公明君）　寺本順一君。

○４番（寺本順一君）　教育委員会から育成補助金をやっとるでしょう。２１年度の会計報告を見てみますと、４万２，６００円もらっとるんですよ、町の方からですね、育成補助金。これをもらわなかったら、使用料を免除できるのかというようなことです。

○議長（藤井公明君）　竹浦教育長。

○教育長（竹浦裕道君）　お答えいたします。

それは、あくまでもこの条例等の趣旨からいたしまして、無料化ということはできかねます。

○議長（藤井公明君）　寺本順一君。

○４番（寺本順一君）　それでは、利用者負担の原則のことも当時言われましたけれども、これは一応このことに対してはどう考えるのか。

○議長（藤井公明君）　教育長。即答できなければですね、答弁の時間は十分取りますので、検討されて、間違いのないような答弁を求めます。竹浦教育長。

○教育長（竹浦裕道君）　事務方の担当課長から答弁をさせたいと思います。

○議長（藤井公明君）　中原生涯学習課長。

○生涯学習課長（中原豊徳君）　お答えをしたいと思います。

まず、補助金を出しております。それに、また交通費等の補助もあるわけでございますが、これに関しましては、社会体育クラブという体育クラブに入っているのみに補助をしているわけでございますので、これをもらわないということであれば、その体育クラブ自体から離脱し、例えばクラブ活動とか、そのような形になれば、それは社会体育のみに補助をやっとるということになっております。

それから、公共施設でございます。そういうことで、それぞれに一般の方々も、それからある団体も利用されるわけでございまして、その施設についてはいろんな形で公益的な修繕とか修理とかが入っております。そういうことで、使われる方の特典みたいなものでございますので、使われる方におきましては、幾分かの御負担をいただくという受益者負担の原則というのを考えております。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　寺本順一君。

○４番（寺本順一君）　今日、一般質問の中で、なぜ私がこの問題に触れたかといいますと、旧田浦町では、先ほど申し上げましたように、子育て支援、あるいは児童生徒の健全育成という観点から、一応取っていなかったわけでございます。これはもう歴代、ずっと取っておりませんでした。合併したところが、やはり使用料を払わにゃいかんというようなことで、非常に保護者の間からその不満というのが、これは今もあるわけでございます。ちなみにですね、このクラブ、これは田浦少年野球クラブでございますが、一応、会計の概略を申し上げますと、１２名のクラブ員でございまして、世帯数にして９名、結局、兄弟が入っているというようなところもございまして、９世帯、１２名というような組織でございまして、年間の使用料が１４万９，０００円、これはグラウンドと改善センター、まあ改善センターの使用料は微々たるものでございますが、ほとんどグラウンドの使用料が。全体の予算額５４万３，０００円余、約２８％、３０％近くがグラウンド使用料に使われておるというようなことでございます。

非常に、私が関心しましたのが、野球をするのみならずですね、廃品回収をして、結局、会費を作ったり、あるいは新入団員が入りますと歓迎会をしたり、あるいは６年生が卒業するときには送別会、新年には正月野球をして新年会をするといった、そういう活動まで実施しておるわけでございまして、当然、少年野球、郡で優勝しますと、県体等にも出ていくわけでございますが、そういったときのマイクロバスの使用料とか借上料とか、いろいろそういうこともございます。

非常に、１週間ほど前、父兄の方が来られましたけれども、これだけでも負けてもらうと、非常に自分たちの会は助かるんだがなあ。今、ボール一つ買えない状態ですと。これ以外にですね、これはだいたい１人当たりにしますと５万円、１世帯

当たり、１人当たりにしますと５万円程度の年間負担でございますが、このほかにやはりユニフォームを買ったり、あるいは個人的な道具を買ったりしますので、これ以上の金が要るわけでございます。

会員の募集に行ったところが、結局、少年野球は金が要るから入らんというようなことも言われましたというようなことも聞いたわけですね。そういう実態でございます。

補助金もすがるような気持ちで、補助金は要らんけん、結局、グラウンド使用料を免除できないかというようなことも、私、要望を受けました。そういう実態でございますので、一つこれは子どもの健全育成といいますか、町にとっても大きな、私は財産であろうと思うわけです。

学校の部活動は先生が転勤すると、その次に引き継ぐ先生がいなかった場合は、消滅する恐れがありますけれども、この社会体育のスポーツクラブというのは、地域で指導員がおりまして、永遠に続くものでございます。もし、こういったスポーツクラブがなかったならばどうなのか、非常にやっぱりそのことを考えるとですね、このクラブの子どもに対する役割といったものは非常に大なるものがあるのではなかろうかと、私は個人的に思っておるわけでございます。

本町も、先ほど申し上げましたように、芦北町の次世代育成支援行動計画なるものを今年の３月、５カ年計画を作っておられます。やはり、その基本理念であります「誰もが安心して子育てできる芦北」、こういった理念に恐らくこういった少年野球、少年スポーツクラブ、田浦にはバドミントンとか剣道とかほかにも、あるいはサッカー、ございますけれども、すべて社会体育で実施しているものでございます。

やはり、これはもうお互いが分かっておると思いますが、子育ての時期には、やはり金も要ります。非常にやっぱり経済的に、こう言っちゃ何ですけれども、厳しい家庭もあるわけでございまして、やはり子どもの欲求を満たすためにはですね、是非、町でも一つ、この問題を考えていただきたいと思っておるわけでございます。

単に議会で否決といいますか、決まらなかったとか、あるいは結局、条例に制定してあるからとか、そういう問題よりも、その理念といったものをお互い考えていただいてですね、やはりこういうまちづくりの一環にしていただければどうだろうかと思いますけれども、町長、再度、決意のほどをお願いしたいと思います。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　条例があると、その条例は合併協議会の細目にわたる協議の結果ですね、そのような方向で条例が出来て、議会で議決したということです。さら

に、それは見直してほしいということで、議会でも検討したけれども、不採択であったということであります。

しかし、今後ですね、ただいま発言されたような方向で、議会の方もですね、行くべきだということであればですね、議会の方からでも、また発議をされても、私はいいんじゃなかろうかなと思います。

それで、おっしゃる趣旨は、もう十分理解できますので、条例がある以上はそれを遵守するのが当然でありますけれども、まあそのほかにですね、無料化に等しいような、何か新たな政策でも打ち出せるということであればですね、これも私は検討に値すると思っております。

そういうことでですね、また再度、一つ勉強させていただきたいと思います。

○議長（藤井公明君）　寺本順一君。

○４番（寺本順一君）　町長の若干前向きのお言葉をいただきました。できればですね、条例の中でも町長が認めるものはというような条項も作ればできますので、一つ教育委員会とそこらあたりは、是非打ち合わせをしていただきましてですね、一つ保護者の負担軽減のために、一つよろしくお願いを申し上げまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。

○議長（藤井公明君）　寺本順一君の質問が終わりました。

以上で、一般質問を終わります。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第６　陳情第４号　選択的夫婦別姓制度法制化に反対する意見書の提出を求める陳情書

○議長（藤井公明君）　日程第６、陳情第４号「選択的夫婦別姓制度法制化に反対する意見書の提出を求める陳情書」を議題とします。

お諮りします。陳情第４号については、会議規則第９０条第２項の規定によって、委員会の付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、陳情第４号につきましては、委員会付託を省略することに決定しました。

陳情第４号の内容については、お手元に配付しております陳情書の写しのとおりです。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから陳情第４号を採決します。

お諮りします。本件は採択することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、陳情第４号については採択することに決定しました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

○議長（藤井公明君）　以上で、本日の日程はすべて終了しました。

本日はこれで散会します。

ご苦労さまでした。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

散会　午後２時３２分

平成２２年第３回芦北町議会定例会議事日程（第２号）

平成２２年６月１６日
午前１０時　開　　議
於　　議　　場

１　議事日程

開会宣告

日程第　１	承認第　５号	専決処分の承認を求めることについて 平成２２年度芦北町一般会計補正予算（第１号）
日程第　２	報告第　１号	継続費繰越計算書について
日程第　３	報告第　２号	繰越明許費繰越計算書について
日程第　４	報告第　３号	有限会社あしきたマリンサービスの経営状況の報告について
日程第　５	報告第　４号	有限会社御立岬の経営状況の報告について
日程第　６	議案第２３号	平成２２年度芦北町一般会計補正予算（第２号）
日程第　７	議案第２４号	平成２２年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）
日程第　８	議案第２５号	芦北町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
日程第　９	議案第２６号	芦北町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
日程第１０	議案第２７号	芦北町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について
日程第１１	議案第２８号	熊本県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更について
日程第１２	議案第２９号	芦北町立公園条例の一部を改正する条例の制定について
日程第１３	議案第３０号	芦北町営住宅管理条例の一部を改正する条例の制定について
日程第１４	議案第３１号	町道の路線認定について
日程第１５	議案第３２号	工事請負契約の変更について
日程第１６	諮問第　２号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて

日程第１７　諮問第　３号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
日程第１８　発議第　５号　選択的夫婦別姓制度法制化に反対する意見書案
日程第１９　議員派遣の件
（一括議題＝日程第２３まで）
日程第２０　総務常任委員会の閉会中の継続審査及び特定事件（所管事務）調査の申出
日程第２１　建設経済常任委員会の閉会中の継続審査及び特定事件（所管事務）調査の申出
日程第２２　文教厚生常任委員会の閉会中の継続審査及び特定事件（所管事務）調査の申出
日程第２３　議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申出
（閉　会）

２　出席議員（１６人）

１番　坂　本　　登　君	２番　林　田　燿　宏　君
３番　宮　内　道　則　君	４番　寺　本　順　一　君
５番　古　村　逸　男　君	６番　白　坂　康　浩　君
７番　草　野　安　道　君	８番　前　田　徹　一　君
９番　元　山　秀　志　君	10番　宮　尾　秀　行　君
11番　平　松　洋　一　君	12番　川　尻　成　美　君
13番　水　口　宣　之　君	14番　岡　部　恵美子　君
15番　寺　本　修　一　君	16番　藤　井　公　明　君

３　欠席議員（０名）

４　説明のため出席した者の職氏名（１７人）

町　　長	竹　﨑　一　成　君	副　町　長	藤　崎　正　司　君
教育委員長	本　山　　嵩　君	教　育　長	竹　浦　裕　道　君
総　務　課　長	井　川　良　一　君	企画財政課長	井　上　民　男　君
田浦基幹支所長	早　川　純　一　君	税　務　課　長	農　中　　豊　君
住民生活課長	迫　本　文　雄　君	商工観光課長	坂　梨　　優　君
福　祉　課　長	大　岩　憲　治　君	農林水産課長	柳　田　豊　彦　君
建　設　課　長	竹　田　茂　幸　君	上下水道課長	山　本　正　博　君

教育課長	永田光洋君	生涯学習課長	中原豊徳君
会計管理者兼 会計室長	野口博司君		

5　職務のため出席した事務局職員の職氏名（２人）

議会事務局長	福山勝廣君	次長（係長）	岡田謙治君

開議　午前１０時００分

－－－－－－－－○－－－－－－－－

○議長（藤井公明君）　おはようございます。

直ちに本日の会議を開きます。

昨日の平松議員の一般質問の答弁の中で、訂正したい旨の、建設課長から申し出があっておりますので、これを許可します。竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　おはようございます。

昨日、１５日の議会定例会一般質問に対します私の答弁におきまして、質問要旨に沿わない部分がございましたので、修正をさせていただきます。

一般質問、順番５、平松議員の２点目、一斉清掃の実態と今後の対応についての中で、河川清掃を実施している地区の数を尋ねられ、私が８５地区中１５地区とお答えいたしましたが、この数は草刈り等、河川管理に関する数値であります。御質問の趣旨である河川清掃実施地区は、その後、聞り取り調査をしましたところ、８５地区中２８地区ございました。お詫び申し上げ、修正の答弁とさせていただきます。

○議長（藤井公明君）　本日の日程は、お手元に配付しております議事日程のとおりであります。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１　承認第５号　専決処分の承認を求めることについて
平成２２年度芦北町一般会計補正予算（第１号）

○議長（藤井公明君）　日程第１、承認第５号「専決処分の承認を求めることについて」を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。井上企画財政課長。

○企画財政課長（井上民男君）　皆様、おはようございます。

承認第５号、専決処分の承認を求めることについて、平成２２年度芦北町一般会計補正予算（第１号）を、５月３１日付けで、地方自治法第１７９条第１項の規定に基づき、専決処分をいたしましたので、その内容を説明し、承認を求めるものでございます。平成２２年６月１５日報告、町長名。

今回の補正は、平成２２年５月２３日の大雨による災害復旧費で、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ２，０１７万１，０００円を追加し、総額を９４億７，５１７万１，０００円とするものでございます。

それでは、歳出から御説明をいたします。

予算書の７ページをお開きください。

款１０災害復旧費です。農林水産施設災害復旧費９３万６，０００円は、農地災

害４件の５１万円と、農業用施設災害１件の７万５，０００円に係る小災害復旧事業補助金及び林業用施設災害１件に係る工事請負費３５万１，０００円であります。

公共土木施設災害復旧費の１，９２３万５，０００円の補正につきましては、乙千屋橋災害ほか、河川災害２件に係る災害査定のための測量設計委託料及び地質調査等でございます。

次に、歳入につきまして御説明を申し上げます。

６ページをお開きください。

災害復旧に係ります２，０１７万１，０００円につきましては、財政町政基金を繰り入れるものでございます。

以上で報告を終わります。御承認いただきますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから承認第５号を採決します。お諮りします。本案は承認することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、承認第５号は承認することに決定しました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第２　報告第１号　継続費繰越計算書について

○議長（藤井公明君）　日程第２、報告第１号「継続費繰越計算書について」を議題とします。

本案の報告を求めます。井上企画財政課長。

○企画財政課長（井上民男君）　報告第１号、継続費繰越計算書について御説明を申し上げます。

芦北町一般会計補正予算、継続費の平成２１年度、年割額に係る歳出予算の経費の金額のうち、支出の終わらなかったものにつきまして、別紙のとおり、逓次繰り越しをいたしましたので、地方自治法施行令第１４５条第１項の規定によりまし

て、５月３１日まで繰越計算書を調整し、御報告をするものでございます。平成２２年６月１５日報告、町長名。

次のページの表で御説明をいたします。

平成２１年度芦北町継続費繰越計算書。事業名は、清掃センター芦北事業所解体整備事業でございます。

継続費の総額は３億２，４９９万４，０００円で、平成２１年度の予算額８，６０４万３，０００円から、支出済額の５，７２７万４，１００円を差し引いた残額２，８７６万８，９００円を翌年度へ逓次繰越をするものでございます。

また、湯北地区排水対策事業につきまして、継続費の総額は７億６，４２０万３，０００円で、平成２１年度の予算現額１億４，４３８万７，０００円から、支出済額６，６３５万１，１２７円を差し引いた残額７，８０３万５，８７３円を翌年度に逓次繰越をするものでございます。

以上で報告を申し上げます。

○議長（藤井公明君）　報告が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これで報告第１号を終わります。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第３　報告第２号　繰越明許費繰越計算書について

○議長（藤井公明君）　日程第３、報告第２号「繰越明許費繰越計算書について」を議題とします。

本案の報告を求めます。井上企画財政課長。

○企画財政課長（井上民男君）　報告第２号、繰越明許費繰越計算書について。

平成２１年度芦北町一般会計補正予算の第７号第２条、第９号第２条の繰越明許費は、別紙のとおり翌年度に繰り越しをいたしましたので、地方自治法施行令第１４６条第２項の規定により、５月３１日までに繰越計算書を調整し、議会に報告をするものでございます。平成２２年６月１５日報告、町長名。

平成２１年度芦北町繰越明許費繰越計算書。

次のページの表で御説明をいたします。

この繰越内容につきましては、先の議会でそれぞれ繰越明許費補正として出しているものでございます。

款２総務費の公用車購入事業から、款１０災害復旧費の公共土木施設災害復旧事業費までの２５件の合計１６億１，７５４万８，１３３円を翌年度へ繰り越しをいた

しております。

財源内訳は、既収入特定財源７万１，１００円、国県支出金が１３億１，０１０万６，０００円、地方債が１億８，３２０万円、その他が８４万３，８３５円、一般財源が１億２，３３２万７，１９８円でございます。

主な繰越理由は、国の経済対策補正に伴う事業で、強い農業づくり交付金、選果場整備事業、地域活性化公共投資臨時交付金事業、きめ細かな臨時交付金事業、安全・安心な学校づくり交付金事業、小・中耐震工事等で適正工期がとれないため、繰り越しをするものでございます。

以上で報告を終わります。よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　報告が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これで報告第２号を終わります。

－－－－－－－○－－－－－－－

日程第４　報告第３号　有限会社あしきたマリンサービスの経営状況の報告について

○議長（藤井公明君）　日程第４、報告第３号「有限会社あしきたマリンサービスの経営状況の報告について」を議題とします。

本案の報告を求めます。坂梨商工観光課長。

○商工観光課長（坂梨　優君）　おはようございます。

報告第３号、有限会社あしきたマリンサービスの経営状況の報告につきまして、地方自治法第２４３条の３第２項の規定に基づき議会に提出いたしましたので、その内容を報告するものでございます。

まず、資料の３ページにあります平成２１年度の営業報告について申し上げます。

事業として、県立芦北青少年の家の一部受託事業と、芦北海浜総合公園の管理運営の業務を受託し、独自事業として軽食やかき氷の販売を行いました。

利用状況でありますが、県立芦北青少年の利用者は、５６４団体、６万３，０３５人で、児童生徒の減少、新型インフルエンザの流行により、６万５，０００人目標に対しまして若干下回りました。

海浜総合公園は、延べ３万２，７８９人で、前年度よりも営業日数も天候に恵まれ、８日間上回り、公園使用料は２，０８５万１，３００円で、前年比７．５％の増でございました。

受託しました施設ごとの収入として、芦北青少年の家の施設管理運営業務委託受

託料が7，１２３万7，４９０円、芦北海浜総合公園等の受託料4，１６８万4，２７３円でありました。

以上の結果、本年度の実績は、総収入１億1，２９２万1，７６３円、税引き前当期利益は４２７万8，５５６円でありました。これにより、町に４年ぶりに一部寄付を行い、出資団体にも出資額に応じて３％出資配当が行われました。

その他、貸借対照表が４ページから、損益計算書が６ページにありますので、後でご覧いただければと思います。

なお、７ページから販売費及び一般管理費など、９ページに利益処分案がございます。

最後に、２２年度計画について申し上げます。芦北青少年の家の一部受託と芦北海浜総合公園管理運営の一部業務を引き続き行うことになり、前年同様に施設における運営に全力を注ぎ、親しまれる施設として取り組んでまいります。

１１ページに運営の基本方針、１２ページから収支計画を記載しておりますので、ご覧いただければと思っております。

以上で報告を終わります。よろしくお願いします。

○議長（藤井公明君）　報告が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。坂本君。

○１番（坂本　登君）　おはようございます。

初めてのことで、分からないことが多いので教えてください。

６ページ、寄付金２００万円について詳しく教えてください。

８ページ、賞与についても同じく詳しく教えてください。

９ページ、出資配当金についても詳しく、誰に何人、こういうことが詳しく教えてください。

それと、その９ページの、これは町民からいただいた疑問なんですけど、監査役に執行部の竹浦さんが入っておられるのは、これは公平透明な監査が果たしてできるのかという、法的には何も執行部は監査役になってはいけないということはないんですが、そういう町民からの疑問がですね、ありましたので、そこもどう考えておられるのか教えてください。

それと、１２ページ、海浜総合公園委託料収入、金額が4，１５１万円、町から出ているのか、中身を詳しく教えてください。

以上、よろしくお願いします。

○議長（藤井公明君）　坂梨商工観光課長。

○商工観光課長（坂梨　優君）　坂本議員の質問にお答えいたします。

まず、寄付金でございますけれども、寄付金におきましては、通常、経営状況が

いい場合は、出資団体であります町が基本的には大まかな株主でございますので、そういうものに対しまして必要な寄付金という形で行っております。平成１１年度から行いまして、昨年度、２００万円という形で、累計寄付金に対しましては、今回の寄付金を入れまして、トータル１，９８０万円になっております。

それから、賞与につきましては、それで各会社で決めてあります芦北町役場に相当する行二の給与法を体系といたしまして、それに基づいて支払いを行っております。あくまでも営業利益がいいということの段階でありますので、基本的には町職員の行二の体系を採用しているということでございます。

出資配当金でございますけれども、これにつきましては、出資額に応じて配当をなされているもので、出資者につきましては、町、それから農協、漁協で出資を行っておりまして、その内容につきましては、出資額に応じて６６万円、今回お支払いをしたわけでございますけれども、町に対しまして５８万５，０００円、ＪＡに対しまして６万円、漁協に対しまして１万５，０００円の出資配当を行ったというところでございます。

それから、監査役につきましては、通常、設備した段階で、そういった定款で定めておりますので、その旨で取締役等について設定をされているものと思っております。

それから、委託料、海浜公園の受託料収入でございますけれども、これにつきましては、現在、海浜総合公園にマリンサービスから派遣されております職員が１３名いらっしゃいます。その人件費としてマリンサービスの方に委託料として支払っているものでございます。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　坂本君。

○１番（坂本　登君）　９ページの監査役のことなんですが、住民からの声に聞いたことによりますと、民間の有識者、会計士だとか、こういう方の方が住民にとっては分かりやすいんじゃないかということを聞かれましたので取り上げたわけです。

それと、１２ページ、従業員の給与ということでしたが、金額が大きかったのでお聞きをしました。

どうもありがとうございました。

○議長（藤井公明君）　ほかにありませんか。川尻君。

○１２番（川尻成美君）　毎回お尋ねを、質疑じゃなくてですね、この報告に対してはお尋ねをしておりますけれども、商工観光課長が答えるのはですね、なかなか問題があるんじゃないか、社長が答えるならですね、ちょっと提言的にいえるんですけど、今日、出席を要求しておりませんので、こういう形になりますが、町長、株主

の一人として、前年度、私が提言したことに対して、株主総会でも発言をするからということでございました。その内容は、要するに、事業会計という形ではですね、非常に上げてないものですから、事業会計として計算はしてあるんですけれども、委託料、そして売上金というのは、使用料、手数料というのは、一般会計に入っておりますので、そのところの全体的な収支が見えないんですよね、はっきり言って。一般会計から予算書を見て、はっきり言うて、今年度２２年度の収入というのはですね、これは予算ですので、遊戯費が1,８２５万2,０００円、駐車場３７３万1,０００円、リフト代に１６万9,０００円、合計2,２１５万2,０００円が売上として上がる、これにはそれは全然組み込まれていない。だからこそ、これを組み入れてトータルどうなのかということであれば、非常に見やすいわけです、事業会計として。それをいつも提言しているんですけれども、町長が株主総会、多分もうされて、こういう報告だと思いますが、どういう株主総会では意見が出ましたか。その点をお聞きしたいというふうに思います。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　株主総会では、私は来賓として案内を受けるわけなんですけれども、その件につきましては、特段意見は出なかったわけですけれども、先にもそういう御提言もありましたし、今期、御検討させてください。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１２番（川尻成美君）　再度ですけれども、要するに、御立岬有限会社につきましては、明確に分かるわけですね。こういう形であれば分かりにくいし、特別会計にしてはどうかなということも考えておりますし、できればもうマリンサービスで御立岬と一緒のような経営をして、赤字がどうのこうのということもですね、なかなかいえませんけれども、やめろとかもいえませんけれども、やはり少なくするためにはどういう補てんを、委託料を少なくするためには、寄付のどういうことじゃなくしてですね、いかにどうすれば経営が成り立つのか、要するに事業会計という形の中のですね、運営をするような経営手腕にですね、やっぱり株主としても配当が利益が出て配当をもらえる権利があるものですからですね、だいたいこの状態では寄付としてはちょっとおかしいなあということもあるものですからですね、そのところを早くですね、検討して、どういう方向づけにいくのかというのを取締役として、また再度お願いしたいと思います。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　ただいまの御意見を十分考慮いたしまして、今後取り組みたいと思います。

○議長（藤井公明君）　ほかにありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　議会の皆さんに申し上げておきますが、この報告第３号、報告第４号につきましては、議会に報告する義務がありますので、今、報告をしておるわけでございます。これは議決事項じゃございませんので、お尋ね程度でとどめてもらいたいというふうに申し上げておきます。

これで報告第３号を終わります。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第５　報告第４号　有限会社御立岬の経営状況の報告について

○議長（藤井公明君）　日程第５、報告第４号「有限会社御立岬の経営状況の報告について」を議題とします。

本案の報告を求めます。坂梨商工観光課長。

○商工観光課長（坂梨　優君）　報告第４号、有限会社御立岬の経営状況報告につきまして、地方自治法第２４３条の３第２項の規定に基づき議会に提出いたしましたので、その内容を御報告するものでございます。

まず、３ページにあります平成２１年度の営業報告について申し上げます。

平成２１年度の利用者数は５０万５，５２６人で、前年比８５．６％の８万４，６１５人の減少でございました。主な減少した理由につきましては、芦北インター供用開始に伴う交通形態が大きく変化し、物産館肥後うららの利用者の減少が主な理由であります。

利用者数の内訳といたしましては、公園利用者総数が１３万９，７２７人、前年比９８．２％、温泉センター１０万４，５９３人、前年比１０４．２％、物産館利用者２６万１，２０６人、前年比７５．１％でありました。

これにより、収入として、公園部５，６２５万１，０００円、温泉センター部５，４０１万円、物産館１億４，４４９万４，０００円となり、平成２１年度の総収入で２億５，４７５万５，５６７円、前年比で４，８０３万２，３６０円減でありましたが、会社全体で経費節減に努めた結果、税引き前当期利益は５０万７，６３６円となりました。

その他、貸借対照表が４ページ、損益計算書が５ページになりますので、後ほどご覧いただければと思います。

なお、６ページから販売費及び一般管理費が、７ページに利益処分計算書があります。

最後に、２２年度の計画について申し上げます。「すべてはお客様のために」を合言葉に、効率的な運営と集客力アップにつながるイベントや、ここしかない土産物、物産等の開発を目指し取り組んでまいります。

１１ページに事業計画、１２ページから事業部門計画を記載しておりますので、ご覧いただければと思います。

以上で報告を終わります。よろしくお願いします。

○議長（藤井公明君）　報告が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。寺本順一君。

○４番（寺本順一君）　６ページの賞与、ゼロになっております。この件についてお尋ねしたいと思います。

御立岬が開園しましてから２０年余の歳月が経っておるわけですが、これまでこういった賞与ゼロという年度はなかったんじゃなかろうかと記憶しております。この資料を見まして、私、昨日、ちょっと現場に行きましてですね、いろいろ話を聞いてみたんですけれども、またいろいろほかにも情報を聞いたわけですが、これは社長がここに竹浦社長がおられますけれども、この賞与については、有限会社御立岬の役員会をもって決められたのか、それとも社長独断で決められたのか、まあ話によりますと、一応会には諮ってないというようなお話でございます。有限会社御立岬という一つのこれは組織があるわけでございます。当然、町１００％出資の会社でございまして、いわゆる外郭団体みたいな会社であるわけでございますけれども、一人で決めたというようなことであればですね、非常にやっぱりけしからん話であって、もう独断的やり方を、個人の会社の社長であればですね、もう社長の意向で、ある程度、事通っていきますけれども、あくまでもこれは行政に関連した組織でございますので、そういうことはできないだろうというふうに私は思うわけでございます。それが事実なのか、一応社長にお聞きしたいと思います。

○議長（藤井公明君）　寺本順一君、報告に対してですね、先ほども申し上げましたように、尋ねる程度でですね、とどめてもらいたいということは、先ほど申し上げておきますので、中身の経営の状況についてはですね、議会はですね、それには介入できませんので、どうだったのか結果をですね、求めることはできます。

竹浦教育長。

○教育長（竹浦裕道君）　お答えいたします。

有限会社御立岬の基本経営といたしまして、独立採算制に近い経営を目指し、また単年度の経営収支で黒字を目指しておるところであります。そのような数値を目標を掲げた中で取り組んできております。その結果といたしまして、平成１５年、物産館事業部を併設し、以来、今期平成２０年度の期まで経営実績も上がり、賞与に関しましては、夏期、そして冬期、３月の期末期という利益実績に応じた賞与支給をしてきておりました。

また、お尋ねのこれまでの賞与ゼロの期があったのかというお尋ねでもございま

したが、そのことにつきましても併設前、物産館事業を併設前、いわゆる公園事業部だけのときは、無料支給を何回かやっております。それはもう当然、経営実績に基づいたところでやっております。

今期に入りまして、今、事業報告の中でもありましたとおり、入込み客数が激減し、経営状況が厳しくなり、やっとの思いで当期利益を計上することができたところであります。

民間の企業におきましても、経営実績と照らし合わせた賞与の支給等がされ、できない状況下も見受けられております。そのようなことで、単年度収支の利益確保を図りますために、代表取締役、私の専決の判断で今期の賞与の無支給を決め、そして取締役会の方に御報告させていただいたところであります。

以上です。

○議長（藤井公明君）　寺本君。

○４番（寺本順一君）　独立採算式のお考えは十分理解できますけれども、私が聞いておりますのは、社長独断で決めたのか、会社の役員会理事会に諮って決めたのか、そのことが私は組織として重要ではなかろうかという質問でございますので、そのことについて明確なお答えをお願いしたいと思います。

○議長（藤井公明君）　寺本君。

○４番（寺本順一君）　取締役会で決めたというような御答弁というようなことでございますが、私が昨日、調査した内容では、そういうことは誰一人言う人はおりませんでした。報告じゃなくてですね、やはりその会社の組織、形態があるわけですので、やはりこういう問題については、役員会をもって最終的に決めるべきじゃなかろうかと思います。それで、どうしても決まらない場合は、オーナーである、民間でいえばオーナーですね、町長に御相談申し上げて、対策をとるとか、そういうことも考えられるんじゃなかろうかと思うわけでございます。

ほかにも、給与の面でも、ぜんぜん昇給がずっとないというような。

○議長（藤井公明君）　寺本順一君、先ほど私が申し上げた、いわゆる法人組織の経営に議会が立ち入ることはできないと、先ほど申し上げましたでしょう。報告だから、これまであったことについての報告を求めることはできますけど、今、経営の中に入り込んだ、今、質疑をされておりますので、それはちょっと発言はもう止めますよ。

○４番（寺本順一君）　それじゃあ、議長、これに関する質問はそういうことじゃできない。

○議長（藤井公明君）　お尋ね程度はいいと言って。

○４番（寺本順一君）　それを今お尋ねするために、こういう実態があるからというよ

うなことで聞いておるわけです。

○議長（藤井公明君）　しかし、そのほかの。

○４番（寺本順一君）　事情を言わんことには、結局、お尋ねもできないわけでしょう。こういうことだが、どうかというようなことで聞かんことには。

○議長（藤井公明君）　結果がどうだったかということを求めることはできるけれども、第三者の意見をここに入れて。

○４番（寺本順一君）　最終的には、お尋ねになるわけですよ。

○議長（藤井公明君）　だから、率直に、ストレートに報告を聞いていただくということでですね、止めてもらいませんと、経営状況には議会は介入できないということははっきりして、もうご存じでしょう、町長経験もあられるわけですから。

○４番（寺本順一君）　だから、そういう町民の声を反映させるために、我々は、それを議長が止める必要はないでしょう。そういう実態、聞いたから、本当かというようなことを聞くわけですので。そういう内容を聞かんことには、説明せんことには、事が分からないわけでしょう。だから、それを聞くのが何でおかしいんですか。

○議長（藤井公明君）　いや、おかしいとは言っていませんが、経営のですね、詳細のことには立ち入りはできませんということです。

○４番（寺本順一君）　詳細なことについて、どうのこうのじゃなかっですよ。こういうことだが、聞いたが、どうかというようなことなんですよ。その程度の質問に阻止をされるようでは、これは町民の声を反映することはできないと思います。

○議長（藤井公明君）　いや、そうじゃないんです。

教育長。答弁を許しますから、はっきりですね、結果を述べてください。

○４番（寺本順一君）　端的に結果をよかっですよ。中身をどうのこうの、そういう給料についても結局これまで上がってないというような。でですね、私が言いたいのは、やはり２０年前、希望をもって、あそこの会社に、ほかの会社を辞めて入っとるんですよ。そういう人たちが結婚をして子どもをもって、いろいろ非常に金も要る時期なんですよ。そういう中で賞与もない、あるいは給料ももう、そらもう何年か知らないけれども、１０年近く上がらない、そういう状況なので、やはり独立採算の方式は分かりますけれども、一応そういうところも一つ加味していただいて、一応まあ何らかの方法があれば、一つよろしく前向きの形でやっていただきたいという要望でございます。

○議長（藤井公明君）　要望もいろいろ発言のですね、仕方によって変わってきますので、以前ですね、どうあったかこうあったかはですね、ここで問う問題じゃございませんので、結果がどうだったかということを聞くことしかできませんから。

教育長、最後に答弁を求めます。教育長。

○教育長（竹浦裕道君）　開催いたしました取締役員会の中でも、具体的にこの賞与無支給につきましては、各取締役の方からの御意見も承っております。具体的に冬期未処分利益を活用した賞与支給への充当ができないかとか、そういうものも御意見としてあっておりますので、発言があっておりますので、今後、取締役会の中でも十分検討して、今後進めていくというようなことを役員会の中で申し上げております。今後、そのような方向で、町当局の御指導もいただきながら、有限会社御立岬の経営にあたって、十分な事業目的が果たせるようにしていきたいと思っております。

なお、この当期利益金につきましては、会社といたしましては、やっぱりいざ事があったときには、しっかりした体力、そしてまた資本力も確保しておかなくてはいけませんので、当然のことながら、慎重な取扱いをしながら、そしてまた内部留保にもしっかり努めながら、経営にあたっていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　だいたい３回ですけど、まあ消化不良のところがありますので、これはもう特例であと１回だけ発言を許します。寺本順一君。

○４番（寺本順一君）　はい、ありがとうございます。

一応、社長の方からお話がございましたが、結局、今言われた話も最近されたんじゃないですか。もう１年過ぎてですね、今になってされたと聞いております。なら、報告したということにはならないんじゃないかと、私は思っております。報告というのは、もうすぐそのとき適宜にやっていかんと、１年経っても、３回もボーナスも賞与もやらんでおって、今になって、そして理事の人たちがそういう。

で、終わりになりますが、一応、そういう私物化的なことがないように、一つ今後十分気をつけて運営をしていただきたいと思います。いざ問題があったときは、町長さんがおられますので、町長あたりに相談をされてですね、どういうやり方をすればいいのか、やはり雇用した以上は、会社としてもそれだけのやっぱり責任、雇用責任といったものを十分感じながら、一つ会社の運営に頑張っていただきたいと思います。

議長、以上でございます。

○議長（藤井公明君）　ほかにありませんか。坂本君。

○１番（坂本　登君）　よろしくお願いします。

営業報告書の３ページに、３行目、減少の主な理由は、芦北インター、これこれに・・・を書いて、肥後うらら利用者数の減少が要因となっておりますということになっていますが、７ページの当期利益金が８万２３６円、もうわずかな黒字で賞

与と給料等もこういうふうになっているのかと思います。それで、会社の就業規則等がどうなっているのか。もしできるのであれば、この議会に提出していただけないかなと、１点はそういう報告をお願いします。

それと、９ページもインターが出来たことで、それがマイナスになっていると、影響を受けているということなんで、このことについて、やっぱりこの利益を上げるためにですね、私は以前、長いこと、長距離のトラックに乗っていたドライバーだったんですけど、ドライバー心理からいきますと、やっぱり看板がですね、非常に惹かれるというか、だから私はあそこのもう八代から来れば、宮原サービスエリアからもうトイレ休憩するところがないんです。だから、あのトンネルを出たところに、左手に御立岬の何かこう看板があるんですけど、あれは実際言うて、ドライバー心理からいくと、何が書いてあるか分からないんですね。あの中身を変えれるかどうか、そういう経営的なことは私は分かりませんけど、やっぱり田浦インターで、あそこでトイレ休憩、物産館でやっぱりトイレをするというふうなイメージの看板をですね、トイレ、そしてあそこの、皆さんもご存じのとおり、あそこのバイキング料理はもう最高ですね。本当においしいんです。だから、また行きたい、また食べたいってなるんですよね。だから、やっぱりトンネル出て、あの看板にやっぱりＰ、トイレ、バイキング、レストランとか何か、もう大きくですね、あれ本当に分からないですよ。皆さん、あれ何書いてあるか分かる人、難しいと思いますね。やっぱり８０キロか７０キロで行くわけですから、そういうあそこに下りていただくということを、前向きなあれが報告書に、黒字にするというか、それが書いてないものですから、私がこういうことを口出していいのか分からないですけれども、ドライバー、観光客の心理として、遠くから来た人が立ち寄って、トイレに入ったらトイレの前にも、あのきれいな御立岬海水浴場のですね、きれいな海岸の何か写真みたいなのがあれば、おお、これ何だって、ちょっとそこ海水浴場まで行ってみようかていうふうな、そういう前向きなといいますか、そうすると働く人もやっぱり利益が上がれば還元されるわけですので、そういうことをどう考えておられるのかと思ってですね、もう今から津奈木インター、水俣インターと出来れば、そこの芦北のファーマーズマーケットも同じような状況がやっぱり考えられますので、どうやってそこで下りてもらうかというのをですね、ちょっとどういうことを考えておられるのか報告していただければなあと思います。よろしくお願いします。

○議長（藤井公明君）　竹浦教育長。

○教育長（竹浦裕道君）　有難い御提言をいただきまして、感謝申し上げます。看板の設置、現在、田浦インター下り車線のその入り口に設置してあります。これは町

の行政の施設でございまして、あとまたそういうことで、誘客のより効果が上がるような中身のまた表示といいましょうか、そういうものをまた担当課の職員と協議しながら進めさせていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　坂本君。

○１番（坂本　登君）　是非ですね、この県外から来る人、また何回も来ていらっしゃる方でも、リピーターとしてですね、この素晴らしいやっぱりレストランや御立岬に、もう一回行ってみよう、今度家族連れて来ようと、こういうふうなですね、やっぱりことを根底において、一生懸命ですね、一緒になって頑張って、お客さんをとにかく芦北で遊んでもらう、来てもらう、こういう観点で頑張っていただきたいなあと思います。

どうもありがとうございました。

○議長（藤井公明君）　坂本君。執行部あるいは法人組織に対しての資料の要求はですね、議長に申し入れをしまして、議長が判断して、必要と認めた場合はですね、議長から要請します。そういう手順を踏んでください。

ほかにありませんか。平松君。

○１１番（平松洋一君）　今、報告第４号で、御立岬の経営状況の報告があっておりますが、非常に厳しい中身だなあというふうに考えております。先ほどありました有限会社あしきたマリンサービス、あるいはこの有限会社御立岬、同じ有限会社でございますが、片一方は賞与が出る、片一方はまったく出ないということでございますが、それの理由については独立採算制が原則だからということでございますが、やはり取締役会でですね、そこらへんについては十分な審議がなされるべきだというふうに思いますが、現在の恐らく取締役会というのは、構成がですね、役場の担当課長クラスがなられているのではないかと思いますが、このことにつきましては、多分、当初のいろんな問題でですね、こういう構成になったと思いますけど、やはり役場の課長さんはそれぞれの業務を持ちながら、そしてこのまた御立岬なり、マリンハウスなりの取締役ということについては、その責任がですね、どこまで及ぶのかよく分かりませんけど、やはり十分な審議をするためには、民間人の知恵といいますか、そこらへんが必要ではないかと特に思いますけど、その点が１点と、お尋ねですけど。

それから、もう１点ですね、御立岬の経営状況が悪化した理由については、いろいろまた分析されればいい話、今後の話でございますが、公園部分というのが非常なウエイトを占めておりますよね、公園。今、うららとか物産館とか、それから温泉部門とか、ゴーカート場とかいろいろありますけど、公園部分がございます。公

園部分に対しての費用まで、この収益の中から賄っていくと、非常な負担が強いられるということでございますから、ある部分、公園部分については、やはり町からある程度何か、景観部分がありますからですね、そういうものを手当を十分しながら、個々の負担軽減を図って、最終的には独立採算を図るというような考え方もですね、必要ではないかと思われます。ですから、そこらへんについては、取締役会で十分やっぱり協議をする部分がありますので、今言いましたそこらへん２点ですね、一つは公園部分のウエイトをですね、なるだけ軽く、そして経営がよくなるような考え方、もう一つは民間人の知恵が借りられないのかということをお尋ねをいたしたいと思いますけど、よろしいでしょうか。

○議長（藤井公明君）　竹浦教育長。

○教育長（竹浦裕道君）　お答えいたします。

まず、取締役の人選につきましては、１００％町の出資、行政出資というようなことでございますので、当然、出資者の方でなければ取締役への就任というのはいかがなものかなという思いがあります。そういうことで、旧田浦の立ち上げのときからもそのようなことでの観点から、行政関係者が取締役に、町が出資しておるということで、行政職員が取締役に就いておると、就任しておるというようなことになろうかと思います。したがいまして、民間からのということは、今のところは考えられない状況かなと判断いたします。

それから、公園部分の景観につきましては、今現在でも公園の管理委託といたして、商工観光課の方から百有余万円の委託料をいただいております。その中で公園の管理等を行っておりますけれども、このことにつきましても、取締役員会の中で既に今後の検討課題といたしまして、一応検討課題としてのそういう話題として出ております。そういうことで、今後、今、御意見いただきましたことも受け止めながら、取り組んでいきたいと思います。

以上です。

○議長（藤井公明君）　ほかにありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　これで報告第４号を終わります。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第６　議案第２３号　平成２２年度芦北町一般会計補正予算（第２号）

○議長（藤井公明君）　日程第６、議案第２３号「平成２２年度芦北町一般会計補正予算（第２号)」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。井上企画財政課長。

○企画財政課長（井上民男君）　議案第２３号、平成２２年度芦北町一般会計補正予算

（第２号）について御説明をいたします。

今回の補正は、予算の総額に歳入歳出それぞれ５，４４９万６，０００円を追加し、総額を９５億２，９６６万７，０００円とするものでございます。第２条は町債の追加で、第２表の地方債補正によるものでございます。平成２２年６月２５日提出、町長名。

それでは、お手元に配付をいたしております資料に基づき、歳出の方から説明をいたします。

予算書は８ページになります。

資料につきましては２ページからでございます。

まず、款２総務費です。一般管理費の１１０万５，０００円は、雇用保険料率が４月１日に改定がなされたことと、平成２１年度の保険料確定に伴い補正をするものでございます。

次に、企画費の４１１万円は、自治総合センター宝くじ助成事業のコミュニティ助成事業の交付決定を受け、大川内南地区のグラウンドゴルフ場整備と公民館の机、椅子の購入に対する２２０万円の補助と、地域社会振興財団の長寿社会づくりソフト事業の古石緑創会が行う高齢者の生きがいづくり事業として、石窯づくり及び体験教室の資材購入に１９１万円を補助をするものでございます。両方とも全額宝くじ助成によるもので、１００％の補助となっております。

戸籍住民基本台帳費の１０５万２，０００円は、５月１日から、水俣病救済申請の受付が始まり、電話相談や申請に必要な住民票等の附票の発行事務が増大をいたしているところでございます。これに対する県からの財政支援を受け、臨時職員１名を配置するもので、社会保険料、賃金を補正をするものでございます。

次に、款３民生費でございます。社会福祉施設費の３０４万８，０００円は、老人ホームで支援員１名の退職と調理員１名の人事異動に伴い、臨時職員２名を配置するものです。臨時職員の賃金、社会保険料、労災保険料でございます。

高齢者福祉費の２７万５，０００円は、老人ホームの平成23年度民間移譲に向け、移譲候補者を選定するための移譲候補者選定委員会設置に伴う委員報酬及び費用弁償です。

款４保健衛生費です。保健衛生費総務費の１３０万７，０００円は、吉尾診療所の臨時医師謝金の追加に伴う国民健康保険事業特別会計直診勘定への繰出金でございます。

歳出の内容につきましては、国保会計直診勘定で御説明がございます。

次に、予防費の１，２０７万８，０００円は、子宮頸がん予防接種委託料で、子宮頸がんは近年、２０代や３０代の若年層で増加傾向にあります。ワクチンの接種に

よって発症率を７０％減少すると推計されており、予防効果は高いものとされております。日本においても、昨年１２月から接種ができるようになりました。今回、子宮頸がんの予防接種委託料及び通知等の郵便料を計上するものでございます。

環境衛生費の１１８万円は、５月１日から新たに水俣病救済申請の受付が始まり、来庁者や電話相談件数が増加していることに伴いまして、これも県に財政支援を要望しておりました。支援の内定を受けまして、水俣病相談窓口に臨時職員１名を配置するもので、これに係る社会保険料及び賃金等を補正するものでございます。

資料は３ページになります。

芦北地区排水対策特別事業の２，７５０万円は、芦北地区排水対策経営事業負担金の補正でございます。政権交代により、予算の確保が難しく、事業実施の見込みが立っておりませんでしたけれども、県におきまして６月の補正予算の措置がなされまして、平成２２年度の工事着工の見通しが立ったことから、今年度の県営事業費１億１，０００万円の２５％、県事業負担率でございます２，７５０万円を県営事業負担金として予算計上するものでございます。

次に、林道費の３０万７，０００円は、作業路の路側が崩壊し、地区の飲料水のタンクが下流の方に設置をしてあるために、早急に対応するものでございます。

水産業振興費の５０万円は、漁船機械保全事業補助金でオイル漏れによるエンジン不調で、漁に出れない状態にあるために、早急に修繕するための補助でございます。

款６商工費です。御立岬公園費の４４万７，０００円は、御立岬温泉センターのエアコンが５月の連休に故障し、事務所、待合室、通路部分が使えない状態にあるため、夏場前までに修理をする必要があり、補正をするものでございます。

款７土木費です。道路新設改良費の８６万６，０００円は、宮崎湯治線、平生２号線の測量設計業務委託料で、県との設計協議において、舗装圧治療のため土質調査を行う必要があり、追加補正をするものでございます。

款９教育費です。教育指導費の１０万円は、４月下旬に特別支援教育事業委託の決定を受けましたので、教職員の適切な指導支援の充実を図るための講演会の実施や会議に伴う講師謝金、旅費等を補正をするものでございます。

教育振興費の１７万円は、基礎学力向上指定校に大野小学校が指定がなされました。地域のボランティアを活用し、低学年の基礎学力向上に対する取り組みを行うものでございます。

公民館費の４２万円は、丸山農村集落センターの屋根の改修に伴う補正で、雨漏りが発生しているための屋根の修繕を行うものでございます。

文化振興費の３万１，０００円は、広島県廿日市で開催される黒澤明生誕１００周年祭参加に伴う職員旅費でございます。

次に、歳入について御説明をいたします。

予算書は７ページになります。

資料は１ページでございます。

補正額５，４４９万６，０００円でございます。財源内訳は国県支出金で、基礎学力向上システム推進事業モデル校補助金の８万５，０００円と、水俣病相談窓口設置業務委託金２２３万２，０００円、それに特別支援教育総合推進事業委託金の９万５，０００円を合わせました２４１万２，０００円でございます。

次に、地方債の２，６１０万円につきましては、芦北地区排水対策県営事業に伴う町負担分を農業排水対策事業債、合併特例債により、財源措置をするものでございます。

そのほかにつきましては、雇用保険個人負担金の５３万２，０００円と、コミュニティ助成事業助成金２２０万円、それに長寿社会づくりソフト事業交付金１９１万円、合わせまして４６４万２，０００円でございます。

次に、一般財源の２，１３４万２，０００円につきましては、前年度繰越金を充てるものでございます。

次に、予算書の４ページをお開きください。

第２表の地方債補正について御説明をいたします。地方債の追加につきましては、先ほど申し上げました芦北地区排水対策県営事業に係ります町負担の財源として追加するものでございます。起債の目的は農業排水対策事業で、限度額２，６１０万円、起債の方法、利率、償還の方法につきましては、記載のとおりでございます。

以上が今回の補正の内容でございます。御審議の上、御議決いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。坂本君。

○１番（坂本　登君）　お願いします。

今、資料を配られた１ページの国・県の支出金、水俣病相談窓口設置業務委託金、こういう項目ですが、水俣病の窓口設置にこのお金が使われたのか、このへんを詳しく教えてください。

それと、予防費、子宮頸がんの事業なんですが、これは本当に素晴らしい予算を組んでいただいたと思います。命を生み出すですね、女性の命をワクチン接種によってかなり多くの命が救われるという素晴らしいワクチンであります。これに１，

２００万円と、金額は大きいように思いますが、本当にここに執行部の皆さんの知恵をですね、出し合って予算化されたことに本当に素晴らしいことだと思います。ただ、この対象者が今何歳なのか、何年生なのかが、ちょっと説明がなかったものですから、素晴らしいこの案なので、対象者がどこなのかを詳しくですね、教えていただきたい。それで、今日の熊日新聞では、希望者ということになっているんですけど、もうこのへんのところもですね、全員が対象に、対象者全員がならないのか、そのへんも詳しく教えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（藤井公明君）　迫本住民生活課長。

○住民生活課長（迫本文雄君）　お答えします。

まず、水俣病相談窓口の設置の件ですけど、昨日、一般質問でもありましたように、現在、水俣病窓口相談は住民生活課内で行っております。現在、職員３名と県からの委託料で賄っております専門相談員１名で実施しているところですけど、この補正後は専門相談員をあと２名追加して、その業務を行っていく予定でおります。

次に、子宮頸がんのことについてですけど、対象としましては、今年度につきましては、中学１年生から３年生までの女子生徒２５０人を予定しております。今後は、中学１年生になられる女子生徒を予定しているところでございます、次年度以降はですね。

それと、希望者だけということでございますけど、町内の各医療機関での接種を受けるのは個別接種でございます。どうして本町は個別接種なのかということでございますけど、集団接種につきましては、日程の調整等が困難な上、体調等により集団接種が実施できなかった生徒に対しましての接種の機会を設けることができません。個別接種は本人の体調や保護者の都合により、各医療機関で接種することができます。また、接種率を上げるために勧奨の方法としまして、保護者を対象にいたしまして、熊大の医師にお願いし、説明会を開催する計画でおります。同時に、生徒向けには学校を通じまして、養護教師から接種を勧めるように話をしていただくよう予定しております。

以上で回答します。

○議長（藤井公明君）　坂本君。

○１番（坂本　登君）　水俣病の窓口については、これからもですね、まだまだ被害者の方がたくさんいらっしゃいますので、本当に被害者の立場にたって業務をしていただければと思います。

それと、この予防接種のこの子宮頸がんのこれはちょうど中学生、１年生から３年生まで２５０人というお答えでしたけど、一番年頃でですね、私がなぜ希望者だ

けかとか、こういうことを言ったのは、ちょうど年頃で男子生徒から冷やかされたり、いろんな恥ずかしいことを言われたりして、私は行きたくないとか、そういった女生徒がですね、出てこないように、やっぱり熊大の先生が保護者をちゃんと説明する、また養護の先生が生徒にはこの大切さをですね、そこをもうきっちりですね、この予防接種がいかに大切な体にとってですね、良いことかというのを女生徒に、まあ男子生徒も是非ですね、冷やかしたり、恥ずかしいこととか、そういうことじゃないんだということをですね、やっぱりきっちり教えていただいて、やっぱりほとんど全員がですね、接種を受けるように是非勧めていただきたい、このように思います。やっぱりこのもしそういう辱めなんかの形で接種を受けない生徒がですね、大人になって、このがんになって命を落とすなんてことになったら、もう本当にやっぱりこんな悲しいことはありません。制度として出来たのにですね。だから、制度として出来るならば、本当にこの良さを、生徒、父兄に、もう本当に教えていただきたい。町長、このように思います。

○議長（藤井公明君）　ほかにありませんか。川尻君。

○１２番（川尻成美君）　坂本議員の関連です。４－１－２でございますが、この子宮頸がん予防接種委託料については、まさに同感でございまして、良いことと思いますけれども、なぜ当初予算でなかったのかなあというふうに感じます。一般財源でありますからですね、当初予算でやったら、でっかく新聞に一番と載るんじゃなかったのかなて、議運で議長も何かそういうことを言われたそうで、そしたら６月１１日ですね、西日本新聞には山都町が載っていまして、芦北町は小さく載っていて、私もちょっといらだちを感じたんですけれども、町長は特にそう思われたんじゃないかと思いますが、だから、当初予算になぜできなかったのかなあという、その疑問が一つと、今後これは、多分、当初予算で継続事業にならざるを得ない事業であります。そうしたときに、予算はこれよりも下がってくるんだと思うんですよね、１学年をやればいいわけですから。その点の具体的なことが１点。

それと、５－１－１５ですね、排水対策事業ですけれども、これは一番最後に工事契約に伴うことだというふうに、工事金額の増加に伴う予算が出ていますことは、全然違うわけですかね。何か予算締結の予算の増額が、これとは違うわけですかね。ちょっと具体的によろしく。

○議長（藤井公明君）　柳田農林水産課長。

○農林水産課長（柳田豊彦君）　芦北排水機場の件について申し上げますが、この件につきましては、実施計画にも示されておりますように、当初予算で措置をする予定でございました。ところが、政権交代等によりまして、当初予算に要求をして

おりましたが、１２月の２５日に熊本県の方からですね、新規事業については予算が削減される見込みだというふうな情報が入りまして、急遽、当初予算から削除をしたという経緯がございます。それが３月になりましてから、県の方に国が予算を付けるかもしれないという情報がありまして、その確定が５月の初めに事業費が判明をいたしました。それで、付くと、それも当初予算とまったく同じ１億１，０００万円が付くということがありましたので、県の方も６月の補正予算でそれを計上するということでありましたので、それに連動して芦北町も計上したという経緯でございます。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　当初予算に計上すべきではなかったかということでございますが、私もまったくその思いでおりますけれども、実はさっき説明がありましたように、国からですね、昨年の１２月にこのワクチン、承認されたわけでありまして、それと時を合わせまして、国でもですね、補助していこうじゃないかという、その考えで検討に入っておるということでございましたので、国の補助が付く、つまり補助制度がですね、できるまで待とうかという思いが一つはあったわけであります。それで、どうもここまで待ってもですね、国あるいは県の助成措置は付きそうにないということで、それで各自治体が今動き出したという経過でございます。

それと、もう一つは、やはり私どもとしましても、安全性の確認をしなければなりませんので、地元医師会の先生方にも十分話をし、その確認を行って、今回の提案になった次第であります。

○議長（藤井公明君）　ほかにありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第２３号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２３号は原案のとおり可決されました。

ここで暫時休憩します。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

休憩　午前１１時１３分

再開　午前１１時２１分

－－－－－－－－○－－－－－－－－

○議長（藤井公明君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第７　議案第２４号　平成２２年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）

○議長（藤井公明君）　日程第７、議案第２４号「平成２２年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号)」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。迫本住民生活課長。

○住民生活課長（迫本文雄君）　議案第２４号、平成２２年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）について御説明いたします。

今回の補正は、事業勘定の歳入歳出予算にそれぞれ９３万1，０００円を追加し、総額を３２億1，１６３万1，０００円に、直営診療施設勘定の歳入歳出予算にそれぞれ１３０万7，０００円を追加し、総額を5，２６０万7，０００円とするものでございます。

１１ページをお開きください。

まず、事業勘定の歳出から説明します。

款１目１一般管理費の９３万1，０００円は、職員の特別休暇に伴う事務補助員の人件費です。

歳入については１０ページです。

前年度繰越金９３万1，０００円を計上しています。

１３ページをお開きください。

次に、直診勘定の歳出です。

款１目１一般管理費の１３０万7，０００円は、現在、熊大からの臨時医師については節８報償費で、へき地支援機構からの医師派遣は節１３委託料で予算計上を行っていますが、今回、へき地支援機構からの医師派遣が週１回から月に１回ないし２回と変更になりましたので、報償費で臨時医師謝金１８５万円を、委託料でへき地支援機構派遣医師委託料８９万5，０００円の減額を計上しています。なお、金額の差異は主に単価によるものです。

次に、節９旅費についても、主に熊大からの医師派遣日数が増加したことにより、１２万5，０００円を計上しています。

節１２の役務費と節１８の備品購入費では、医師のインターネットでの環境整備

を図るため、電話料５万２，０００円と、パソコン購入費１１万７，０００円を計上しています。

そのほか、節１３の委託料で、貯水層清掃業務委託料５万８，０００円を計上しています。

歳入については１２ページです。

一般会計繰入金１３０万７，０００円を計上しています。

以上で説明を終わります。御議決いただきますようよろしくお願いします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。坂本君。

○１番（坂本　登君）　お願いします。

１３ページ、８の報償費が増えて、１３委託料が減ったのはなぜか、もう一度詳しく教えてください。本当にすみません。

○議長（藤井公明君）　迫本住民生活課長。

○住民生活課長（迫本文雄君）　先ほど、概略申し上げましたけど、現在、報償費の方では、熊大からの先生をお願いしております。また、委託料では、へき地支援機構からの医師をお願いしております。その契約の中で、熊大の先生は単価が４時間当たり５万円となっております。また、へき地支援機構からの医師につきましては、４時間当たり３万１，５００円となっております。この差によるものが大きな原因でございます。

以上です。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１２番（川尻成美君）　私は、システムのことを聞きますけれども、要するに熊大からの臨時の派遣というのは、そういう週１、２であったのが、月１とかいう、それは分かりますけれども、要するに常駐はしているんだけれども、１年通してのそこの施設の所長的な医師というのはいないということで理解をしておりますけれども、この臨時の医師ですよね、熊大から来るときダブるのか、来るときは２人になられるのか、このときはほかの臨時の医師はいないとか、そういうシステムになっているんですかね。どこからの医師がそこに行かれるのか、その点が具体的になるかと思いますが、いかがですか、お答えください。

○議長（藤井公明君）　迫本住民生活課長。

○住民生活課長（迫本文雄君）　お答えします。

現在、吉尾診療所の診療時間といいますか、これが週３日となっております。火曜日、木曜日、土曜日でございます。火曜日につきましては、熊大からの先生をお願いしております。木曜日につきましてが、先ほど言いましたように、熊大からの

先生とへき地支援機構からの先生になります。これが月に、へき地支援機構からが月に１回ないし２回ということで、残りは熊大の先生ということになります。それと、土曜日につきましては、地元の松本先生をお願いしているところでございます。

以上です。

○議長（藤井公明君）　ほかにありませんか。前田君。

○８番（前田徹一君）　吉尾診療所はなくてはならないところだというふうに理解しておりますけれども、今後ですね、常駐の医師の見通しとか、そういうのがあったらですね、お知らせいただきたいと思います。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　願わくばですね、そういうことでと思って今日まで来ておりますが、なかなか難しい状況でありまして、ご存じ、全国的に医師不足、特にまたへき地には行く人が少ないということでございまして、必死の思いでですね、私どもも対応を考えてまいりましたが、今現在の形になっておるところでございます。なるだけ安定的に地域医療が実施できるように、今後とも努力をしてまいりたいと思います。

○議長（藤井公明君）　ほかにありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第２４号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２４号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第８　議案第２５号　芦北町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（藤井公明君）　日程第８、議案第２５号「芦北町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。井川総務課長。

○総務課長（井川良一君）　議案第２５号、芦北町職員の勤務時間、休暇等に関する条

例の一部を改正する条例の制定について御説明申し上げます。

今回の改正につきましては、育児休業、介護休業等、育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の一部改正が平成２２年６月３０日から施行されることに伴い、必要な改正を行うものでございます。

改正の内容につきましては、育児または介護を行う職員の深夜勤務及び時間外勤務の制限についての規定である第９条に、第２項として新たに、３歳未満の子を養育する職員が、深夜勤務及び時間外勤務の制限を請求した場合は、時間外勤務をさせてはならない旨の規定を追加するものです。

ただし、災害その他避けることのできない事由に基づく臨時の勤務を除くものであります。

なお、附則において、本改正条例は平成２２年６月３０日から施行し、経過措置として改正後の第９条第２項または第３項の規定による請求については、この条例の施行の日前においても規則の定めるところによりできるものと定めております。

以上、御説明いたしました。よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第２５号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２５号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第９　議案第２６号　芦北町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（藤井公明君）　日程第９、議案第２６号「芦北町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。井川総務課長。

○総務課長（井川良一君）　議案第２６号、芦北町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について御説明申し上げます。

今回の改正につきましては、地方公務員法の育児休業等に関する法律の一部改正が平成２２年６月３０日から施行されること伴い、必要な改正を行うものです。

改正の内容ですが、第２条に規定する育児休業することができない職員から、第１号非常勤職員、第２号臨時的に任用される職員、第５号育児休業により養育しようとする子について、配偶者が育児休業法その他の法律により育児休業している職員及び第６号前項に掲げる職員のほか、職員が育児休業法により養育しようとしている子を当該職員以外の当該子の親が常態として養育することができる場合における当該職員を削り、配偶者が育児休業中の職員または配偶者が専業主婦である職員であっても育児休業をすることができるとするものです。

次に、第２条の２として、新たに育児休業法第２条第１項但し書きの人事院規則で定める期間を基準として条例で定める期間は５７日間とする規定を追加するものです。このことにより、これまで育児休業の所得は原則１回であり、特別の事情がある場合を除き、再び育児休業することができなかったものが、子の出生の日から５７日間、出生の日プラスの産後８週間の期間内に最初の育児休業した職員は、特別の事情がなくても再び育児休業をすることができることになります。

次に、第３条についてですが、これまで再度の育児休業することができる特別な事情について定めていたものを、育児休業法第２条第１項但し書きの条例に定める特別の事情について定めるものとし、同条第４号等の改正により、これまで育児休業等計画書を任命権者に提出したものは、夫婦が交互にそれをそれぞれ３カ月以上育児休業する場合には、再度、育児休業することができるとしていたものを、育児休業等計画書を任命権者に提出した者は、夫婦が交互に育児休業したかどうかに関わらず、最初の育児休業をした後、３カ月以上経過した場合は、再度育児休業することができるとするものです。

次に、第５条に規定する育児休業の取消理由のうち、第１号職員が育児休業により養育している子を当該職員以外の当該子の親が常態として養育することができるとなったときを削り、配偶者が常態としてその子を養育することができるとなっても、育児休業の取消事由にはあたらないとするものです。

次に、第９条に規定する育児短時間勤務をすることができない職員から、第１号非常勤職員、第２号臨時的に任用される職員、第５号育児短時間勤務育児休業法、第１０条第１項に規定する育児短時間勤務をいう、以下同じをすることにより、養育しようとする子について、配偶者が育児休業法その他の法律により育児休業している職員及び第６号前項に掲げる職員のほか、職員が育児短時間勤務をすることにより、養育しようとする時間において、育児短時間勤務をすることにより、養育しようとする子を当該職員以外の当該子の親が養育することができる場合における当

該職員を削り、配偶者が育児休業中の職員または配偶者が専業主婦である職員であっても、育児短時間勤務をすることができるものです。

次に、第１０条育児短時間勤務の終了の翌日から起算して１年を経過しない場合に、育児短時間勤務をすることができる特別の事情について、第５号等の改正により、これまで夫婦が交互にそれぞれの３カ月以上育児短時間勤務をする場合には、再度、育児短時間勤務をすることができるとしていたものを、夫婦が交互に育児短時間勤務をしたかどうかに関わらず、最初の育児短時間勤務をした後、３カ月以上経過した場合は、再度の育児短時間勤務をすることができるとするものです。

次に、第１３条に規定する育児短時間勤務の承認の取消事由のうち、第１号職員が育児短時間勤務により養育している子を、当該育児短時間勤務をすることにより、養育している時間に当該職員以外の当該子の親が養育することとなったときを削り、配偶者が常態としてその子を養育することができることになっても、育児短時間勤務の取消事由にはあたらないとするものです。

最後に、第１７条部分休業することができない職員については、同条各号をすべて削り、育児休業法第１９条第１項の条例で定める職員は、育児短時間勤務または育児休業法第１７条の規定による短時間勤務をしている職員とするに改め、配偶者が育児休業中の職員または配偶者が専業主婦である職員であっても、部分休業することができるとするものです。

第１８条については、条文の整備を行うものです。

なお、附則において、この条例は平成２２年６月３０日から施行し、経過措置として改正前の条例第３条第４号または第１０条第５号の規定により、職員が申し出た育児休業等計画は、それぞれ改正後の条例第３条第４号または第１０条第５号の規定により申し出た計画とみなすこととしています。

以上、説明しました。よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。川尻君。

○１２番（川尻成美君）　今現在、これに該当して、育児休暇をしておられる方はおられるんですか。いかがですか。

○議長（藤井公明君）　井川総務課長。

○総務課長（井川良一君）　はい。人数はですね、ちょっと今資料がありませんけれども、おられます、ただいまですね。

○議長（藤井公明君）　ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第２６号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２６号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１０　議案第２７号　芦北町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（藤井公明君）　日程第１０、議案第２７号「芦北町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。迫本住民生活課長。

○住民生活課長（迫本文雄君）　議案第２７号、芦北町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について御説明申し上げます。

今回の改正は、国民健康保険法の一部改正により、条文整理が行われたので、本条例の第８条第１項中、法第７２条の号、法第７２条の４に改めるものです。

附則、この条例は公布の日から施行し、平成２２年５月１９日から適用するものです。

以上で説明を終わります。御議決いただきますようよろしくお願いします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第２７号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２７号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１１　議案第２８号　熊本県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更について

○議長（藤井公明君）　日程第１１、議案第２８号「熊本県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更について」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。迫本住民生活課長。

○住民生活課長（迫本文雄君）　議案第２８号、熊本県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更について御説明申し上げます。

今回の規約変更につきましては、３つのポイントがあります。まずはじめに、議員定数については、現行では市長、町村長、市議会議員、町村議会議員から、それぞれ各８名の計３２名となっていますが、構成団体の４５市町村が責任をもって運営に直接関与するために、広域連合の議員定数を３２人から４５人とするものです。

次に、議員選出方法については、現行では団体推薦と個人推薦により選出していますが、構成市町村の長及び議会の議員のうちから各構成市町村の議会において１名を選挙するものです。

最後に、議員の任期については、現行２年でありますが、各市町村議会から選出することで、当該構成市町村の長または議会の議員としての任期とするものです。

附則、１項で施行期日を、２項から４項で経過措置をうたっています。

以上で説明を終わります。御議決いただきますようよろしくお願いします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。坂本君。

○１番（坂本　登君）　３２人から４５人に改める、これはいいことだと思うんですけど、ちょっとお聞きしたいんです。第８条に、長及び議会の議員のうちから１人を選出するということで、現在ですね、この３２人の中に市町村長、市長を含め何人おられて、議会でその市町村長というのは、本当に忙しい方ばかりだと思うんです。それで、議会が運営がですね、スムーズにいくのか、途中退席だとか、欠席だとか、そういう形がないのか教えてください。よろしくお願いします。

○議長（藤井公明君）　迫本住民生活課長。

○住民生活課長（迫本文雄君）　３２人の市長、町長ですけど、ちょっと数えますので、少し時間をください。

３２人中１５人が市町村長でございます。

○議長（藤井公明君）　坂本君。

○１番（坂本　登君）　この広域連合には、日本共産党の２名の方が属しているわけですけれども、今、市町村長は１５人ということで、忙しい身で全員が代理ないし、そういう形で開かれるという形があったら、もう過半数を少し、２名だけ、１７人

が、１５名が代理という形ですね。こういう形で運営がなっていることについて、これでいいのかというふうな、ちょっと疑問をもったものですからお聞きしたんですが、そのへんのところを町長はもう本当に町の長として、この忙しい公務、そういう形でですね、ほかの市町村長のこの連合に対して、長が加わるということに対して、どういうお考えをもっていらっしゃいますか。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　この広域連合の会議においてはですね、極力、首長が選ばれた場合は、御本人が出席されておるようでありますよ。しかし、これは代理出席になりますと、議決権も多分ありませんしですね、代理出席はひょっとしたら認められるのかもしれませんけれども、まあ極力、もし推薦を受ければ、当人が極力出席して、意見とか思いを述べるべきだなあというふうに思います。

そしてまた、この３２名が４５人になったことは、坂本議員と同感であります。

○議長（藤井公明君）　迫本住民生活課長。

○住民生活課長（迫本文雄君）　すみません。付け加えておきます。先ほどの名簿につきましては、２２年４月１日現在のもので、当時、２名の欠員が出ていることを付け忘れましたので、付け加えさせていただきます。

○議長（藤井公明君）　坂本君。

○１番（坂本　登君）　町長及び市長は、本当忙しいということで、代理が出ることもあるということでしたけれども、なるだけですね、そういう本人が出席するようにという町長からの話もありましたので、そこがちょっと疑問に思ったものですから、やっぱり選ばれし人は本人がこういうことには行くというのが、やっぱり一番この基本になっていることなので、もう一番町の長、市長というのは忙しい方なので、その人が入ってるというのが、ちょっと自分で分からなかったものですからお聞きしました。どうもありがとうございました。

○議長（藤井公明君）　ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第２８号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２８号は原案のとお

り可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１２　議案第２９号　芦北町立公園条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（藤井公明君）　日程第１２、議案第２９号「芦北町立公園条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　議案第２９号、芦北町立公園条例の一部を改正する条例の制定についてを御説明申し上げます。

提案理由に記載のとおり、湯北地区排水ポンプ場を建設することに伴い、元屋敷児童公園を廃止し、表を改めるものでございます。芦北町立公園条例別表を次のように改め、元屋敷児童公園の項目を削ります。

附則で、この条例は公布の日から施行することといたします。

以上で説明を終わります。御議決のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第２９号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２９号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１３　議案第３０号　芦北町営住宅管理条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（藤井公明君）　日程第１３、議案第３０号「芦北町営住宅管理条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　議案第３０号、芦北町営住宅管理条例の一部を改正する条例の制定についてを説明いたします。

空き家になった町営住宅を用途廃止するため、芦北町営住宅管理条例別表その１

中、一番左の列から建設年度、昭和３９年度、構造別、木造平屋建、団地名、広瀬１、芦北町大字宮崎７６番地２までは変わらず、戸数９を８にするものでございます。

附則、この条例は公布の日から施行する。

なお、提案理由は記載のとおりでございます。

以上で説明を終わります。御議決のほど、よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第３０号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３０号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１４　議案第３１号　町道の路線認定について

○議長（藤井公明君）　日程第１４、議案第３１号「町道の路線認定について」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　議案第３１号、町道の路線認定についてを説明いたします。

新たな町道建設計画にあたり、認定の御承認をお願いするものです。

中程の表をご覧ください。

路線番号４０７、路線名、佐敷駅通り２号線、起点が大字花岡字御側開、終点が大字花岡字御側開であります。

位置図を２ページに添付しておりますので御参照ください。

なお、提案理由につきましては、記載のとおりでございます。

御議決のほど、よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第３１号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３１号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１５　議案第３２号　工事請負契約の変更について

○議長（藤井公明君）　日程第１５、議案第３２号「工事請負契約の変更について」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　議案第３２号、工事請負契約の変更について御説明いたします。

平成２１年１１月３０日議決いただきました湯北都市下水路ポンプ場土木工事請負契約のうち、契約金額１億５，７１８万５，０００円を１億６，１９４万９５４円に変更するものであります。

この変更の理由につきましては、当初設計では仮設工として設置する鋼矢板すべてを撤去する予定でございましたが、現場隣接の道路に沈下が見られます。そのため、このまま矢板を撤去いたしますと、さらに沈下が拡大し、道路を挟んだ民間アパートへの影響も考えられるため、道路及びアパートに近い部分の矢板を購入し、泥目材として土中に残す工法に変更するものです。また、沈下した道路についても原形復旧を行います。

なお、工期につきましても延長を行います。

以上で説明を終わります。御議決のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。川尻君。

○１２番（川尻成美君）　当初よりも７７５万円ぐらい増加しておりますが、これについてはやっぱり工事に対する住宅が密集しているということで、非常に工事を進捗する場合の住民との交渉事等、難儀されておるのは知っておりますし、今工事中でありまして、その際の苦情等もあるというふうな感じであります。よって、詳細に

申しますと、矢板を抜かずに、そのまま置かんと、抜いて盛り替えの際に地盤沈下して家が傾くとか、そういう条件だというふうに思いますけれども、今後ですよ、住民との折衝の中でですね、当初、現況をどのように把握されて、この交渉を工事の度に住宅にですね、支障が起きたりとかいう苦情が出た場合の補償とかも難航する場合もあろうと思います。だから、その方の具体的な最初の取りかかりの状況等はどう把握されて、今の状況におるのか、非常に最初の取りかかりでですね、安易にしておきますと、完成してからのいろいろな苦情とかが非常に山積するんじゃないかなという懸念ももたんわけじゃありませんけれども、スムーズにいってもらいたいなという思いからですね、お聞きしますけれども、いかがでしょうか。

○議長（藤井公明君）　竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　この工法につきましては、特に地質調査につきましては、県の共通仕様書に準じております。その際には必要最低限２カ所ということで、こちらの方は守っております。

ただし、その結果、実際、矢板を打つときになって、こういう問題が発生し、また間があいたと、住宅と道路があいたということが発生しましたので、また地元の方には再度、説明申し上げ、御理解をいただきたいと思います。

それから、当初から、１９年度から始めておりますけれども、地区住民への説明、あるいは最初は区長への説明あたりを４回ほど行っておりまして、一応の現在までの御理解は得ているものと考えておりますけれども、今後もまた施工方法の変更については、説明をいたしたいと考えております。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１２番（川尻成美君）　それで、今、道路が閉鎖されておりますよね。賃貸住宅ですので、駐車場に入られないところがあるでしょう。それは町で用意して、駐車場を準備しているんですかね。どんなですか。

○議長（藤井公明君）　竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　閉鎖している通路につきましては、約５０メーターぐらいかと思いますけれども、そこのオーナーの方と話をして、そのへんの地区内にオーナーの方も土地がございますものですから、そちらの方で、町の方でも準備しますということで申し上げましたけれども、今のところでは御自分の土地で済まされておるような状況でございます。

○議長（藤井公明君）　前田君。

○８番（前田徹一君）　関連しますけれども、２点ほど。

当初の工期と、また延長になったと言われましたけれども、どのくらいの延長期間かということと、こういう公共工事、いろんな工事を含めまして、やっぱり地元

の理解が一番かというふうに思います。ですけれども、ご存じのとおり、かなり私も苦情等聞いております。昼間はですね、通行止めになっておりますけれども、夜間、この前、４、５人で私、それを見に行ったわけじゃないんですけれども、通ったらですね、個人の家の庭先を通ってというところがございましたので、恐らくそれも含めてですね、苦情があったんじゃないかなと思いますが、今後のですね、そういうものに対しての対応をどうしておられるか、またどうされていかれるのかを伺いたいと思います。

○議長（藤井公明君）　竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　まず、第１点目の工期延期でございますが、当初予定では２１年の１２月１日から２２年８月２７日までを予定しておりました。変更後は、２１年１２月１日から２２年１０月２７日までを予定しております。

それから、通行止めの件でございますけれども、工事の関係で町道に配水管を埋設するという工法が一部ございますので、そこにつきましては、工事期間につきましては、どうしても全面通行止めということになります。したがいまして、その迂回路を図示するとか、付近に看板を立てるとか、そういうことで御理解と御協力をお願いしているものでございます。

○議長（藤井公明君）　ほかに質疑はありませんか。坂本君。

○１番（坂本　登君）　工法による金額のアップということですが、もう先ほども安全面に問題はないのか、それと増えることに関して何も言うつもりはありません。それと、あそこはもう住宅密集地ですし、防音ですね、そういう対策は見る限りないように思うんですが、住民のそういう音に対するですね、対策はないのか、それと時間帯ですね、きっちり１７時で終わっているのか。例えば、今はもう７時ぐらいまで明るいわけですね。そういうので６時、７時まで工事を続けているのか、そういった近くの住民に対する安全ないしは、その騒音に対する対処ができているのか教えてください。

○議長（藤井公明君）　竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　安全面につきましては、十分注意を考えるところで対応しているつもりでございます。

それから、防音対策につきましては、重機とかについて騒音対応の重機を使っております。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　坂本君。

○１番（坂本　登君）　防護壁をするとか、そういった考えは一切ありませんか。

○議長（藤井公明君）　竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　目隠しというのでございまして、防護壁、防音壁とかの、現在の計画は考えておりません。

○議長（藤井公明君）　坂本君。

○１番（坂本　登君）　住民からの騒音に対する苦情等がないのであればですね、もしあれば、そういうこの音に対することとか、防護壁によって跳ね石だとか、飛び石ですね、そういったのもちょっとしたことでも窓のガラスが割れたとか、そういった危険性もないとはいえないと思うんですね。だから、そのへんも考慮して、今後考えていただきたいなと、大きな工事ですので、何があるか分かりませんので、その地域住民、近くの人たちのですね、生活をまず第一に考えて、工事をしていただきたいなと思います。ありがとうございます。

○議長（藤井公明君）　竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　先ほどの質問の中で、時間外工事についてのお問い合わせがございました。失礼しました。時間外工事につきましては、努めて夜間には入らないようにということで考えておりますけれども、工事の内容については、また今後も若干延びる場合もございますので、そのときには付近住民の方にも説明して御理解をいただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第３２号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３２号は原案のとおり可決されました。

ここで議案を配布しますので、しばらくお待ちください。

［議案配布］

○議長（藤井公明君）　配布漏れはありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　配布漏れなしと認めます。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１６　諮問第２号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて

○議長（藤井公明君）　日程第１６、諮問第２号「人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて」を議題とします。

本案について説明を求めます。竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　諮問第２号、人権擁護委員に次の者を推薦したいので、議会の意見を求めるものでございます。

住所、熊本県葦北郡芦北町大字箙瀬２１９番地、氏名、瀬口明。

この件につきましては、前任者の辞任によりまして、法務大臣に後任者の候補者として推薦するために、当議会に提案させていただくものであります。

瀬口明氏でございますが、温厚にして篤実な人柄は、町民からの信望も厚く、人権擁護委員に最適な人材と認め、ここに議会の意見を求めるものでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから諮問第２号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり答申することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、諮問第２号は原案のとおり答申することに決定しました。

議案を配布します。しばらくお待ちください。

［議案配布］

○議長（藤井公明君）　配布漏れはありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　配布漏れなしと認めます。

－－－－－－－○－－－－－－－

日程第１７　諮問第３号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて

○議長（藤井公明君）　日程第１７、諮問第３号「人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて」を議題とします。

本案について説明を求めます。竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　諮問第３号、人権擁護委員に次の者を推薦したく、議会の意見を求めるものでございます。

氏名、熊本県葦北郡芦北町大字花岡２０２番地、氏名、梅田安子。

この件につきましては、平成２２年９月３０日に任期満了となるものでございまして、法務大臣に候補者として推薦するため、当議会に提案させていただくものであります。

梅田安子氏でございますが、平成１３年９月から法務大臣に人権擁護委員として委嘱され、現在３期目でございます。温厚にして篤実な人柄は、町民からの信望も厚く、また豊富な行政経験は人権擁護委員に最適な人材と認め、ここに議会の意見を求めるものでございます。

よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。草野君。

○７番（草野安道君）　別に指名等で推薦については問題ありませんけれども、これは記録されるわけですが、今、住所のところをですね、町長が氏名と言われましたので、訂正の方をした方がいいんじゃないかと思って、一応意見を申し上げます。

以上です。

○議長（藤井公明君）　一応、町長の方から訂正を求めます。竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　はい。訂正を申し上げます。住所、熊本県葦北郡芦北町大字花岡２０２番地でございます。お詫びして訂正申し上げます。

○議長（藤井公明君）　ほかに質疑ございませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから諮問第３号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり答申することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、諮問第３号は原案のとおり答申することに決定しました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１８　発議第５号　選択的夫婦別姓制度法制化に反対する意見書案

○議長（藤井公明君）　日程第１８、発議第５号「選択的夫婦別姓制度法制化に反対す

る意見書案」を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。元山君。

○９番（元山秀志君）　発議第５号、選択的夫婦別姓制度法制化に反対する意見書案について、提案理由を申し上げます。

国は、夫婦が同姓、別姓を選べる選択的夫婦別姓制度の民法改正案の概要を示しています。

しかし、この夫婦別姓法案は、選択的ではあるが、祖先から守り受け継がれた夫婦一体となった家族制度、良き伝統を壊していくことにつながると懸念されます。

夫婦が姓を同じにすることが基盤となり、夫婦、親族、生まれてくる子どもとの絆となり、一体感ある家庭が生まれ、家族の一員としての意識、愛、思いやりの心が深いものとなり、地域の貢献へと広がると思われます。

よって、選択的夫婦別姓の導入は、家族の一体感や絆を損ね、その崩壊を助長するものであるため、法制化に反対し、意見書を提出するものです。

議員各位におかれましては、御審議の上、意見書提出に御賛同いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから発議第５号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、発議第５号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１９　議員派遣の件

○議長（藤井公明君）　日程第１９「議員派遣の件」を議題とします。

お諮りします。

議員派遣の件については、地方自治法第１００条及び会議規則第１１７条の規定により、お手元に配付のとおり派遣したいと思います。御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議員派遣の件はお手元に配付のとおり派遣することに決定しました。

議員派遣につきましては、やむを得ず目的先、期間及び派遣議員について変更を生じる場合には、議長一任を願いたいと思います。御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議長一任することに決定しました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第２０　総務常任委員会の閉会中の継続審査及び特定事件（所管事務）調査の申出

日程第２１　建設経済常任委員会の閉会中の継続審査及び特定事件（所管事務）調査の申出

日程第２２　文教厚生常任委員会の閉会中の継続審査及び特定事件（所管事務）調査の申出

日程第２３　議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申出

○議長（藤井公明君）　日程第２０から日程第２３までの各委員会の閉会中の継続審査及び調査の申出を一括議題とします。

各常任委員長、議会運営委員長から、お手元に配付の申出書のとおり、閉会中の継続審査及び調査の申し出が提出されております。

お諮りします。

各委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査及び調査とすることに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、各委員長から申出書のとおり、閉会中の継続審査及び調査とすることに決定しました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

○議長（藤井公明君）　これで本日の日程はすべて終了しました。

会議を閉じます。

平成２２年第３回芦北町議会定例会を閉会します。

ご苦労さまでした。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

閉会　午後０時１３分

地方自治法第１２３条第２項の規定によりここに署名する。

芦北町議会議長

署名議員

署名議員